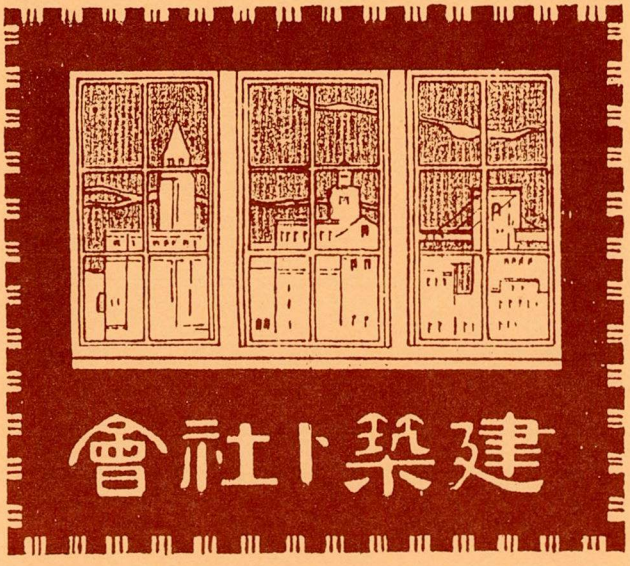


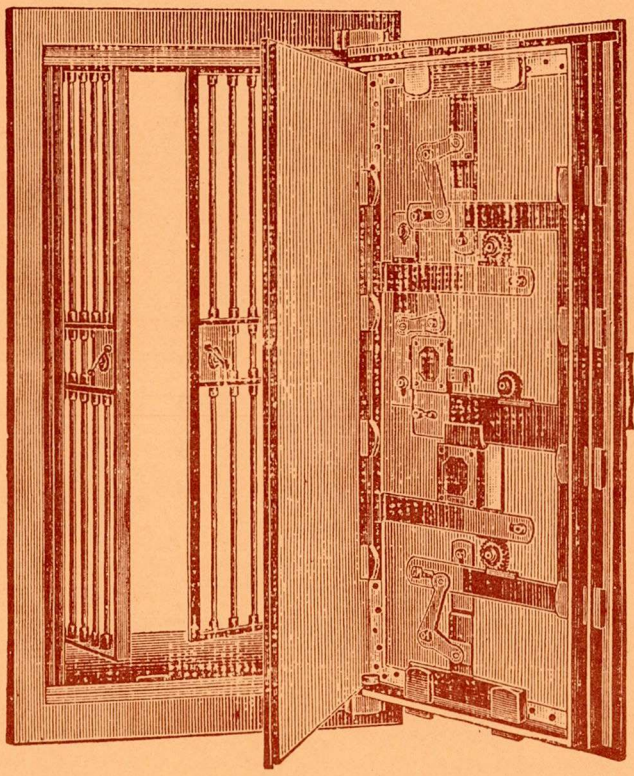
建築ト社會

第七輯第九号

日本建築協會

大正十三年九月一日

耐震
耐火 理想鐵扉の出現



金庫扉製造界の權威

大谷金庫店

店主　大谷榮之介
顧問工學博士　細木松之介
獨逸人技師　ア・シューハルト

營業所
東京市京橋區岡崎町二丁目
京都市松原通東洞院東入
大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
神戸市楠町六交叉點西

工場
東京第一工場　東京市京橋區佃島壹丁目
仝　第二工場　仝　深川區東元町
京都分工場　京都市松原通り大宮西入

▼現在ノ最大建築ニ使用サレ！

高級昇降機

エー・ビー・シー

最近御採用先御報告

丸ノ内ビルデンク	十一臺
日本郵船	八臺
日本興業銀行	四臺
中外商業新報社	一臺
特許局	一臺
阪急電鐵	一臺
泉尾土地會社	二臺
大學病院	二臺
松竹キネマ座	二臺
神戸商船ビルヂング	四臺
明治海運ビルヂング	四臺
淺野物産	一臺
村井銀行神戸支店	一臺
プラナモンド社	二臺
内田ビルヂング	三臺
明治屋	二臺
其ノ他	拾臺

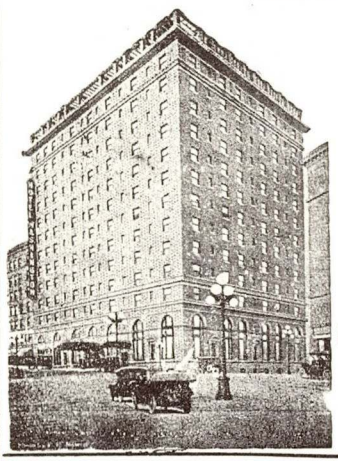
▼今後ノ高層建築ニ採用サレンコトヲ！

A.B.See!

ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISHED IN 1883

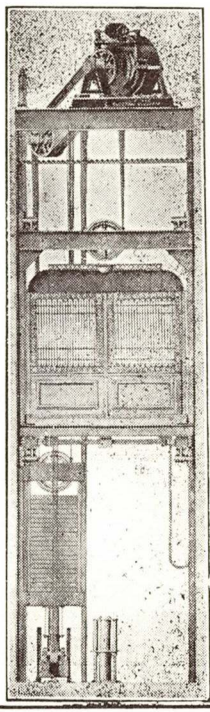


Esteemed enquiries solicited!

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪



建築と社會　第七輯第九號目次

口　繪　震災の回顧
　　新しき試みの簡易住宅

◆卷　頭……歴史は自らを創る

論　說

關東震火災の一週年に際して我國民の自覺を望む　日本建築協會副會頭　工學博士　片岡　安・二

『光は東方から』
―震災の所産たる建築樣式　工學博士　武田五一・四

復興東京の根本問題と震災の追憶　楠原祖一郎・七

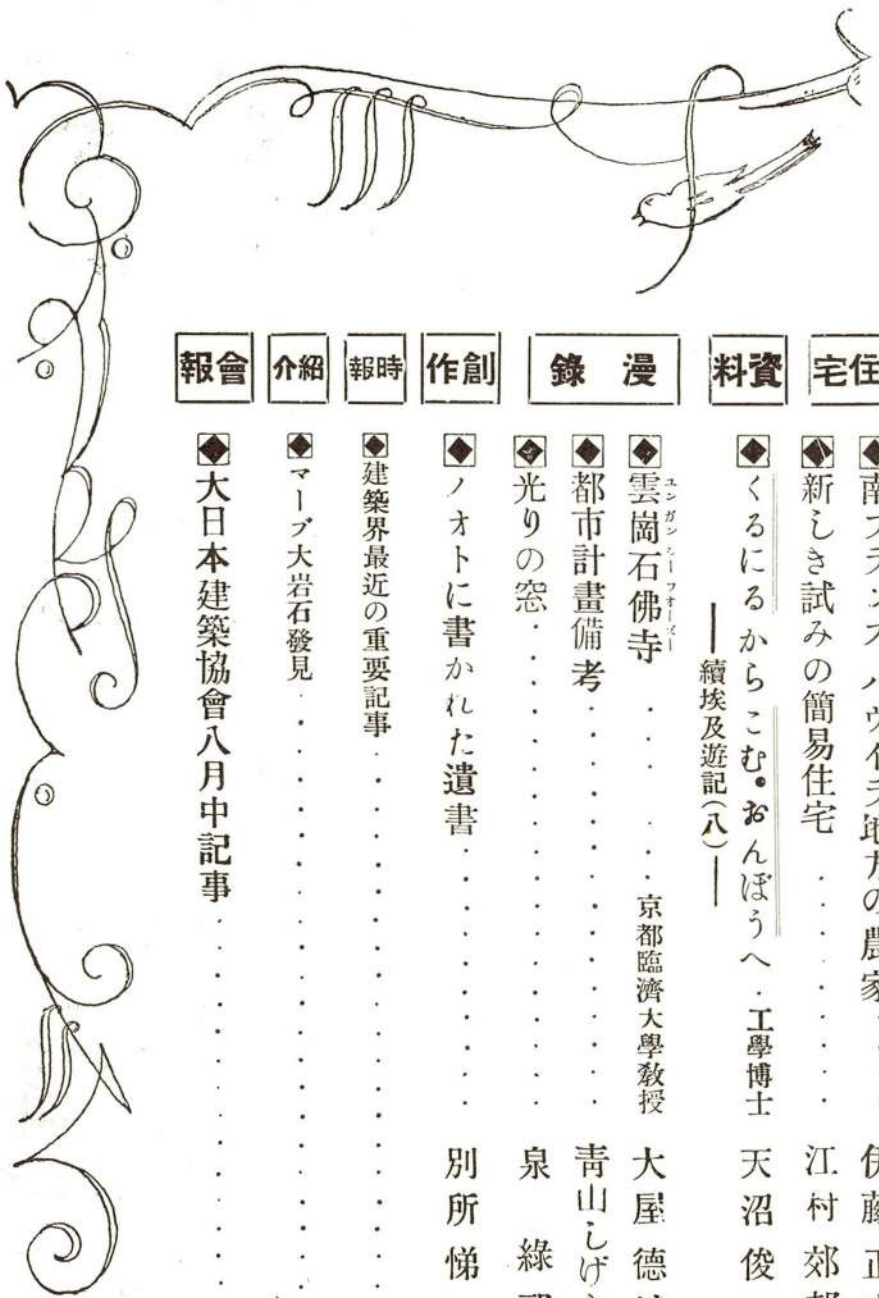
國民は覺めたるか
（震災を豫想して）　法學士　大須賀巖・一〇

街路の擴築と慘害の緩和　大阪市長　法學博士　關一・一五

大阪市防火計畫私案　大阪府消防課長　島崎孝彥・一〇

變災と救療設備　大阪府衛生課長　上村行彰・一三

大火災の危難を伏藏する我大阪市　土井末吉・一六



住宅

◆南フランス ハヴイラ地方の農家 …… 伊藤正文・四一

資料

◆新しき試みの簡易住宅 …… 江村郊邨・四九

漫錄

◆くるにるからこむ・おんぼうへ ——續埃及遊記(八)—— …… 工學博士 天沼俊一・五五
◆雲崗石佛寺(ユンガンシーフオーズー) …… 京都臨濟大學教授 大屋德城・六五
◆都市計畫備考 …… 青山しげき・七〇
◆光りの窓 …… 泉緑郎・七五

創作

◆ノオトに書かれた遺書 …… 別所悌一・八〇

時報

◆建築界最近の重要記事 …… 九二

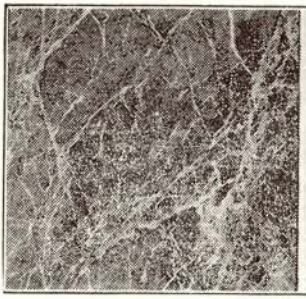
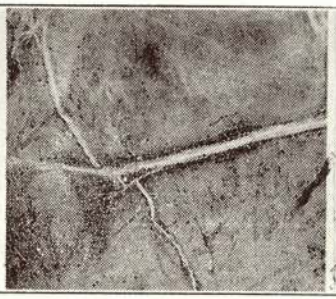
紹介

◆マーブ大岩石發見 …… 九八

會報

◆大日本建築協會八月中記事 …… 一〇一

大和錦 (A)　　白瀧 (A)　　白瀧 (B)


錆色青磁色ニ白模様　　薄青磁色ニ濃青磁色並ニ白模様　　青磁色ニ白模様

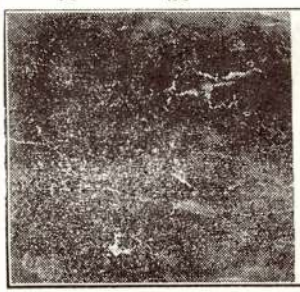
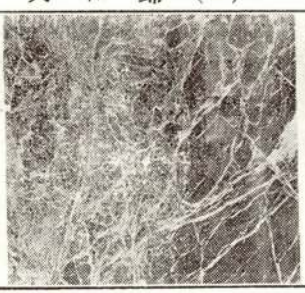
採掘地　鳥取縣八頭郡若櫻町字赤松
本店　鳥取市立川町一丁目
大阪販賣店　大阪市北區芝田町一〇六番地電話北一六七〇
東京販賣店　東京市日本橋區小網町三丁目二十四番地

旭大理石商會

蛇紋石

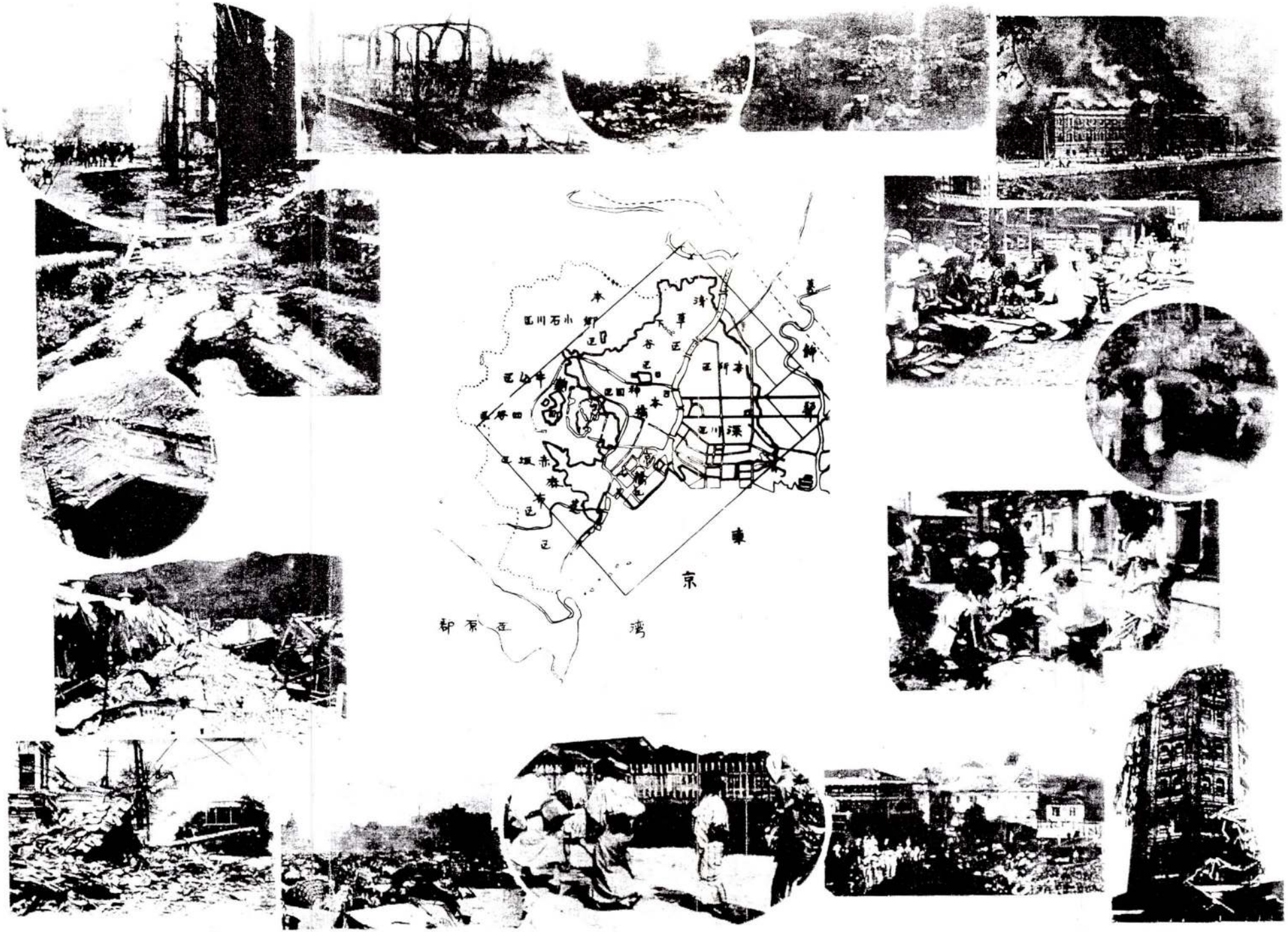
礦量豐富　大材採取
耐火　耐酸　價格低廉

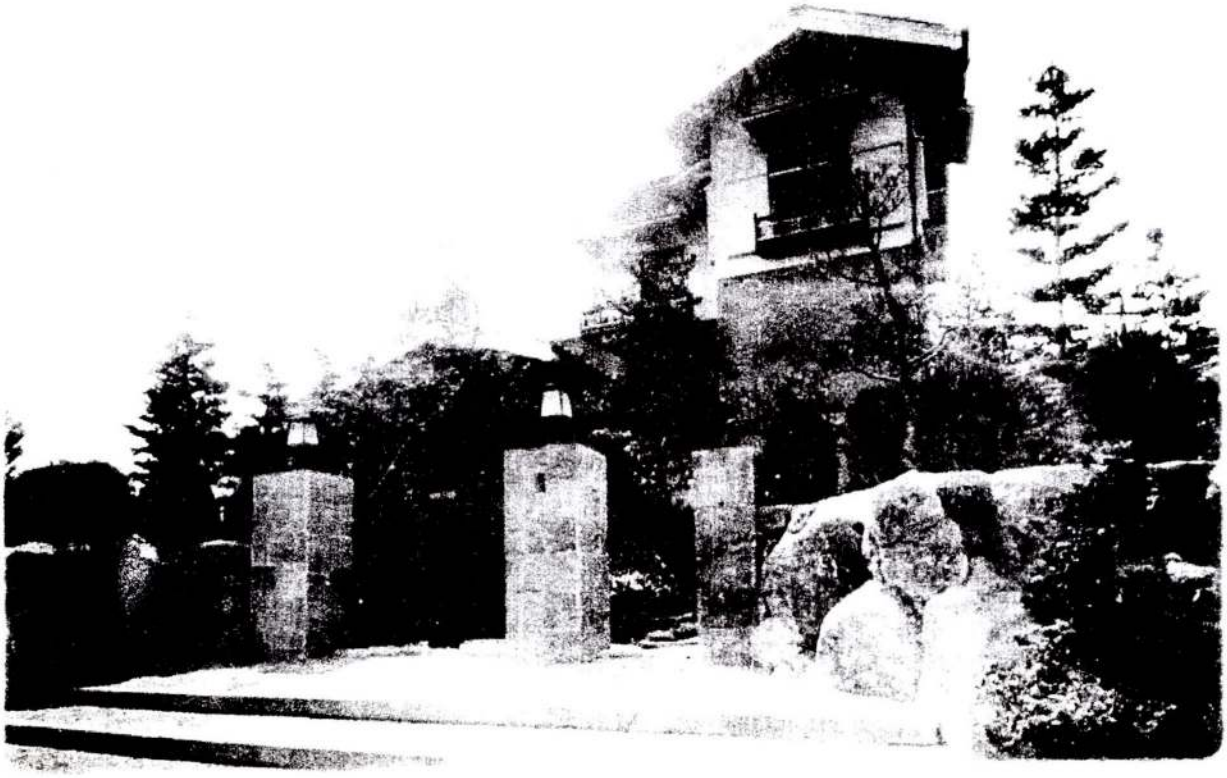
若櫻　　大和錦 (A)　　若櫻


濃青磁色ニ朱色模様　　錆色青磁色ニ白模様　　濃青磁色ニ朱色模様

憶 九 月 一 日 午 前 十 一 時 五 十 八 分 !

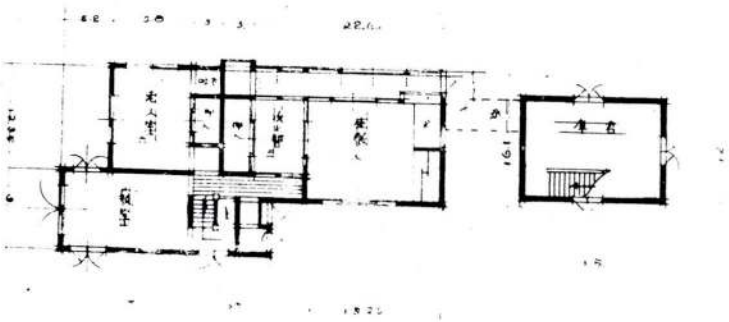




新しい試みの簡易住宅——青山秀吉氏新邸　（記事参照）

（大阪市外阪急箕面線風川）





(二　の　其)

『建築と社會』表紙圖案懸賞募集規程

（一）題　字　建築と社會、第八輯第壹號、日本建築協會　大正十四年一月一日ト適當ニ配列記載スルコト（從來「建築ト社會」の「ト」を「と」に改む）

（二）寸　法　四六倍版　竪二五糎　日本約八寸二分五厘）　横一九糎（同約六寸二分七厘）

（三）着　色　二色（紙地色ノ外

（四）圖　面　原圖紙ヲ用ヒ、現寸トス

（五）意　匠　隨意ナルモ　本誌ノ特質ヲ表現スルニ足ルモノトヌ

（六）賞　金　一等一人壹百圓、二等一人五拾圓、三等二人貳拾圓ヅツ

（七）期　日　本年十月三十一日午後五時迄ニ當事務所へ到達スルヲ要ス、但シ郵便送附ノモノハ同日發送ノ消印アルモノニ限リ審査開始マデ受附ク

（八）版　權　當選セル圖案ノ版權ハ當協會ノ所有トス

（九）審　査　當協會ノ理事會ガ依囑シタル特別審査員ノ合議ニ依リテ當選ヲ決ス

（十）符　號　圖面ニハ適當ノ符號ヲ附シ別ニ符號住所及氏名ヲ記入セル半紙四ツ切リノモノヲ封書ニテ差出スコト

（十一）發　表　審査ノ結果ハ當協會大正十三年十二月例會ニ於テ發表シ賞金ヲ授與ス

（十二）圖　案　應募シタル圖案ハ返却セズ

當協會發行の雜誌「建築ト社會」は、時世の進展に伴ひ、內容外觀共に堅實なる發達を遂げ來りまして、今や我國に於ける斯の種刊行物としては、常に第一位に在ることの自他共に相容すに到りましたことは、會員各位と倶に同慶の到りに存じます。就いては、益々斯の機運に隨調するため諸種の案件を有つて居りますが、先づ以て、取り敢へず本誌を來る大正十四年一月號より**四六倍版**に改定し、茲に更めて躍進の第一歩を附けむと致して居ります。仍て、それに相當する表紙圖案を弘く募集することに致しましたから、別記御熟覽の上御應募被下いますやうお願ひ致します。

大正十三年九月

大阪市北區堂島濱通一丁目堂島ビルデイング三階

日本建築協會



歴史は絶へず自らを創つて居ります。その一つ々々に個性があり、そのどれもが絶對であります ——歴史は繰り循す、そんな事は比喩に過ぎません。「永劫から永劫に流れ往く人生は、いつも絶へざる新しい個性の連續とも謂へます。大正十二年九月一日午前十一時五十八分そのものは永劫に去つてしまひました。大震災の事實はその瞬間に於て竭きせないタイムの流れが後つて往きました。けれども、大正十三年九月一日午前十一時五十八分といふ知覺は、過去を同類型に否やでも應でも押し籠めれば措きません。ですから、大震災一週年を紀念することは無意味であつて有意義であります。——本誌には斯うした紀念の意味からして、震災に關する記事を多く載せました。……(郊邨)



關東震火災の一週年に際して我國民の自覺を望む

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

歲月は人を待たず、我が國未曾有の大震火災の瘡痍未だ其の幾分をも回復し得ざるに、はやその一週年を迎ふるに至りしは如何にも吾人の腐甲斐なきを思はしめる。素より一ヶ年の日子は〻之を五十年百年を以て其變遷を知る社會相より見れば實に短小論ずるに足らぬものであるけれども、異常の災厄に遭遇せる際極度の奮闘努力をなし以て其回復改善を計る時に於ては之を相當有力の期間とせねばならぬ。而して我國民は此緊切重要なる期間に如何なる事を爲したか、又如何なる計畫を立てたかを見るとき、吾人は我國民性の餘りに超物質的にして殊に改造力と創建力に乏しきを嘆せざるを得ない。

昨年の關東大震火災は我國民に何を誨へたかに就いては本誌に數次之を論じた如く、我國の如き地震國に於ては、それに對する相當の準備をなすべく、殊に從來の如き可燃質建物の集團たる都市の大改造を急要とするのであつて、若しそれを實現し

得ざれば我國民の將來は到底文明國民としての存在を容さぬのである。故に帝都復興に於ては、先づ其計畫の根本をその點に置き、將來再び斯る恐ろしき大慘害を招かぬやうにせねばならぬのであつた。然るに何事ぞや、朝野の識者は罹災後の最も緊切なる一年間を有や無やの中に徒費して、未だ本建築の着手さへも出來ないのみならず、防火地區の制定も定まらざるに、罹災地一面のバラック建築は今や其面積二百萬坪に達せんとして居る。區劃整理の事業も其バラック建物を全部移動、切取又は變形せしめねば其實行不可能なる狀態にまで押し詰められ、其居住の市民が將來の不安と現狀の不幸を嘆ちつゝある を見ては寔に同情に禁へざるものがある。帝都復興に關する方策と其行政の澁滯は、實に近代に於ける一大恥辱であつて、又同時に非常な苦痛を將來に胎したものと見られて居る。從來我國の政治家や一般の先覺者は、文物制度の批判には相當の意見を吐くけれども、改造又は創建の事業に就いて適確なる立案をなし得る者は殆んど之を見ざるの狀態であつた。而して今回の帝都復興に際しては特に其缺陷を曝露したのである。國民の不幸實に之より大なるはない。

我國民は斯の不幸に鑑みて、從來の如き舊式政策立案者に我國民生活の大局處理を一任することを承認してはならぬ。宜しく斯の缺陷に目覺めて眞實の改造を攻究し、適確なる創建の態度に進展するにあらざれば、何時まで待つても、我國の非科學的時代遲れの文化狀態を、現代的の眞實の文化生活に轉換することは出來ぬではないか。本所の被服廠跡に弔魂堂を建てゝ見たり、國民が一齊に其不幸の一周忌に默禱をやつて見たりした處で、何の記念となるのであるか。吾人は斯る過去の惡夢を追想して念佛を唱ふるよりも、寧ろ、將來に生きることの積極的態度に覺醒せねばならぬのである。弔魂堂の建設や毎年一回の記念的の催し物も或は無意義ではないとしても、我國民生活の眞實の安固を期待するには餘りに無關係である。吾人の望むところは唯過去の追想や懷舊談ではなく、昨年の東都大震火災に鑑み、全國に亘りて一刻も早く堅實なる都市を建設して、以て國民生活の安定を計ることである。今後とても、震火に因る罹災は獨り東都に限つた譯ではなく、我國到る處凡て其可能率を有して居るのであるから、我國民は帝都の堅實なる復興を計ると同時に全國の都市に、亘りて一齊に將來遭遇の虞ある其慘害を輕減し得るやう適實なる改造を攻究し、その實現を期することに覺醒せねばならぬ。

『光は東方から』

――震災の所産たる建築様式――

工學博士　武田五一

（文責在記者＝郊邨）

『雪の日やあれも人の子樽拾ひ』――俳匠其角の句だが、吟詠と盃を遣る風流の世界にも、かじける指先きに温みの息を吹き掛けつゝ、雪途の惱みを忍びて酒樽集めの小僧ッ子も、同樣に雪を賞でべき人の子だ。其角逝いて二百載、今尙ほ斯の句に人の心を唆る新しきものがある。

燦金の暑下、トタン張の倭居に、いられるやうな苦熱を呪ひつゝ、過ぎし昔を惱むである東都罹災民も當に『あれも人の子』だ。帝都の復興とは、今の處、バラックの建ち列むだことと、『人の子』の喘ぎに秋風の立ち染めたこと位ひである。斯くて、最も強い、そして、最も弱い、頗るの智惠者であつて、甚だしき愚か者である『人間』のあたまと手の業ざが怎うであらうと、火星の訪れが何んであらうと、我等の大きな住ひは、幷麼事に頓着なく、あの慘ましい記錄を拵へた九月一日午前十一時五十八分といふ回歸線を辿つて、夙くも震災一週年を迎へた。

されど都も人も受けた瘡痍はまだ生々しい。假建てといふ繃帶に血の滲みをも覺へられる。その完く癒ゆるのは何時の事であらうか。けれども、焦け土の下から、復興の芽が萠へ出たやうに、斯うした裡にも、色々なものが產れて來た。その中に、我等の看逃し得ない一つは、少くとも、建築樣式に革新を來たした事である。若しも、後世に我建築史を編む者があつたならば、日本の建築樣式は、客秋の震災を以て當に一時紀を劃すとなすであらう。大正十三年は、斯の新時紀に入つたもので、震災前の樣式に對

して劃然と截別されたかの觀あるのは、日本の建築界に、一進展期を生むだものであつて、自分はそれを大層愉快に思ふてゐる。而も斯る傾向が記錄に識れる限りに於て、我震災史を曠ふする災禍の名殘りを留めるバラック建築から生れ出たのだから、一段と驚異に値する事實であると同時に、自分は其處に強い嬉し味を感じてゐる。

けれども、之と同時に、建築構造にも一段の研究と革新を來すべき大なる衝撃であり敎訓であつた。されど、所謂耐震的構造といふことは、所詮、治水と同樣の問題である。流域を附け替へ、堤防を築くには、氾濫史の示す量大水量から、幾割の大事を取るに過ぎない。耐震構造も、地震史の示す最大震度と建築の關係から演繹さるゝまでの事である。大自然は、幷麽事に局限さるゝほど力弱いものではあるまい。大自然は凡てに於て新しい記錄を拵へつゝある中に、地震の震度と災禍の程度に於ても、何時突如として空前の記錄を作るかも知れない。

けれども、人間の壽命の竭きと破壞的の地震は何れ來ると知りながら、誰かの歌にあるやうに『きのふけふとは思はざりけり』の嘆は人生の恒である。とは云へ、その來ることの適確に判らない處に、却つて人生の興味がある。曾ては、金星が地球とぶつ衝かる、地球と彗星が鉢合せをする、といふ天文界からの消息で、世間が可成り緊張したる當時を稽へてみても、それが、ほんとうに適確であるものならば、恐らく人生の興味の大半は亡くなつてしまうであらう。

されば、耐震的建築と云つても、所詮は、相對的なものに外ならない。科學者はよく自然の征服といふことを口にする。それはほんとうの事であつて、其處に人間の叡智的向上がある。けれども、向上と進化が無窮にして永劫のものである限り、自然の征服も同樣の線を辿るまでのことである。故に曰く、人間の科學的智識も、自然に對しては、何時までも相對的である。唯、質と量に於ての發展があるに過ぎない。

とは云ふものゝ、餘りに神經的になつて、美的欲求も、經濟的考慮も無視することは、殊に建築家に愼むで貰ひたい。我等は、斯る相對的の線上を辿りな乍も、地震襲來に備へる努力は常に緩めてはならない。――客秋の大震災が人心に與へた衝動は、爾來種々の方面に雜多な事相に於て現はれてゐるが、爾後の建築物を差當り耐震と耐火的の構造にする時機が、まだ幾らかの將來に控へてゐるにしても、建築の美的欲求を、斯の大衝撃によつて打ち壞はされたと思ひきや、赤裸々なるバラック建築に美的のそれがほの見へて、人心の萎縮を、少くとも建築に於て見ない處に心強さを覺ゆる。

近頃來朝した印度の詩聖タゴール翁は、亞細亞人の大亞細亞主義文化を高調して『光は東方より』と云つた。事は聊か奇嬌かも知れないが、日本に於ける建築の『新しい樣式は震災から』といふやうになるかも知れない。即ち、震災は建築樣式の一時紀であると同時に、その所産者である。バラック建築の樣式を徒らに奇嬌とする勿れ、斯うした背後には、將に日本の建築史に新時代を劃すべきものゝ動いてゐるを達觀しなければならぬ。（終）

最も高きに達する道途は、最も低き所に横はる（エマアソン）

復興東京の根本問題と震災の追憶

在東京　楠原祖一郎

本論構成の諸項目

一　緒言
二　土地區劃整理問題
三　復興の諸過程
四　復興政策論
五　結論

一　緒言

今や予は一九二四年九月を迎へんとしてゐる。一九二四年九月は、將に大震災當時を紀念りべき最初の日である。此時に當つて爲さるべき仕事の數多きを知るが、然し予の如きは、然かく何事をもなし得るものではない。當時の追憶は何人によつても、心ある人々の論議を引き起さしめ得る問題である。予の如きも日常よりよき都市の建設のために、日夜想を潜めて學問究窮の資ともしてゐるのである。只だそれだけの理由によつて、本論を執筆すると云ふよりも、予は今東京に居住し、現實に荒廢されたる都市を見、大都市當局が新都市を生み出さんとする惱みを見ては、日頃の考への上より見るも、一文を草するの要あるを思ひ、參考の資を蒐め得たるを幸ひに、大震災による東京復興の諸相を論じ、併せてかの恐るべき大事變を追憶するの情切なるものあり、予の心に浮べる此の紀念すべき日を見て、他事を放

拋するも先づ此の一大事實の突發をした、一九二三年九月を思ひ起し、予の感想を具體的の形に書き示したいと思ふ。

然し乍ら思ひ出すさへ、吾々は身の震へを感ぜずして息む能はざるものである。自然の暴威の前には人文科學の精髓も、あまりにあわれに其の誇りを奪ひ去られたであらう事實を見て、其の災害の程度が如何に尨大なるものなりしかを、大體偲ぶのも強ちに無意義でもあるまいと考へる。

今東京慘害の正確なる統計を見るに、燒失戸數三十一萬六千八十七戸にして、これが罹災市民實に、百三十五萬六千七百四十人に達してゐるのである。是れを大阪のそれに比するに、大阪市の全戸數三十三萬五千戸として見れば、殆んど其の九分五厘まで燃失し、人口を百三十萬人とすれば、其の全市民が罹災した以上の實數を出してゐるのである。只だ此の事實を述べただけでも、大阪市民は實に其の言ふ所を知らぬであらう。

今警視廳の調査により、是れが慘害程度を各區別に示せば左の如くである。

區別	燒失戸數	罹災者
麹町區	五、七九三	二九、四〇二
神田區	四六、〇七九	一七五、四二二
日本橋區	二六、〇二〇	一一五、九〇五
京橋區	二八、五九八	一三一、〇四〇
芝區	一五、六五八	七六、七二六
麻布區	九	四五
赤阪區	二、二七二	九、八三三

四ッ谷區	八七四	三、六八八
牛込區	四	不明
小石川區	九五六	四、六九四
本郷區	五、八九三	三二、七三六
下谷區	三三、五九五	一四五、三〇六
淺草區	五二、八八三	三六、二九〇
本所區	五五、三〇〇	二四〇、七八八
深川區	四一、八八八	一七四、八六七
計	三一六、〇八七	一、三五六、七四〇

右の表によつて示す如く、兎に角各區の中麻布、四谷、牛込、小石川等の高層地帶を殘して、麹町、神田、京橋等の下層地帶を初め本所、深川に至るまで、殆んど文字通り剩す所なく、猛火の爲に幾億の財産、幾十萬の生命を賭り或は傷つけたのである。此の數字の後を今予が說明するまでもなく、如何に災害の度の大なりしか、數字自體が最も明瞭に示してゐるではないか。

更に全東京市の上から見て、其の慘害の度の如何に大なりしかは、次の數字によつて明瞭に知悉する事が出來るであらう。

燃失災害の程度

市內戶數總計	四十四萬五百四十九戶
燒失戶數	三十一萬六千八十七戶
殘	十二萬三千四百六十二戶
市內人口總數	二百三萬一千三百九十一人

罹災人口總數　百三十五萬六千七百四十人

殘　六十七萬四千六百五十一人

ちようど是れで見れば、全東京の約七割に相當する災害を受けた事になるのである。而して家屋以外に受けたる財貨の損害に就て、見積りたる額に大體次の如くになつて居る。

遞信省調査

客車貨車の燒失　九百餘輛

各驛貨物の燒失　五千餘噸

電車の燒失　約千餘輛

農商務省調査

火災保險金　二十二億圓

生命保險金　三千萬圓

東京市及警視廳調査

市民の死者　約十萬餘人

市民傷病者　約二十餘萬人

以前の調査は、九月十日震災直後の調査になるものであるが、よし概數であるとしても、當時の震害の如何に大なりしかを彷彿たらしむる事が出來るであらう。

損害總額……金額にて見積る事の不能なる分もあるが……百億餘と云はるゝ大損害は近く二十四時間內に、脆くもむざ〳〵と火焰に嘗められて了つたのである。

地震のみの災害に止まらば、かくまで莫大なる人命と財貨との損傷を見ずして、止まり得たであらうと思はるゝが、東京は由來德川幕府創立前後より、即ち天正十八年姬池及千束池を埋めたるを手初めに

大正十一年品川芝浦の前面を埋め立の完了まで、長年月の間に實に二十三回の埋立を經て、今日の所謂下町の大半の土地が出來たのである。云はゞ東京の下町は、是等埋立地の上に修築された町々である。故に耐震と云ふ上から云へば、極めて條件の悪い地層なのである。さればこそ、最初の五分間に、脆くもかくまでに慘害を受けたのである。

而して警視廳消防本部の記錄によれば、當日全市の各方面より八十八箇所に亘つて、猛火は燃へ上つたが、消し止め得たものは、中僅かに二十三ケ所に止まり、最初風速十七メートルの南風が、大火に伴つて諸所に氣流の變化を起し、夕方にまで三回に亘つて風向を變つて漸次烈風となり、防火設備の燃失及不足により、かくまでに災害を逞しうしたものである、この事であるが、是等の事實に就ては、今其の恐るべき事實を擧けんとすれば、到底予の遲筆のよくなし得る所ではない。大體予は一ケ年を經たる今日、當時を追憶するよすがともせんが爲に、當時の記錄を辿つて、先づ人心の緊張を企らむとするのである。

二　土地區劃整理問題

さて、我國文化の中心地たる大東京は、かくの如く僅か二十四五時間内に、見る影もなく無殘なる亡骸となり終り、焦土を天に晒し、燒け落ちたる幾多のものにて全市が埋まつたのである。而して是等のものを取り去るは又容易な事ではない。由來日本の都市の多くは、一朝大震害が起れば、其の時後收拾は容易なものではない。一定の知識の下に集中された都市ではないから、時後收拾の問題は容易ではないのである。

たとひ如何に暴威を逞ふした災害であつても、其の地型をまで根本的に破壞するものは少ない。大陷

沒、大地辷り地震等ならばいざ知らず、東京の昨年の震害の如き、地型をまで破壞した所はない。從つて都市が形成さるゝに當り、一定の組織立てがあれば、其の時後收拾はさまで困難が伴はない。直ちに基礎的復興案か捻出されるのであるが、東京市の如く三百餘年の古城市である上に、度々の災害を受け其の度に無組織無計畫にも近い、自然的の復興に委したるため、東京全體が半身不隨の老都市となり了つてゐたのである。是れは人間的なる都市計畫によつて、近代的なる都市として變更は出來るが、其の勞苦たるや又實に容易なものではない。幾億の負擔が人間の勞働の消費に代つて、近代都市東京が完了さるゝまでには、餘程の犧牲が伴ふの必要があつた時、恰かも昨年の大震災となつて、其の計畫も根本的に無意義に了つたのである。破壞し去らるゝ迄は、都市計畫の上にも種々なる議論が行はれたが、一端破壞し去つて了へば、以前の議論は最早や、破壞後の東京市復興計畫の議論とはなり得ない、根本の計畫として見らるゝものは、最早や他の議論でなければならぬ。

凡そ今日の各國都市の頽廢の原因を見るに、地型を無理解に區別したる事に初まつてゐる樣うである老都市又は半身不隨都市の主なる原因は、凡べて無計畫に都市を形成したるに起因してゐるのである。平安朝の帝都として形成されたる京都市は、域廓都市——防衛施設を備へたる都市——とは見る事が出來ないが、當時にして見れば、立派に區劃整理を施して形成されたる都市として、有機的に形成されたるもと見て可なりである今から見れば、當時の京都市は完全に保存されて今日に至つたと假定しても、其の形成の根本動機と、今日のそれとは著しく社會的の事情を異にしてゐるのであるから、それを以て如何とも評すら事が出來ないが、當時としては立派に有機的に形成されてゐたのである。隨つて其の計畫が其の形を亂さざる限りに於て、半身不隨都市、又は老廢都市たる形より幾分にても、免るゝ事が出來るのである。併し乍ら東京大阪の如き、放射路線、及それを補助する環狀路線の計畫もなく、只だ僅かに交通の方向、風向、水流等によつて、全都市を基としてゞなく、其の都市の或る一部分宛に亘つて

木に竹を接ぎ合せたる如く、其の都市に道路を敷設せしむる事によつて、都市を形成したる東京大阪の如き、其の半身不隨都市、及び老廢都市たるの形は、今日に初まりたるに非ずして、過去何十年かに已に其の運命を持ちつゝ今日に立ち到つたものである。されば東京市の如き、復興の第一要件として、都市の有機的目的を達成せしむる道路の整備を、何れに基礎づけるかゞ其の基本計畫として論議されなければならないのは、何人も認むる所である。然し只だ道路を整備すると云ふ意義に止きつては、是の計畫は基礎的要件たる價値を伴はない。それは土地區劃整理の上に基礎づけられねばならぬのである。即ち土地區劃整理の問題は、復興東京の先づ最大なる議論の要點となるべきものである。

さて復興東京の根本要件たる土地區劃整理の問題は、震災直彼已に其の必要を痛感したる當局によつて論議さるゝに至り、現今に於ては、該問題は法律的効果を有して、大阪市計畫の根本義となつてゐるのである。該計畫は、土地の自然的性質を人爲によつて利用の度を增大せしめんとするものである。河流に面せる土地、高層地帶、低面土地等何れも等しく土地として見るも、其の自然的性質に至つては、著しく利用の度を異にし、街衢の整備を計畫するに當り、廣場、公園、公館、十字路の設定等に於て、主要なる機能上の役割を演ずべきものなれは　土地の區劃は、形の上の區劃に止まらずして、機能の上の區劃も伴はなければならぬものである。然るに災餘の人心が、弛緩の極に達せる東京人は、何を誤解したものか、此の根本問題を不必要……とまでは論議してゐないが、緊要なる問題に非ずとしてゐるのである。這は或る一部の人々が、此の計畫の爲めに著しく自利を侵害さるゝにより、當路關係を促して此の愚擧に出でたものと思ふが、如何に自利を侵害さるゝとは云へ、斯の如き大震災を體驗して置き乍ら、かゝる大天災を未前に防止すべき大計畫に對し、單なる自利心より反對せんとするが如きは、公の利益を無視するものと云はねばならぬ。公の秩序が維持されてこそ、個人の利益は安全である。公の利益を無視して、自利の安全を希ふものは、頭を掩ふて尾を掩はざるの愚者で、決して兩立し得る議論で

はない。然るに當時――本年五月頃――土地區劃整理問題が東京市會の問題となるや、市民を代表する市會議員の中多數の人々が、該計畫は市民の幸福增進と兩立せざるものであるから、須らく適當の年度まで延期すべきものであるとの反對意見を陳述したと云ふ事を、予は新聞紙上で聞き及んだが、かくの如き議論は大義名分を明にせざる、暴論なりとの譏より免るゝ事は出來ぬであらう。何となれば、最も科學的基礎に立ち、都市復興の上に能率を增進せしめ得るものとは、之の土地區劃整理を措いて他にないのである。之が若し大阪市に施行せんとするならば、餘程の困難な事情に多々遭遇するのは必然であるが、燒野原の如き上に建て竝べられた、假建築の如きを立ちのかしめて、其の上に該計畫を施すには何の苦勞がない、又市民のそれによつて蒙むる損害の如きは、最初より豫定された問題であつて、何等の豫告なく計畫されたるものではない。帝都復興當局が、假建築物詰可の要件として、該事實を明示してある筈であり、又それを條件として承認してゐるのであるから、該計畫の進行が、決して市民の幸福を侵害されたとしても、單なる商業上の賣上等に蒙むる損害であり、それ以外のものは何等の損害を受くべきものではない。それが、然かも當局の政策を翼贊しなければならぬ關係にある市會議員等の意見として、反對意見が陳述せらるゝのを見る時、予は實に云ふ所を知らざるものである。土地區劃整理の必要なる、都市形成の根本要件たるは、予は前述した如くであるが、此を骨抜きにして都市復興を論ずるは、恰かも人を見ずして着物を縫ふの類であると云はねばならぬ。土地區劃整理の問題を、最も簡單に行ひ得るは、現行地域との換地問題であるが、之は一般に換地の手續きが徹底してゐないため、之が用途を誤まつてゐるが如くに思はれる場合もある。之はよろしく一般に徹底を圖り、手續きの簡明を期すべきである。土地區劃整理の問題に就て、尙論ずべき諸點を有するが、そは蛇足を加ふるの類なるを以て、同問題は此位に止めて置きたい。只だ是程必要なる問題なるにも拘、復興の過渡にある東京人の一部によつて、是が不必要が叫ばれたと云ふ事實に向つては、吾人の記憶に止めて置かねばならぬ

所であり、大阪人士の特に參考すべき事實であらうと考へる。

三　復興の諸過程

只今の狀態によつて、現在東京市は如何なる程度の復興を遂げつゝありやと云ふ事實に對しては、予は、此の程度を明確に推斷する事が出來ない。それは基本計畫たる土地區劃の整理が、まだ遲々として進まず、具體的に整理されつゝある箇所と云ふものに對して予等の推斷を許さざるところであかるら、只だ裏面の計畫は夙くに完了してゐても、それが道路となり、廣場ともなり、十字路となつて現るゝのは、いつの事に屬するか、まだ相當時日がある事と思ふのである。併し乍ら諸種の復興計畫は、即ち橋梁に、道路に、公共用營造物に、種々のプランは最早や完成し、豫算關係と土地區劃整理の完了とを待つのみとなつてゐるのは事實である。併し乍ら土地劃整理は道路、廣場等の設定によつてなさるゝものであるから、整理の進捗は只だ之を保障する財源如何と云ふ事に歸着するのである。

併し乍ら財源の問題は、如何なる事業にしても、公共の性質を有するものゝ事業の中、之程厄介なものはないのである。一定の組織ある仕事をするためには、豫算の基礎の上に起たねばならず、豫算の基礎に起つてゐては、緊要なる仕事を逸する事がないとは云はれない。現に復興の過程にある東京市の如き、實に此の感を深うするものである。

予は現在の東京市に於ける、諸種の復興過程に就いて論じて見たいと思ふ。

道路の復興、現在の所では道路と云ふ道路は、何れも災後其儘のものである。路幅の擴張事業に就て當局が未だ手を下すまでには行つてゐないらしい。僅かに櫻田本鄕町を基點とする、日比谷公園を中心としたる四角形の道路に對してのみ、復興東京の中心路線としての補裝を行ひつゝあるのである。其他は路面の補裝までに必要なる諸種の埋沒物の復興工事に忙しく、就中防火水道の施設の急なるため、是

れを全市に亘つて埋沒する關係上、道路の復興新設等に今後尙長き時日に俟つ所がなければならぬと思ふ。

住宅及其他營造物の復興、這は道路等の性質とは其の趣きを異にし、個人の資力によつて、市街の整美を企つものであるから、當局の指導よろしきを得ば、豫定計畫路線を除きて、市街美は何時にても整へ得る性質を有つてはゐるが、然し個人的にも資力消耗したるもの多ければ、之が復興は中々容易なる事業でなく、店舖の復興に、無理算段をしてまで、其の面影を復舊したるものであるから、今直ちに各私人の營造物を〻復興せんとするが如きは、のぞみ得る所ではないが、然し指導の根本案が決定されゝば、立派に復興し得るのであるから 道路や其他のものゝ復興の如く、當局も之れによつて勞せしめらるゝ事は少ないであらう。現在の所では耐火構造のために、災害を免れたる建築物の修理は、餘程進むであゐる模樣であるが、之は今後の東京を形成するとは云ふものゝ、それを取り卷く他の建築物の復興に至つては、容易に形を整美するまでには行かないであらう。小學校を初めとし各種專門機關の學校が、震災後其儘であるもの多く、其の復興は蓋し容易ではない。斯くの如く、敎育機關が一時に失はれりと云ふ事は、文化史上特筆すべき大問題で、就中東洋文化の殿堂たる東京帝國大學圖書館の燒失は、アレキサンドリア圖書館燒失以來の大事變であつて、其の損害の額の如き、決して金錢によつて計り得る問題ではない。蓋し我國文化を世界に誇り得る幾多の貴重品を燒失したのも之がためである。何が復興されたとて、之ばかりは復興し得るものではない。實に惜しみても尙餘りある問題である。

現に之等市街美を整ふべき根本案たる、小商工業者の建築資金として、低利資金を融通せんとする案の如き、政府當局の意嚮一つで、死活が自由なのであるが、現政府の如く、緊縮第一義を奉ずるものにあつては、甚だのぞみない事と云はねばならぬ。

公園及廣場の復興、公園及廣場は、一朝有事の場合に際しては、公共的の性質を發揮するものであり

市人の生命を安全ならしむる重大なる意義を有するものあるだけに、之が復興は喫緊の急事と云はねばならない、が然し、現に東京市のかゝる機關は、まだ罹災民の集團バラックによつて、其の幾部分を占有されてゐるの狀態であつて、此等の移轉先が完了するものでない以上、之を強制してまで立ちのかしむると云ふ事は、容易な事ではない。現に數多の廣場及公園内に於ける之等集團バラックは、總戸數尙數萬に達し、之を分散せしむると云ふ事は容易ならざる社會問題も伴ふ事とて、當局も妄りに手を觸るゝ事を差控へて居る模樣である。震災救援剩餘金の若干を得て、之等が單なる市人のために、小住宅を壹萬戸建築すべき案が出來て居るから、其の中に適當なる解決案が決定さるゝ事と思ふ。由來此の地域にバラックを建築し、罹災民を收容したと云ふのは、當時の急場を凌ぐためのものであつて、おそらく當局と雖も、一ケ年を經過せんとする今日、猶ほまだ其儘の形を存せしむるとは考へ及ばなかつた事であらうと思ふ。然し物事は何事にまれそう思ふ儘に行くものではないから、當局が急場のために盲目的に計畫したるバラック住宅も、今に於て現存すると云ふ有樣である。現に此の住宅に居る人々にして、一人として涙の種を所有せざるはない。その結果として惡く云へば、あまり他の力にデペンドに過ぎてゐるかも知れないが、一方社會政策の方から云へば、之が善後策は蓋し困難なる問題である。公園及廣場の復興は、是の問題を伴ふのである。ために其儘に放置されてゐるのではあるまいか。

四　復興政策論

さて以上論述したる範圍に於て、大體其の現狀を紹介したつもりで居るが、復興の過程に於ける諸種の政策論的考案を抜きにして本論を結ぶ事は出來ない。されば予は大體斯の考案を試みたいと考へる。

(イ)、**道路問題**。路面の復興計畫は、市街美整調の根本問題であるから、之が計畫は專門家によつて周密なる計畫が、遺漏なく遂行さるゝ事と考へる。然し乍ら當局の見る目と、都市を研究するものゝ目と

の間に、何程かの相違があることは免れない所である。

當局は行政的立場を主とし、經濟政策を從とす關係に立つて復興東京を論ぜんとするが、予等は寧ろ行政的復興は、手段としてのみ可能であるが、經濟政策的復興を論ぜんとするものには、行政的手段は可ではない。凡そ一都市の建設は、經濟政策的に立論されてこそ意義を有し得れ、行政的手段のみにては、市人の幸福を增進する能はざるは、火を睹るよりも明な所である。その立場を持つてする時は、經濟政策的復興を主とし、行政的手段は其の補助的關係に立つべきものであると考へる。徒らに行政的手段のみによつて、窮窟なる都市復興を論ぜんとするは、却つて其の市人のために幸福を增進する所以でないと思ふ。眞の幸福は法の極限的運用によつてなされるものでなく、却へつて其の常識的民衆的運用によつてよりよくなし得るものである。現に東京市民にして一二此の聲を發し居るものを聞く、凡べて或る目的のために運用されつゝある、法律又は命令は、決して極限的運用のみを目的とするものではない。東京復興當局は須らく都市復興と云ふよりも、更に意義を擴めて、都市の社會的復興と云ふ大局に着眼すべきである。

さて都市問題として研究者の頭を占領しつゝある問題は、即ち集中主義都市建設か、分散主義都市建設か、此の二つである、集中主義都市建設を可なりとするものゝ立場は、一都市内に於ける文化の往復に便であると主張する。併し如何なる意義よりするも、集中主義都市建設は排斥すべきである。何となれば都市形成の根本たる衛生的見地よりして、都市の集團的形成は避くべきであると思ふ。文化の往復は時間距離のみによつて論ぜらるゝものではない。只だそれのみによつて都市形成上集團主義を奉ずるのは、思はざるの甚しきものと云はねばならぬ。今彼の東京は森林道路帶を造り、又は美觀的なるキャナル等によつて、幾回にも分割すべきである。

五結論

餘白がないと思ふから、本論は此位に止めて置きたいと考へる。實際の所只今の東京では、復興の現狀を論ずるのは聊か早やい氣持ちがしないでもない。予が茲に本論を試むは、只だ震災を追憶するよすがともしたいがためである。

俗言に云ふ、『咽喉元過ぐれば暑さを忘る』と云ふ言葉の示す如く、只今の東京人士は、予が前々號に於て『バラックに光る初夏の東京』に於て、其の風俗を漫筆に記して紹介して置いた如く、稍々浮薄に流れて居らぬとは云へない。一般に非常に輕卒である。かくの如き事情を以てすれば、近く若し第二の大震が襲來したる場合、如何に處するであらうかを思ふと、予はうたゝ身を寒うするものである。

予は本論を以て、震災の追憶とし、紀念ともしたいと考へて執筆した意味も、そこにあるのである。

生くるとは呼吸にあらず爲すの謂なり（ルツソー）

國民は覺めたるか

法學士　大須賀巖

肩書を書くなら「法學士」といふよりも、現「丸龜市長」といつた方がよいかも判らない或は、どちらを書いても亦迷惑かも知れない。が、帽子を冠らずに大道を歩くのは少々變だ、といふ氣持ちが今の世の考へだから、それならば、どこへ行つても、持ち廻つてゐる方の帽子をお着せした次第である。——編輯者。

一

私に一つの信條がある。といふても他の多くの人の持つ居るソレの樣に、學問的檢討を經たのでは勿論ない。只コウ思ふてから、今日迄生きて居る私の周圍に起る問題をアテはめて見ると、間違なく當るので、今では信條と思ふて居るのである。ソレは人間の偉い、偉くない標準は、自己反省の大小によつて決すべきものであるといふのである。昔の支那人の誰やらのいふた、良馬鞭影を見て走るといふ言葉を以てしても、その反面的說明と爲すことが出來る。野暮な注釋をつけて見ると自己反省力の强い者は常に之によつてセルフカルチュアが不斷になされるから、偉人はます〳〵エラクなり、ツマラヌものでも遂にはエラクなるのであるが、他人や外界から折角の化育を蒙つても自己欺瞞にかゝつたり、自己陶醉に陷つてる結果、自らを成長さすべき養料を吸收出來ぬ爲め、自然の理法に從つて、一所にあるものは遂に退化の運命に陷るのであるといへ得やう。私の周圍の人に就いて之を實驗したところによるも、人から注意された時に、只兎や角と口答へに焦慮するものは碌なものにならず、何事も自分の身に引き

あてゝ深省工風するものは、今日ヱラクなつて居る。更に各地方、或は都會に就いて實驗するもソウである。折角の意見や議論を聞かされても、他人事に聽き流して、不相變の地方的情實で押し通す者は現に行詰つてしまつて居る。

去年の大震災當時、大阪市民諸君が可燃質の構造は燃えるものであり、耐震的でないものは地震に危險であることを、震災地へ派遣の技師から報告せられて、急に都市計畫を變更したり、大勢で逃げて行くに便利な道路を思ひ付かれたことは、田舍住居ながら新聞紙上で拜見した。更らに帝都復興の大計畫も、之に伴ふ都市計畫や、生活改善の大宣傳も傳聞したのであるが、果して日本は今日此一大シチョウに覺めて、自己反省の實を擧げつゝあるのであらうか。當時の外國新聞に諸辭を呈せられた樣に、革新せられつゝあるであらうか。假令帝都復興計畫は眼も鼻も削られてしまふたとはいへども、全日本は覺めて、精進勇往して居るのであらうか。

二

最近自分の耳を疑ふた出來事は、去る陸軍の簡閲點呼場で、點呼執行官が在鄉軍人に對して試みた訓話である。現時の國際間の平和といふ事は僞である、片手で平和の握手をしながら、片手は背後に拳骨を固めて居るのである。過去の國難に打勝つて、今度の大戰に利益を占めた日本を如何にして弱め樣かと外國は苦心して、左の三つの手段を執つた。第一は個人解放である。第二は國際主義である。第三は文化主活である。之が爲めに、軍閥などと我が陸軍を卑しめ、軍備縮少を吾に斷行せしめて、蟹を甁ふ猿が蟹に鋏を捨てさせた後は、裕ろに喰べてしまふ云々と云ふのである。個人解放、國際主義は兎も角文化生活要求が我國民思潮に上つたのをば、外國の我が國を亡ぼさん爲めの宣傳に乘つたのであるとは此人の文化生活の意義を如何に解して居るかを疑つたのである。が西南戰爭時代や、日清戰爭頃迄の武

人ならイザ知らず、苟も今時の然かも高級武官が書物を讀まぬ筈がなく、恐らくは文化生活を高唱する『アチラでは云々』流の一派に對して、一擊を與ふるつもりであつたのが、武人の常として、言葉簡に過ぎ斯くいふてしまつたのであらうと今は信じて居る。が然し地方では可成の有識階級のもの迄が、文化生活を以て所謂耳カクシを結ぶ事、西洋流の衣食住をする事であると信じて居る者が多いのである。去る建築組合を經營する有力者は、眞面目に私に語つて『文化生活は結構でせうが費用がかゝりますのでネ』と。日本新熟語字典でも繙りて來てモウ一遍文化生活の字義でも引かねばならぬ事となつてしまつた。勿論當地方で所謂洋式の住宅として、丸龜に米國宣敎師の住宅が二軒各々金一萬五六千圓也と、多度津に米國歸りの若きブルヂョアの爲めに、アメリカ屋の若い技術家の建てゝ居るもの（金十萬圓也と宣傳されて居るもの）と丈けで、當地の文化生活を口にする諸氏は此三つの生活を羨望して居るのと雜誌上の低廉な簡易住宅が丸龜市の市營住宅甲廿五圓也乙九圓也丙六圓也に比して恐ろしく高い事は文化生活とか文化住宅とかいふものに對して、怖れ遠のいて眺めさせる結果を招徠したかも知れぬ。私の主張する舊藩當時の建物に手入して、簡易生活をするなどは驚異の眼を以て見られて居るに過ぎぬ。

三

反動運動とか國粹保存主義とかいふものは冬の風見たいなものである。隙間があればソレへ押込んで自分獨りが偉そうな顏をしたがる。而して對手をメチヤクチヤに、只惡い者にしてしまひたがるものである。文化生活とか生活改善とか眞面目に主張する者の傍らに、ニセものがおかしげな眞似をして居ると、直に虛に乘ずべしとして忠君愛國の御幣を先に立てゝ遣つて來る。奚んぞ知らん輕薄なる外國崇拜と、頑固なる國粹者とは、常に國を亡ぼす者であることは、歷史の證する所である。殊に『此二者が御殿女中式に泣いたりヒツ掻いたりして爭つてゐる時に正に然矣である。眞に國を憂ひ社會を思ふの人は、

理非の冷靜なる判斷の上に、一身の利益毀譽を度外視して、直行する勇者でなければならぬ。少くとも自己の仕事を以て、社會に奉ずるを趣味化する丈けの人間味がなくてはならぬ筈である。眞實を覓むる心より、他者の長を採り、己れの短を補ふの雅量がなければならぬ筈である。

外國を直譯するを以て能事了れりとする者の困り者なると同時に、何事も外國嫌ひも困り者である。殊に解らぬが故に外國として、ヒタスラ排斥せやうといふに至つては、念の入つたる困り者といはざるを得ぬ。私は曾つて本誌に意見を述べて、建築には之迄の日本建築もあらうし、歐米其國々の建築もあらうが、今日に於ては其國に採用したものが銘々の國の建築であつて、世界交通の開けたる爲め各國民共通のものが多く成り、各國に於ても我が國の如き細長い國は、北の端から南の端迄同一の建築を以て貫くことは出來はい、寧ろ南は印度南洋のものと類似が多くなり、北は寒い外國と共通されるものが適合されるは當然である。而して鐵筋コンクリートの如きは　各國共通の建物であつて、我國の建築家が我が國民の爲めに之を作つたものは勿論日本の鐵筋コンクリートであるといふのである。更らに他の題目の下に、在來の日本建築の樣式に鐵筋を組立つることによつて、構造上有意義なものと爲る工夫は無からうか——出來たら日本獨特の鐵筋コンクリートの方式が出來樣と思ふて——建築家諸君に注文したことがある。果然其後注意して居るところによれば、我國建築家諸君の手になつた鐵筋コンクリート建築は、どう見ても日本式鐵筋コンクリートであつて、外國の建築を理想とする人々には遺憾であらうと思ふ程——日本趣味の多い鐵筋コンクリートが、段々殖えて來た樣に思ふ。此夏竣功して拜見の光榮を得が、高松市に清水組で建てた勸業銀行支店の如きは、外の國の都市の眞ん中へ、外國人に住はせて見ても、日本式鐵筋コンクリートとして異彩を放つものであると感じた。現今以後の日本建築は、舊時大名によつて壓迫され、制限せられて作つた處、黑塗の土藏見世でもなければ、支那を模造した寺院や、神代の遺風を存するといふ神社の建築でもない。之等は日本今日の文化を發達せしめた參考品であつて

現代の日常生活ではない。私は寧ろ試練としてではあるが、東京の博覽會にあらはれた分離派の習作も震災地に出來た所謂バラック建も、和製鐵筋コンクリートと共に吾々の建築として受け入れんとするものである。

四

一昨年でしたが、大阪の或雜誌に博覽會と都市計畫の併用を主張した私は、次いで、大阪の新聞紙上に、又本年春、都市公論誌上にオトレー氏の國際都市と博覽會の計畫に就いて一寸一言したことがある。太田寛吾氏は、更らに數回に渉つて、本誌に右内容を詳細に敎へて下さつて居るのは、都市計畫家、建築家に嚮ふべき進路の一面を示して下さつて居るものとして、感謝に耐えない。更らに最近の亞米利加雜誌に、一都市全部を硝子張の中に納める計畫が載せてある。都市即ち一建築となる譯である。分散主義の都市を論ずる學者も我が國に於て關博士を初めボツ〳〵出現して居る。我が國民は大戰の苦は知らぬながら、對岸の火災視して許りも居られぬ地位にあつて、更らに大震災の酷い經驗を得た譯である。苟も創造力を有する民族である以上は、之によつて或生活を創造せなければならぬ筈である。帝國復興計畫は削小せられたと雖も、氣力のある國民ならば全國的に時代を劃して新生命が躍出せねばならぬ道理である、一大建築として見らるゝ都市に於てか、幾つもの建築群を秩序よく蒐めた系統に於てか。孰れにしても、よく計畫し、誠實に實行せられなければならぬ、建築家の偉大なる苦心と努力の下に！

× × ×



街路の擴築と慘害の緩和

大阪市長　法學博士　關　一（文責在記者）

大阪の都市計畫――所謂街路改良は、それを必要とする處の何等突發的な事由が無いにしても、その遂行の必要を認めぬ譯には行かないのであるが、更にそれを一日も緩うすることの出來ない一大事實に逢つた。大正十二年九月一日關東地方を襲へる大震火災がそれである。所謂關東の地震は、驚くべき廣き區域に亘りて暴威を逞うし、到る處に恐らくは空前の慘害を加へ、就中、東京市の大半と、橫濱市及橫須賀市の殆むど全部が壞滅し、幾萬の生靈と巨億の財貨を亡ぼし、左しもの殷賑なる街衢を一掃して荒涼たる廢墟に歸せしめ、凄慘の狀蓋し我史籍を曠ふするに足つた。倖にも我大阪市は震源地を距ること遠く、その災禍の圈外に庶きを得たとは市民諸氏と俱にその天祐を感謝する處である。けれども親しく慘害の蹟を目睹し、他面には過去に於ける我震火の史籍に顧みて我國土の將來を慮ふとき、悚然の情自ら吾れに迫るものがある。

試みに、客秋の震火災が東京、橫濱の二市に於て市民の身體、生命及生活に與へた禍害の中、數字を以て容易に表示し得べき部分に就いて、此處にその概要を擧むか、東京市は、罹災者百三十三萬二千五百四十人

死傷者又は行方不明者十四萬二千六百二十六人であつた。之を、震災前の人口二百二十六萬五千三百人に對比せば、人口一千に付、實に五百八十九人の罹災者と、六十三人の死傷者、又は行方不明者を生じた割合になる。其他、燒失若くは倒潰した家屋は三十一萬四千六百八十六棟——空家及非住家を含む——その世帶數三十萬八千二百七十三を算した。之を、震災前に於ける世帶數四十八萬三千に比すれば、世帶數一千に付、六百三十八世帶六百五十一棟を燒失又は倒潰したことゝなる。

横濱市の方は、罹災者總數四十一萬二千八百九十六人、死傷又は行方不明者六萬八千六百七十六人であつたから、之を震災前の人口四十四萬六千六百人と對照するときは、人口一千に付九百二十四人の罹災者と百五十四人の死傷者又は行方不明者を出した譯である。又、震災前の同市世帶數九萬八千九百の中、世帶數に於て九萬三千八百四十家屋數に於て七萬三千九百七十五は燒失又は倒潰したと云はれてあるから、其比例は世帶一千に付九百四十九世帶、家屋七百四十八の割合になる。

而して更に、東京と、横濱兩市の被害を比較せむに、横濱市は東京市よりも罹災者の總數に於て十六割弱、死傷者又は行方不明者に於て二十四割強燒失又は倒潰した世帶數に於て十五割弱、同家屋數に於て十一割強だけ重き慘禍を被つた比例になる。

茲に於て、吾人が直覺的に痛感する問題は、東京、横濱の二市は、共に震源地に對する距離に於て格段なる懸隔の無いのに、兩者被害の程度は斯くの如く著しき平衡を失して、横濱市に重く東京市に輕きは、怎ういふ譯であらうか。

蓋し、天災地變の襲來は、何等の豫感を與へずして突發するを常とするから。それに濟むで人力の如何ともすることを得ない。殊に、間髪を容るゝの餘地なき程の瞬間に起る震動に因りて、家屋の倒潰と共に水道は斷絶し、消防機關は能力を喪ひ、交通の利器亦その用を成さず、人を擧げて周章狼狽の間、祝融亞いで臻らば其の罹災區域の廣汎に渉り、爲に世帶無數を亡ぼし、悉く家屋を壞潰し、燒燼亦夥きを致せるは、寧ろ自然の結果で

はあるが、躬を以て脫るにすらその方途を失ひ竟に死傷者又は行方不明者の群に陷りたる者の數、斯く甚しき懸隔を生ずるに至りたるは、勿論幾多の事情に因ることと想はるゝも、主として人爲的施設に何等かの特殊的缺陷の存在に因るとゝ認めぬ譯には行かない。その被害程度と實質に於て種々に異るに到つた原因は多々あつたであらうが、東京市は、過去三十年の久しきに亘りて、絶へず市區改正を行ひ、路幅を擴張し、系統を整理する等、只管街路及橋梁の改良に努めたる一事は、少くとも其の原因の一に算じて誤りないことゝ信ずる。自分は、今之を確むるために、罹災者たる二市の面積と街路の割合に就いて考へてみやう。即ち、東京市は總面積二千四百七十三萬八千坪であつて、その二百五十五萬五千坪が街路面積に當り實に、全市面積の一割一分を占めて居る。反之、橫濱市は、總面積一千百四十四萬六千坪であつて東京市の四割六分強に相當するが、街路の面積は僅に八十一萬二千坪——全市面積の零割七分——であつて、漸く東京市道路の三割二分弱に過ぎない。加之、其の路幅に於て東京市は平均約三十尺——五間——を保つに反し、橫濱市の夫れは、辛うじて十四尺——二間三分——に過ぎない一事に徵してみても避難の難易、被害の輕重、亦自から之を知るに難からぬではないか。されば吾人が大地震の襲來に對應する施設の一として街路改良の必要を唱道する所以のもの、實に斯の事實に由來するのである。

言ふまでもなく、地震は關東方面にのみ災するのではない。大阪を中心とする關西地方も亦何時その襲來を受けないとも限らない。否今村博士の所說に依れば、今後多少の年月を經たる後に來るべき所謂第二回の大地震は、寧ろ關西方面に非ざるなき乎を疑はしむるに足る節がある。吾人は、學者の研究に敬服し、其豫言を尊重し、時としては、其の研究、豫言が的中して、一日も速に實現し、仍つて其の權威の發揮を希求して止まない場合が屢々ある。さり乍ら、地震襲來の豫言のみは成るべく其の實現の遲からむことを、否な絶對に的中せざらむことを望むで止まざる者である。け

れども、斯の希求が徒然たるに過ぎない。制機の下に我等の生活が置かれたりとすれば、豫め之に處するの策を樹てゝ置かなければならぬ。されば若しも不幸にして、去歳東京及横濱を惱ませる程度の地震が現在の大阪市を襲ひたりと假定せむ歟その受くべき禍害を、今試みに打算せば、數字を以て表し得る限りに於て、その損害の巨大なる、實に膽を寒ふするに足る。

大阪市の人口は既に百三十五萬七千を突破せる上に、其の近郊の狀況が多少東京や横濱と趣を異にし、市の東、南、北の三方に市内と何等異ならざる市街地がある。斯の市街地は、各々獨立せる町村として行政區劃を異にせるとは云へ、實體が市の延長なるの事實に鑑み、之を度外視することは出來ない。而して、此の延長市街の人口亦六十二萬の多きを算するから、所謂災害時に於ける被害の打算に方りても、その範圍を此處に及ぼさなければならぬ。而も現下既に市域編入の問題が熟して居る折柄、所謂大大阪市なる見地の下に、被害計算の基礎とすべきである。

而して。其の被害率を假りに東京市と同一とすれば、市域内に於ては、罹災者總數八十萬人、死傷又は行方不明者八萬六千人、倒潰又は燒失世帶十九萬二千を出し、町村は罹災者三十六萬五千人死傷又は行方不明者三萬九千人、倒潰又は燒失世帶八萬一千を出し、市の内外を合して罹災者總數無量百十六萬五千人、死傷又は行方不明者十二萬五千人、倒潰又は燒失世帶二十七萬三千、といふ空前の慘況を現出するの推定になる。若し夫れ、其の被害率を横濱市と同率とせむ乎、其の割合は更に遞加し、市内罹災者の總數百二十五萬四千人死傷又は行方不明者二十萬九千人、倒潰又は燒失世帶二十八萬五千を算し、町村は罹災者五十七萬三千人、死傷又は行方不明者九萬六千人、倒潰又は燒失世帶十二萬一千となるを以て、市内市外の通計罹災者總數百八十二萬七千人、死傷又は行方不明者三十萬五千人、倒潰又は燒失世帶四十萬六千の多きとなり、京濱二大都市が同時に被れる災禍の總てより、遙に大なる慘狀を現出することゝなるべきを憶はゞ、誰しも慄然として、一日も安

きを得ないであらう。斯る慘禍の程度を高めるのは、主もに市内街路の狹隘に關係することは、既に東京市と横濱市との被害程度の比較に於て説明した所である。然るにこの街路の關係に於て、大阪市は更に寒心に禁へないものがある。蓋し、大阪市の街路は、量に於て百二十二萬六千坪であるが、之を全市の面積一千七百六十八萬三千坪に比較すれば、僅に零割六分九厘に止まり、東京市の一割一分に對し、零割四分一厘を輸し、横濱市の零割七分と伯仲の間に在る。加之、この街路の殆むど總てが市内に起つて市内に終り、一として相當路幅を保ちて、郊外に放射するものなく、剩へ周圍の町村は單に細家倭屋が雜然として秩序なく密集し、宛然、無道路の狀態に在りて、日常の出入さへ不自由を極むる現狀を見るときは、一旦震災に罹むで、その禍害の慘絶なる蓋し想像に剩りがある。

されば、旦夕を計られない震災來に對して、豫め採るべき對策の幾多ある中に、都市計畫の心臟ともいふべき街路の擴築整備は、蓋し焦眉の問題である。斯の必要よりして、我都市計畫中街路改築の一日も速かならむことを望む。

見しといはゞ見しにも似たれこの秋の

木槿の花の影のこぼさよ

大阪市防火計畫私案

大阪市水道部長　島崎孝彦　《文責在記者》

這般の關東地方に於ける大震火災の慘禍に鑑みまして、本市諸般の都市計畫事業を促進せしむるの緊要なるは今更ら申すまでもない事でありますが、就中最も緊急を要しますのは、全地域に對する徹底的防火施設の完備であります。その一般論としては、水道施設の改善、貯水池の設置、並に消防機關の充實を期するにありますが、之を實施に施行するに當つては、各地域の狀況に應じまして、最も適切な施設を講じなければなりません。その詳細に亘る事は他日に讓つて先づ防火的見地より既設水道に對する一般的改善方法、並に各地域に對する特種の防火施設に就いてその計畫を述べることに致しませう。

（一）既設水道に對する一般的改善方法

防火栓取附管の改良

數箇所の防火栓を同時に使用するに際し、水壓の低下を輕減すべき方法としては、其の取付管を成る可く六吋以上に變更すべきでありますが、實際問題として、一時に幷うすることは、財政其の他の關係上頗る困難な事情に在りますから、今後、鐵管の取替箇所及比較的重要箇所より、漸次にその改善を實現したいものであります。序に申して置きますが、現在の防火栓取付管の大部分は五吋と四吋であつて、稀に三吋半管のものもあります。

高地部に對する改善の方法

上本町、天王寺方面等所謂高地部に對しては單に防火栓取付管を大とするだけでは、到底不充分ですから、別に高區配水の計畫を樹てて、平地部に於けると同樣の壓力を有たしめたいと思ひます。

防火栓の改造

現在施設されてある防火栓は凡て地下式であります。之れは交通上の障害を顧慮したのでありますが、火災時、殊に夜間にあつては、防火栓の捜索に時間を空費するの缺點がありますから、今後に於て施設すべき防火栓は、交通に支障なき限り成る可く地上式を採用したいのであります。

(二) 各地域に對する防火施設

船場地域

此の地域は、本市商工業の中心地帯を成し、高層建築櫛比せるの現狀に徴しまして、在來水道施設の一良改部だけによつては、到底充分でない上に、一旦火災に際しまして、其の蒙る損害の程度は寔に由々しいものがありますから、本地域に對しては、根本的防火施設として、耐震構造の高壓防火專用水道の施設に依るを最も緊要だと考へて居ります。その防火水道計畫に關しては、既に計畫を樹てましたが、是は省略することゝ致しませう。

其の他の市地域

島の内、土佐堀、靱、阿波座、新町北堀江及南堀江の各地域は各市内河川によりて圍繞せられ、その河川よりの最長距離は、島の内三丁、土佐堀以南堀江に至る地域は約二丁内外であります。そして斯の地域は河川の利用が稍備はつて居りますから姑く消防喞筒の給水を河水に頼るとゝ致しまして、漸次に完全な防火水道を作る考へであります。

本市の周圍部に對する施設

その他、本市の周圍部に於て河水の利用が不充分な地域に對しては、水道防火栓の補助と成り、水道故障の場合に於ける應急施設ともなるやうに適當な區劃毎に、既設水道鐵管より引込の貯水池を以て消防喞筒に給水することにしまして、其の貯水池の位置給水範圍、平時の使用方法、貯水池の容量並に建設費等を概ね次の通りの計畫を樹てました。

(A)位置及數は、別圖記入通りであります（圖面省略）其の計畫の根據は消防に際して、河川利用の不便に基く危險の區域、人家稠密の程度、並に

既設水道の水壓水量の關係等より決定したのであります。

(B)給水範圍の決定基準は、消防用『ホース』の有効距離を、平坦なる路上に於て最大三丁と見做し之を半徑として貯水池を中心とし圓を作れば、其の圓内が實際上給水し得る範圍であつて、其の面積は十萬一千八百坪であります。圓區劃なるが爲め圓外の場所を生じても、半徑三丁なるものは多少の餘裕を見込むだのでありますから、圓外の場所も亦放水到着距離と見て可いのであります。

(C)貯水池設置箇所は、用地其他の關係上、主もに學校、公園又は寺院敷地内に選定しました。そして、平素は『プール』を兼ねまして游泳に用ひられます。

(ヘ)貯水池の數は、合計三十六箇所であつて、其の給水區域の町名は別表の通りであります。(別表省略)

貯水池の容量

貯水池の水量は、水道鐵管よりの引込でありますから、時間に無關係とすれば無限に放水されますが、注入量は同時間の出水量に比し遙に僅少でありますから、斯の計算では使用中注水なきものとして計算しました。仍で普通の消火時間を三時間と見做し一箇所の貯水池に對する使用喞筒は、一臺に付毎分二百米瓦倫の放水量のもの五臺としまして、三時間の一齊連續放水量は即ち貯水池水量となるべきものであります。之を計算で表はしますと、

200×3×60×5=180,00米瓦倫=24,120立方呎

即ち一池容量二萬四千百二十立方呎(三千六百石)になります。次に、貯水池の有効水深を平均七呎としますれば、其の表面積は約百坪(長さ二十間巾五間)となります。

(三)建設費

貯水池築造費(敷地費を含む)は、一箇所平均二萬五千圓として、三十六箇所の總額九十萬圓の見込みであります。

變災と救療設備

大阪府衞生課長　上村行彰　《文責在記者》

昨年の大震災の如き非常時變に蒞むでは、忽ちに救療を要する人か多數に出來るから我々の方面から云へば、先づ以て、それ等の人を收容する應急策として、差當りテント病院を設ける必要がある。大概は事變突發の際であるから、組織立つた設備の宜いものを求むる譯には參るまいが、平素から相當の施設を爲して一旦、事あるに際し、小規模なものが彼方此方に澤山散在するよりも、相當に設備の整ふた大きな組織のものを下に纏つた施設をする方が可いと思ふ。實は客秋の震災時にも我々の方では、其の方針に依つて計畫を樹てたのだが、建築方面から、バッック病院と云ふことで、結局さう云ふことになつたけれども、どうも板の間では、音響の騷しいので救療病舍としても適當でない。

それに就いて聊か羨望に禁へない事は、震災當時、赤羽に在つた佛蘭西のテント病院の規模と設備である。自分は將來の參考にもと思ふて視に行つた。それは、佛蘭西から寄贈された其の儘のものを建てるには、餘程の廣大な平地を要するので內務省が唯其の一部分を强ひて造らせたに過ぎなかつたに拘はらず、それで以て却々に大仕掛なものであつた。屋根も壁も二重張になつて居て、天井などにも窓を穿け、換氣を十分にし、手術室だけが板張になつて居て、ズンと廊下が續き、其の背後には自動車のモーターで電氣と蒸汽を起す裝置が在り、炊事場にも同樣の裝置を用ひ、エッキス光線もあれば、消毒も自由に出來る。其の他、醫局から藥局、病室等總ての構造設備が極めて集約的に組織され、患者のベット、藥局の器具類も

成るべく容積を小さくするやうに工夫されて居て患者の取扱施設に至るまで、最初私共が計畫したテント病院の規模に比べては、殆むど同日の談でなく、到底眞似の出來ない程な完備したものであつた。聞く處によれば、その設備は往年の大戰時に佛蘭西に於て野戰病院に用いたものゝようである、それを、震災の見舞には最も適當なものであらうと云ふので、佛蘭西の新聞記者の團體が寄贈して來たものゝやうに聞いて居る。

偖て、大阪邊りに於て、客秋のような非常事變が起つたと假定し、當局者として、その場合に處するテント病院を拵えると、想像して見む歟、先づ、それに要する諸多の材料を、豫め準備して置くことが殆むど不可能であるから、或は大阪市若くは郡部の各警察署所在地と云ふ如き一定の所に應急のテント、藥品、醫料器具、繃帶材料等を準備し、凡ゆる救療關係者と協議して、其の擔任箇所を豫定して置く、と云ふやうなことも考へて見たが、第一それ等の諸材料を保存すべき建築物が必要であり、又それを貯藏するとして、それ等のものは消火器と同じく、常に能く檢査して、時々藥品の取換もして行かをければならぬ、その維持に隨分と多額な經費も要するので、種々と細かい案を立てゝ見たが、迚も實行は出來さうにない。まだ、あの震災當時の氣分では、幾分可能性があるやうにも思はれたが、今日では全く不可能である。仍で、餘り金の要からずして實行し易い第二案を拵へてみた。それは、各官公衙の關係者を首め、醫師會、藥劑師會、衞生會、製藥業者、藥種商組合などと協議をして、十分理解ある規程を設け、各其の所藏の現在品を以て應急の途を講ずる即ち、商品的に貯藏せる材料までも、何等かの方法で徵發（此の場合買收とか提供とか云ふ文字は使へまい）が出來るやうな事にして置いて、例へば繃帶は繃帶製造者の在庫品を以て之に充てることにし、或は大阪のものが燒失したと云ふやうな場合には堺のものを持て來るとか、或は堺のものが燒失した場合には大阪のものを以てすると云ふやうに、有無相通じ、緩急宜しきを制するやうに、平常から準備して置けば、といふような考を

も有つてゐる。是等の事に就ても、私共の内部では、現に幾通りかの細かい案も樹てゝ居る。

要するに、以上の二案は、物品を主として準備し置くか、若くは人の精神を主として準備し置くか、と云ふことに帰着する。その孰れにしても、何とか出來るだけの用意をして置くことが必要である。何れ九月一日には、府市の災害救護規程と云ふやうなものを發布されるようであるから、さう云ふ事務的に定められた案も結構ではあるが、一方から云へば、實際的な非常事變に荷み、果して、事務的に定められた通りに實行が出來得るかと云ふ懸念もあるから、どうしても、前述の如き一般の關係方面とも何等か精神的に十分の結合をして置く必要があると思ふ。問題は勿論、府市當局者にのみ關するのでなく、我等府民として市民として、恒に威嚇されてゐる處の不測に起る問題であるから、皆んなが平素尚精神的に諒解と結合を有つてゐなければならぬ問題である。

あたらしきわれの
踏むべき新しき
かなしき地のまざまざと見ゆ

大火災の危機を伏藏する我大阪市

大阪府消防課長　土井末吉　《文責在記者》

夏期の火災と云ふことを想像して、恰度一周期に當て居る。今さらではないが、一週年といふことから昨年の震災當時の狀況が如何に慘憺たるものであつたかを新に追懷すると、寔に感慨深いものがある。自分は震災直下の實況を知らぬが、自分も親しく災害の跡を視察して、東京の市街があれだけの大慘害を蒙つたと云ふことは、無論、その原因の地震に在つたことを、今さら述べるまでらない事であるが、それと今時々、夏期に於ける火災の他の時期に於けるそれよりも一層恐るべきことを切に感ずる。

我大阪市に於ても、震災に因らずとも、夏期に於て大火災を惹起した例は隨分多くある。事例を擧げると寛文六年の新町燒から、明治四十五年の北區の大火まで二百四十年ばかりの間に最も大きな火災が十回ばかりある。其の中、享保元年の七月、寶暦六年の七月、寛政四年の五月、天保五年の七月、明治二十三年の九月、此の五回は即ち夏期に於て起つた大火災である。遖に時候柄にも由ることであらうが失火の數は少いけれども、一朝火災があつたら、其の損害は却々大きい。是れは一體怎ういふ譯であるかといふに、先づ第一に炎天の爲に建築が非常に乾燥して居るし、又初のまた火の小さい間に消し得れば、可いが、一度び大火となると、消防の事に當る人間が、暑火兩熱のため非常に其の能力を削かれ、長時間の働きが出來ないといふ事が大火を齎す原因の主なるものであらう。

客秋震災時に於ける東京市の例に就いて見ても確にさう云ふ點も現れて居るのであるから、其の

一周紀念の時に方り、特に斯う云ふ點に於ける消防機關の完璧を期すると云ふことは、我々消防職員として常に考へなければならぬことであるが、それは、唯消防職員の働きたけではいかぬ。先づ第一に、建築の方面に於ても、是等のことに就いて火に考へて貰はなければならぬ。最近防火地區なども定められ、一朝火災があつた場合には其の區域で喰止める、と云ふことになつて居るが、併し、其の防火地區が理想通り不燃質物を以て築造し終るのは、果して何時の事であらうか。斯う云ふものは成べく疾くやり上げてしまつて、防火の地區を明にし、火災に會して、我都市の主要部たる其の區域は安全を得たしめなければならぬ。是は、局に當る者だけの考ではいけない、一般市民殊に防火地區に於ける土地を所有し、其處に住居して居る人々の公益的な猛省に俟つの外はない。

次に、東京の大震火災があれだけ大きくなつたのは、種々その理由があらう。けれども、凡ての社會狀態が既往と異つて、今日では、大火災を起し易い狀況にあるのではあるまいか、といふ一理由を擧げることが出來る。例へば、安政の地震などは其の振度に於て、確に昨年の地震よりも大きかつた、と云ふことであるが、而も、其の災害は昨年程に酷くはなかつた。一方に於て、消防機關の狀況などはどうであるか、と云へば、今日では安政の頃に比較して、申すまでもなく非常に進んだ器械を有ち、進んだ施設を成して居る。而も、其の不完全な消防設備に於て、地震の程度が大きかつたにも拘はらず、火災の及ぼしたる損害の程度が小さかつたと云ふことは、近來の一般社會の狀態が、火災を大く成し易い狀態になつて居るのではあるまいか。一般の消防施設が進めば進むだけ、社會の火災に於ける危險狀態も進んで來る。——或は其の危險狀態の方が、消防設備の進むより以上に進んで居るのではあるまいか。仍で、我大阪市に於て、若しもあゝ云ふ事變があつたとするならば、現在の狀態としては、其の慘害を蒙る程度が或は東京以上ではないかと想はれる。蓋し先きにも申述べたように、火災の原因となるべき物が市内に在ることは、確に東京よりも多い、例

へば、發火性の藥品であるとか、或は引火性の物品であるとか、其の他可燃性の材料、さう云ふもの所在量が東京に比して大阪の方が多い。加之、大阪は東京よりも面積が遙かに狹い、人口はより密集的である。要するに大火災の機關は夥しく伏在してゐると謂つても可い。さうした事が大火災を起した原因とするならば、大阪の方が遙かに慘狀を呈してはいないであらうか。されば此の震火災と云ふことを想像する時に於て、引火性或は發火性或は可燃性物品を取扱ふ人には、眼前の小利を捨てゝ都市の長計を圖る意味に於て、大に其の貯藏處理等に就き周到なる用意を望まなければならぬ。

近來、我大阪市に於ては、火災を防止する上の所謂消防の施設も大に進み、又、比較的多くの金を投じて居るのであるが、一般の人は、餘り此の消防機關に信賴し過ぎぬやうにすることが必要である。無論、平素之に信賴し、火災に會して、消防の事は總て之に委ねると云ふことを必要であるが、何も彼も消防萬能と云ふ風に考へるのは、都市百年の長計に鑑みて得策ではない。當局は當局個人は個人、互に努めて災害を防止すると云ふ考を有つて貰はなければならぬ。前述の如く、殊に夏期の火災に會しては、到底、僅かの人員で長時間働き續けることは出來得ない。從つて、消防職員ばかりを賴りにして居ると、思はぬ大慘害を招くことがありはしないかと思はれる。どうしても各自が火災を防火すると云ふ考な有つて貰はなければならぬが、それに就いて、目下消防施設上の問題となつて居ることに關し、一二私の卑見を述べて見たい。

消防職員ばかりに依賴せず、各自消防の事に注意するとして、自衞的に『各自戶に消防機關を設けることの可否』及び『各町內等に於て消防機關を設けることの可否』——斯の二問題であるが、第一の問題に對いては、其の設備の大小に拘はらず兎に角一家內に於て火災防止の上に組織的方法を講ずると云ふことに成り、それが一般に普及されゝば、自然に火災も少くなり、又、小火災は各自の力で消防し得る譯であるから、是は、非常に

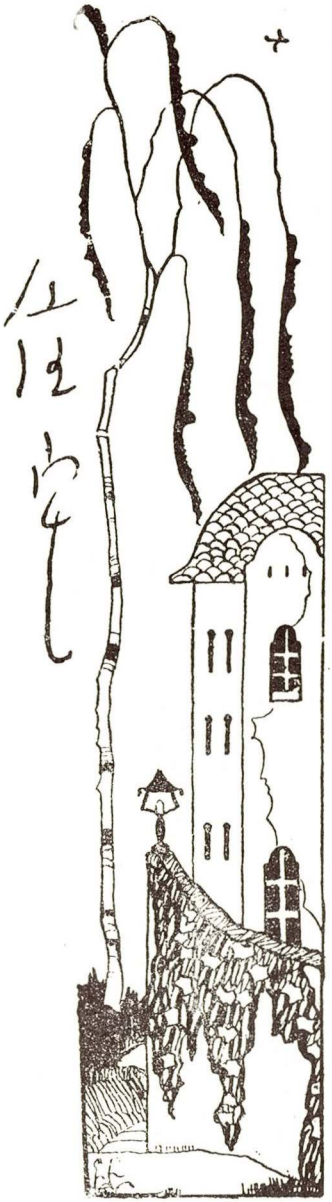
結構なことであるか、それが更に進んで、一町内或は一區域内に於て私的消防機關を設けると云ふことは、一寸歡迎したくない。さう云ふものが一つ出來ると、都會人の風として、甲も乙も丙も、と云ふ風に競ふて、次から次に出來て來る。さうなつて來ると、非常な經費を要するし、其の統一が取れぬと云ふ所から、必ずや火災防止の上に衝突を見ると云ふやうなことも起るであらう。それ等の缺點を豫想すると、寧ろウンと金をかけて、立派な公設的機關を備へて置いた方が可い、と云ふ結論になるのであるから、私に設ける公的消防機關は宜しくない。要するに、個人的のものは可いけれども、一町内とか、或は一區域を限つて設ける消防機關は大いに考へものであらう。

然らば、それ以外に於て、一般の人は如何にして消防の事に盡力すべきかと云ふことになると、私は之に就いて、常備の消防職員以外に、在鄉消防職員なるものを、設けて置く必要がある、と云ふことを常に考へて居る。蓋し、現在に於ても、豫備の消防職員と云ふ者はあるが、それは極めて少數で、而も僅な手當を給して居る者であるから實は報公の念、或は愛鄉の念に乏しいと云ふやうな者も無いではない。仍で、一町内或は一區域を限つて、養勇的消防職員を設け、平素朔日或は十五日と云ふ樣な空しく遊び暮す日を利用して、消防上必要なる一般の知識を養ひ、或は實習を爲し一朝有事の際は、常備の消防職員の支配下に、其の助手となつて、自己の鄉土を護ると云ふ精神の下に働くやうにしたならば、現在の一の力が二にも三にも成り、或は五にもなつて活動することが出來るのであるから、斯う云ふ消防施設をすることが最も必要である。それは、目下考案中で、今ぢう云ふ形式の下にやるべきか、と云ふことを具體的に話すことは出來ぬけれども、是非何とかやつて見たいと思ふ。現に市の方でも、非常の時に會しては、團體を造つて、警察や消防隊の補助をさしたい、と云ふやうな案があるらしいが、兎に角、消防の事に就いては、唯之を所謂消防職員ばかりに依頼せず、市民各自が防火に注意し、之に當るやうにすることが最も必要である。

我國の平時に於ける火災の損害は幾何あるか、と云ふことは容易に想像し得ない、先づ少くとも一ケ年に二三億圓位の損害はあらうと想はれる。我大阪市に於ては、一年に六十萬圓の經費を費して、尙ほ且つ十年平均三百萬圓位の損害に上つて居る。將來は、更に其損害額を減少したい、と云ふ考を有つて居るが、是等の狀態から推して、火災の我全圖に於ける損害額は、蓋し以上の如く見て大過なからうと思ふ。而も、一旦びそれに天策が伴ふと、其の損害額は更に其の幾倍、幾十倍にも上るかは、決して想像に難くない。

目下、我國は、昨年の震火災の爲に、凡ての方面に於て非常に窮乏を來して居る際であるから、火災を防止し、一方に於て生產を增し、他方には現在の物質を飽まで有効に使用して行く、と云ふことが最も必要な際であるから、火災防止と云ふことに就いては、一層深く考へる所がなければならぬ。望むことではないが、關西地方に於て若し昨年の大震火災の二の舞を演ずるやうなことがあり、或は二の舞に至らぬでも、それに似た大災害を受けるやうなことがあつたならば、是は單り我大阪市の存亡問題であるばかりでなく、國家全體の大問題であると云ふ考から、私共は常に是が防止の事に苦心し、而も經費の關係上自分等の思ふやうにもならぬことに就いて、常に、焦慮して居る次第であるが、一般の人士に向つても、特に是等の點に就いて考慮を煩したい。

爽やかな夜明けの雲や海の上



南フランス
リヴイラ地方の農家

伊藤正文

ウヰリアム、デイ、ホスタア氏の「リヴイラ地方の農家」を讀むと、風光麗しいアルプスの南麓地中海岸の陽を浴びた、古い村の農家の雅致のある有樣がしのばれ、我が南河内や大和の古雅な田園住家を思ひ合されるふしもあります。

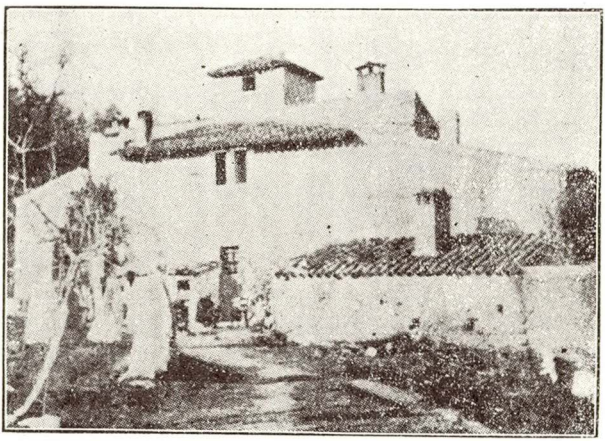
（一九二四年八月譯）

カンヌからマントンに至るリヴイラの地方は歐米旅行家にも世界的著名の一地方としてよく知られてゐる所で、寒氣や雪に閉められる北國から、或は霧雨の降る物淋しい英國の冬から逃れやうとする人々は佛蘭西の東南海岸の雨の少い、夜も殆ど寒くない此地方の陽の光に浴することは喜ばし

いに違ひない。

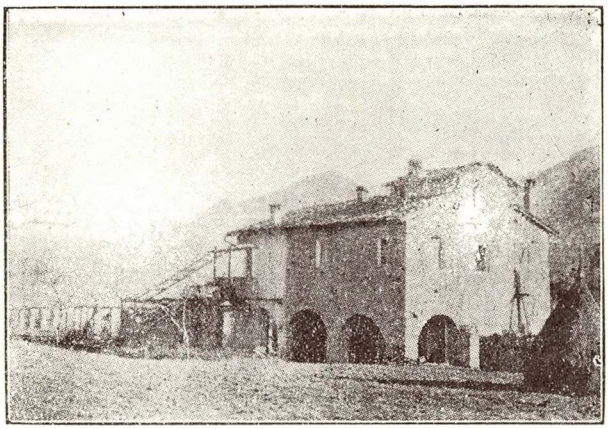
漫遊者は此海邊に沿ふたリヴイラに來て、山脈で北風をさえぎつた安全な土地を見出す。アルプス山脈はゴツゴツした雄大な山の背を海邊にまで延してゐる。しかし山麓の方へ下るに從つて岩石の背の冷い灰色は段々と消えて、美しい橄欖の森に覆はれ又肥沃の野に包まれ、そこには地中海の輝かしい太陽の光に惠れた農園や果樹園が見られる。

此地方の農民は彼等の古からの仕來りによつて町や村に集合して住み、彼等の小さい畑へ毎日出かけて行つては熱心に耕作してゐる。彼等の小さい、農園の中には農具を入れたり、果物を乾したり、或は野菜を貯えたりする爲の小さい家が建てられて居り、天氣の惡くなつた時等には雨風を避ける小屋になつたりする。しかし黃昏には農民達は町の住居へと歸つてゆく。此町の住家は此地方の歷史の全く自然な表現である、そして數世紀の間攻擊に對し侵入者を防いで住民を保護する爲に必要なものであつた。而して又忘れられぬ歐洲の戰爭の數々の度に戰場となつた土地であると云ふいはれがあるのだ。



盛時の跡

我々が歷史を顧みて想像すると、穴居民と種々の野蠻人との間に長いいさかいがあつた後、ローマ人が侵入して南部ゴールを征伏した。而して又サラセン人はローマ人を驅逐する、ロンバルドとサラセンとの戰、又ずつと後には佛蘭西の勢力と伊太利の勢力がかはるがはるそこゝの町を支配してゐた頃ゲルフ黨と皇帝黨(十二三世紀頃)の爭ひがあり、ついに千八百五十九年伊太利は、すでに佛蘭西保護の下



納屋の付いた古の農家

にあるモナコを除きサボイ及ピリヴイラ地方の町をナポレオン三世に譲渡した。そう云つた理由の爲に比較的最近まで此地方の住民に取つては町に住み日中ゝ耕地へ出て行くとの必要があつたのだ。今日彼等住民は尚大部分は結束してゐるから、特に大きな農家だの、大きな畑だのは稀に見る位のものである。

古い習慣はネバリ強く墨守されてゐる。我々の見やうとする農家も性質に於て、而して種々の意味から全く伊太利式である。彼等の大部分は國が尚伊太利統治の許にあつた時建てられたものであるが、しかし今日建てられるとしてもやはり同じ影響があるに違ひない。と云ふのは人口から云つても殆ど伊太利人は佛蘭西人と同數あり、相接するよりも寧ろ入混つてしまつてゐる。政府に關せず住民は入混つてゐるのだから國境に於て特徴や習慣の變化がそれ程明確にわかるものではないがそれの習慣や傾向には見逃せぬものがある。

建築に現はれた國民性の混合は云はゞ地方の『方言』と同じ様な意味のものであらう。ある著述者は『ニンニク(葫)で磨られたフランス語』と云ふ様な云ひ方をしてゐる方言が此地方で使はれてゐるが、建築の場合では私はそれよりもつと、殆ど輕い匂ひのある伊太利式と云ふ位に感ぜられる。氣候の狀態が同じ様に建築の發達のファクタアを定める。そして習慣の様に氣候も又勝利の王様や平和の商議によつて地圖の上に示された想像上の線には無關係である。それ故に茲で吾々は同じ赤

や黄の瓦で葺かれた極緩勾配の屋根、同じスツッコーの壁面、そして又寧ろ小さい位な伊太利でよく見られる様な窓の開口を眺められる。

一方に茲の周りの小山は石だらけであるが、採掘には都合が悪いやうに見える、だからそれを切石として建物に使ふことは殆どない。

壁は一般に玉石をモルタルで積み上げ氣持のよい荒い手法で、古い瓦や煉瓦のかけを以て隙間を滿してゐる。一般にモルタルが非常に多く用ひられるから其結果コンクリートの混合と似た點がある。此等の壁はスツッコー塗り仕上げにするか或場合にはほんの少し壁面を洗ひ出して石や煉瓦をそのまゝにあらはしたものもある。又極めて稀ではあるが、石の面を覆はずに殘す爲に非常に注意して石を外側に積み重ねる。しかし石は殆ど切つたり仕上げたりされることはない。普通一般にはヴオールトやアーチが用ひられその枠には石の代りに煉瓦が用ひられる。

モンテカーローの後方の高い二つの峰の間を上つてゆくと、他の峰で直角に横切られてゐる谷に出る、此の南北の谷は上部と下部の土地に區別されてゐる。その下の方はむしろ不毛の地であるが上部は非常に豊饒の地である。そこには長い歴史を持つてゐる小さいソスペルの町がある、そのまはりには耕作地がありその間にいくつかの農家がある。茲に掲げた農家は皆ソスペルから比較的近い所のもので此全谷の最も代表的のものである。



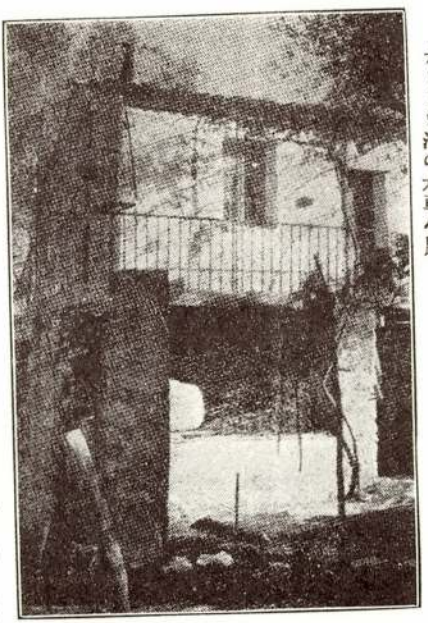
ドミニカン兄弟の家（ソスペル近傍）

それらの家は光でおほはれてゐる。殆ど白いスッコー仕上げで、只かつてはプラスタアで完全に身じまいしてゐたものが、其化粧がはげて灰色の石の肌が出てゐるのが見られる。屋根は簡單な丸瓦で葺かれ、前にはライトレッドであつたと思はれるものが今は苔に覆はれて所々トピ色や青白い緑となりすべては時代の美しさの中に調子づけられてゐる。

ゴルフホテル——そう呼ばれてゐる、それは二つのゴルフコースを有つてゐてその内の一つはモンテカーローからおきに達する事が出來るのでそう云ひならされてゐる——へ行く入り口に小さい家があるが今は一方の端のみ仕事に使はれ他方の部分は納屋にされてゐる。人はそれがカリホルニアの山麓の小丘にでもある小住宅だと思ふかも知れない程面白味のあるものだ。此地方は一般に同じであるがペイルの町近く丘をはるか上り、テレースになつた橄欖の森の眞中に入るとそこには二



カプザーメーアの古水車小屋



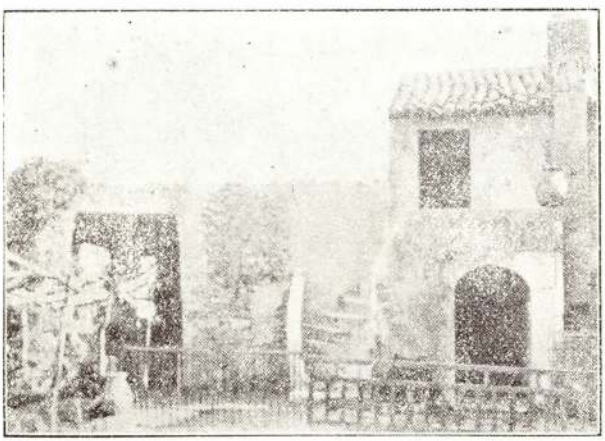
カリーヴ油の水車小屋



オリーヴ油の水車小屋

階の床から出られる露臺のついた小家を見る。それは只單純な農夫の家であるが、ペイルの町に近づく程面白いのが見られる。

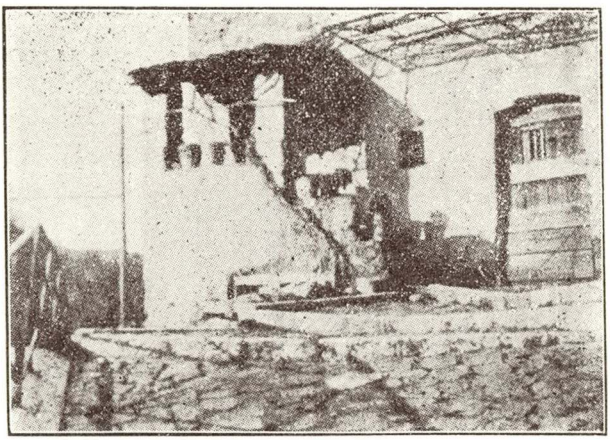
此地方の西にニースとカンヌの間はヴイル、ヌーヴ、ルーベの町がある。それは中世紀の要害であり長い間の色々な歴史的の事件を物語てゐる。此地及近隣の町を支配して居た強力なヴイルヌーヴの住み家であつた。又此地方は農地にも森にも頗る富んでゐる。その町の近くに古い橄欖油の水車小屋ではあるが、何方かと云ふと見識ばつた構への家がある。その水車は今も昔も相變らず長い年月の間同じ役目に廻つてゐる。同じ道に沿ふてゆく事もそう遠からぬ所に美しい古い農家がある。此家には一日を田舍のシートに過さねばならないと云ふのはその大さ或は壁に圍まれたエントランスコートヤードから判斷して、寫眞にも撮りにくいし、今は全く朽ち果てゝゐる



カヌネのコランピエール

のだ。此建物を覆ふ屋根の配置案配は實に面白い大地主の住んだ家は他ものと同樣かと思はれるが長くまとまりのない狀態にあり今では色々の人の家族の住家や、木挽小屋に使はれたりしてゐる。水は家の下のアーチウエーを流れてゆく。

ヌヴイルヌーヴルーベ近くと云つても僅かに車が通る位で他からかけ離れた所に一つの打捨てられた農家がある、それは二階にロッジアがある。此あけはなしのロッジアはかつて此家に住んだ人の好みの爲に作られたものやら、果物を乾す爲の用に作られたのではなかつたかと云ふことは疑問である。今日の場合ならば、多くの田舍の建物なら無花果やみかんの皮をほすのは南の陽をうけ、雨をよける爲に用ひられるだろうと思はれる。

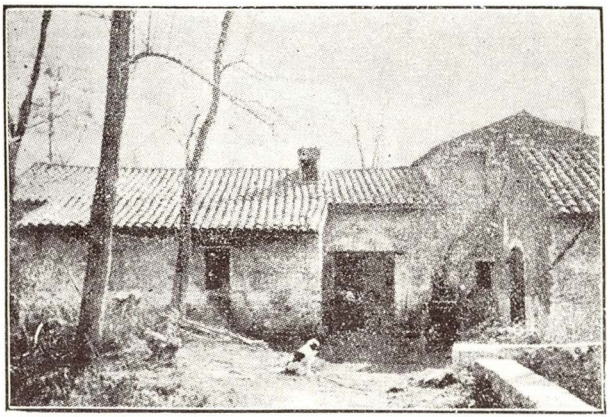


「ヴイルヌーヴルベ」のある戸口

兎に角それは面白いモチーフでよいポーチが作られてある。その古いコートヤードへ入る入口はその地方の代表的のもので周の壁から心持ち高く上げること、少しの瓦をふいて調子を強めてゐる。中庭の他の側の建物は面白くないし初めのプランから變つてしまつてゐる。小さい屋根のあるポーチー奇妙に損じた石段が往來から上つてゐる。

他に面白い入口のポーチは『ル、コランビエール』と云はれてゐるサグネスの小さい家のそれだ。家は數ケ月前に捨てられた納屋になつてゐる。しかしある計畫好きなしかも賢明な佛蘭西の婦人はその町に來た英米人の客が非常に面白がつたのに刺激されてそれを買ひ、その地方の古い特徵を失はぬ樣に簡單な方法で改修した。そして賃貸にした

最近アーチウェーの上に近代の電燈が異常に輝いたり、鐵のベッドが置かれたことは成功とは云へまい。しかしそれも近所の田舎の此頃の特色であらう。サグネスでは他には、町の下の方軌道近くにあるものも、だん〳〵新しい事務用の建築でとりまかれてゆく、それも又かつては古いオリーヴ油の水車小屋で、その建物の持主が私に古い木製の戸棚を賣り度いと申出た。それは長い間近代的の仕事に押のけられてゐたもので、私がどこかのミユージアムへたしかに中世紀の道具としてうることが出來るだらうと見込をつけたらしい。しかし餘りにかさ張り過るので買ふのは止めた。リヴイラの裏の此等の建物の中には非常に小さい實に美しいものを發見することがある。こゝは農民の國だ、だから又フランス人が住みたいと思つても、彼等は古臭い所にくすぶるに耐えない。そして別莊を建てたくなる、それは恐しいことであり、又現代の實相である。たとへヴイルヌーヴルーベ近傍の農家の樣な美しい家を見出してさえも同じことだ。そうして今の農家のやり方の爲に前の稚致な非常に失はれてしまつた。



低い地に這ふ家（スッコーニ仕上げ瓦葺き）

フランスと伊太利の境に近い農家は多くの寶庫の樣なものだ、又同家族の何代も續いて住んだ家等は特にそうだろう。

特別に面白いのはこれらの古い家が時々に滿たされた所の家具だそれはフランスとイタリイの兩方の影響をうけてゐるし中には何方とも見分のつかないものもある。又農民のアイアンウオーク、燒物レース、縫箔、等其他手藝品の色々な形のものに面白いものがある、それはすべて作者が家庭の傳統からうけついだモーチフを丁度時代の流行の樣な工合に用ひたものである。

和洋法に
快い調子を見せ
高級簡易住宅として成功せる
青山秀吉氏の新邸を覽る
（口繪參照）

郊邨

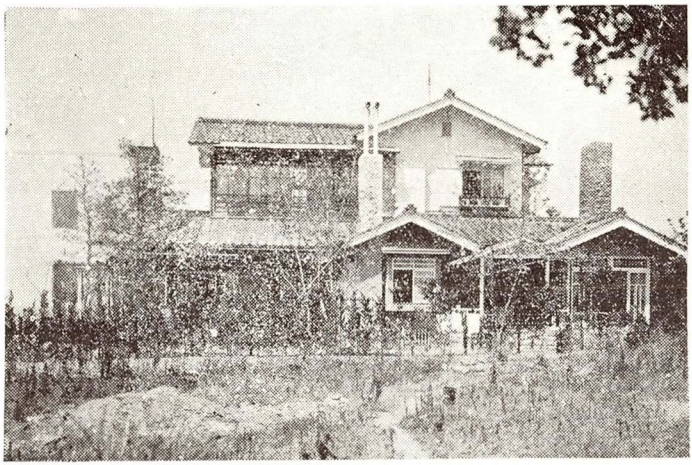
西攝、夙川の高陵に倚りて、翠巒と茂林を背に攝津平野の展望を前にせる風光の地、西宮町水越に近來營まれたる青山秀吉氏の新邸は、現代の簡易住宅建築として創作的のものであると同時に、最も成功した一つであることを推稱したい。

いつも云ふことであるが、現代の住宅建築は、或る特殊なものを外にして、最早や模倣、誇大、乃至は、壯美といふやうな時代を夙くに通り越して要約、簡便、少費、而して趣味といふ時代になつてゐる。從つて、住宅建築の樣式にしろプランスングにしろ——或は構造そのものにしろ——凡てが創作的なものでなければならぬ。されば、其處に住宅建築としての惱みがある。

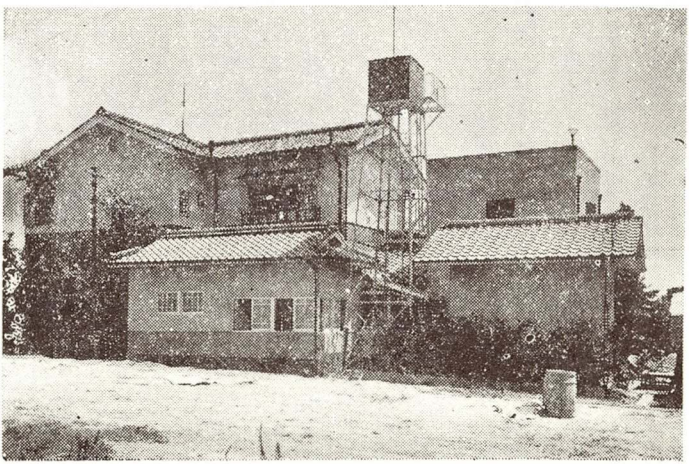
主題を日本趣味に採つて洋風化するか、西洋趣味を基調として、それを日本化するか、乃至は、その孰れにしても、兩者の調和と融合を怎ういふ風にするか、深く考へれば問題は多い、眞劍になれば惱も少くない。

斯うした考へと要求は、恐らく現代の建築家や多少建築を解した者を通じて有つてゐる問題であり、隨つて、從來 幷うした考への下に創作された住宅は、我大阪附近にも可成りに出來てゐる。細かく云はゞ記、者の覽た處では、その孰れもが所謂千慮の一失もあれば、凝つて思案に能はずの

缺點もある。けれども、それを通じて、新しいものが出來る毎に、我住宅建築の一歩み々々々に時代的進化を遂げて行くのを、まざ〳〵と觀取し得られて、記者は少からず嬉しく思ふてゐる。青山氏の新邸も斯うした建築の新しい、レコードを拵へた一つと謂つて可い。――設計に就いての理想は日本趣味を基調とする椅子式とする事外觀よりも内容を本位とする事、主要なる室は何重にも活用の出來得るやうにする事、夏向に涼しく。冬季に暖かくべく平面の配置その他に注意する事、而してそれらの設計を通じて、成るべく工費の節約と耐震構造たらしむる事、といふのである。



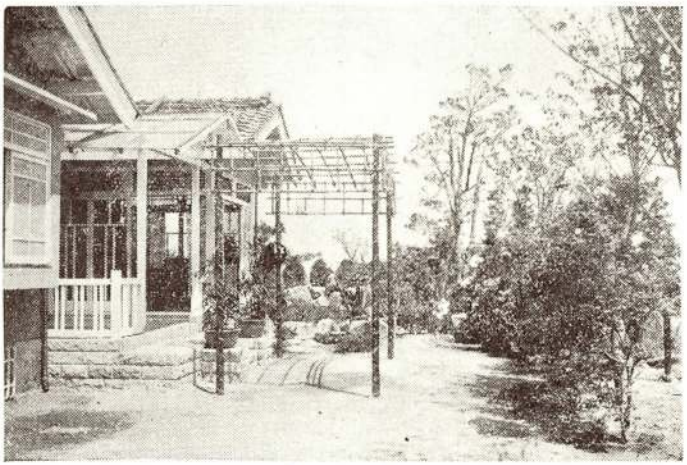
南側面



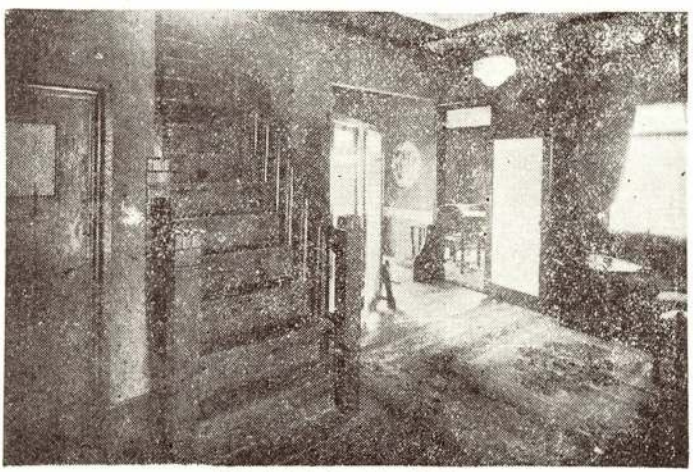
北側面

記者の覽た處では各室の配置から、用材の選擇、構造上の手法その他、用具の末に到るまで、奈何にも、斯うした理想の具現化され、聊か月並みの調ではあるが、苦心の跡がまざ〳〵觀取された。

先づ何よりも、廣袤（スペース）を巧みに取りこなしたことである。階上階下約八十坪の建面積を有つてゐるとは云へ、ポーチと玄關を外にしても、廣間兼家族室、食堂兼居間、サンルームからベランダー、臺所兼朝食室、煖房用アルコーラボイラー室、化粧室、浴室、小供室、書生室、女中室、電話室、寢室その他、婦人室、老人室など殆んど生活樣式の凡ゆるものを、さして不自由の無い程度に配置され



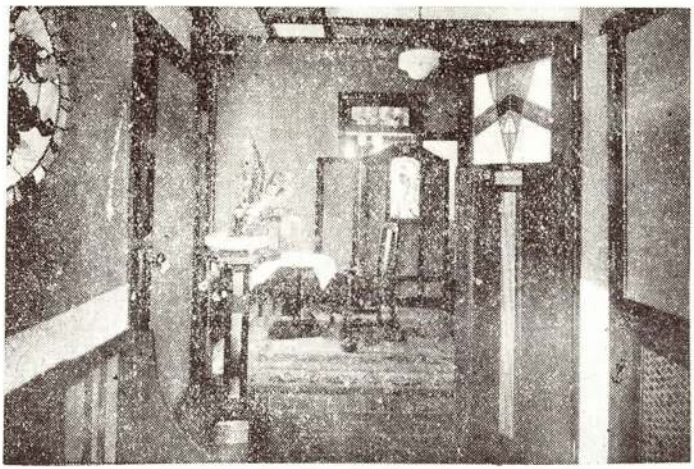
ベランダーとサンルーム



書齋兼應接室（室の側右）

たのは、設計者の凡手ならざるを思はしめた。

そうして、食堂に兼用したる居間の手法に觀ても、餘りに日本趣味が人の眼を惹くのでもなく、さりとて何處かの文化住宅のやうに日本婦人の洋裝を視るやうな感じがなく、日本風の落着いた中に、洋風建築の氣分を充分に味はれた。蓋し、先づ



廣間の利用

成功である。

居間の片隅を食堂に用ひられたのは、斯の種の建築として、わたくしの寡見なる、新しい試みのやうに思はれた。或る建築家の曾つて提唱したやうな、間仕切り無しの氣分で境界を見せた室としての試みとして見れば見られぬこともないが、少々狹いやうに感じられたのは、白堊の微瑕で大した問題ではない。

サンルームと云へば、バタ臭い響きを有つが、何んの事はない南向きの小部屋と見たら間違ひはない。日陽ぼつくの廣椽が硝子障子になつたまでゝ、組み天井の手法からして、日本部屋を充分に嗅はしてゐる。

玄關を上つた廣間を、ちよつとした應接室に使つてゐるのも、スペース利用の新しい一つであらう。

從來は、多く下方の空間を利用することを考へられて、上部の空間は殆むど顧みられてゐない憾みがあつた。斯の建物には、臺所などに、頭から上の空間利用を、巧みにてなされたのも、亦創意

的なものと稱へて可い。

床の面に織物を用ひて、何時でも取替へ得られるようにしたのも、氣分轉替の手法として、設計者の慣用したものである。

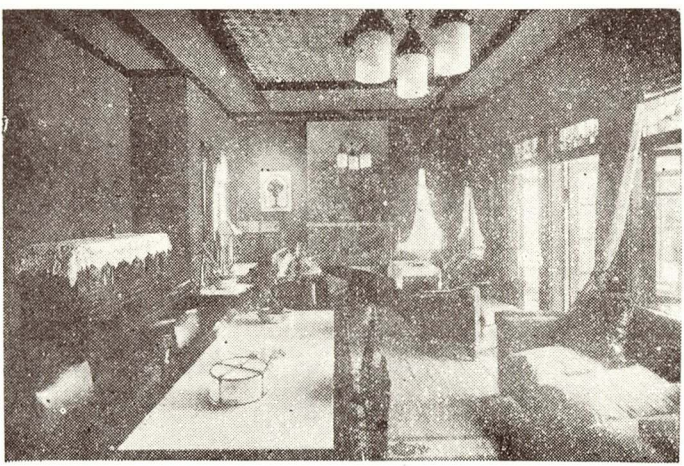
斯くて、設計者の理想通りに、大概な部屋が何重にも利用し得られて、無駄の無い處が亦誇るに足る目附けものである。

住宅は構造そのものとして素より靜的なものであるが、それを應用される上に於て動的なものであると同時に有機的なものである。住む者が何れの部屋をも常に生かして便ふ處に有機的としての存在がある。所謂簡易住宅とは、生活要素の或ものを節するといふ意味でなく、即ち、有要な設備を節約するのではなくして、極めて要約された中に、それらの有要なものを具備しようといふのにあるから、所屋は、どの部屋も幾重に利用され有機化されるといふ事に皈するだらうと思ふ、斯の點に就て先づ成功だと云つて可い。

外觀の厚重なるに引替へ、内部材料の相當美化されたのは、所謂道作中心としての理想が、よく具現されてゐるのも、心嬉しい一つである。

若しそれ、經濟的の關係に到つては、簡易住宅としても、謂はゞ高級に屬する方だが、それで建築費の驚くべき低廉であつたのは、此處にも所期の理想がよく實行されたことを稱へざるを得ない。

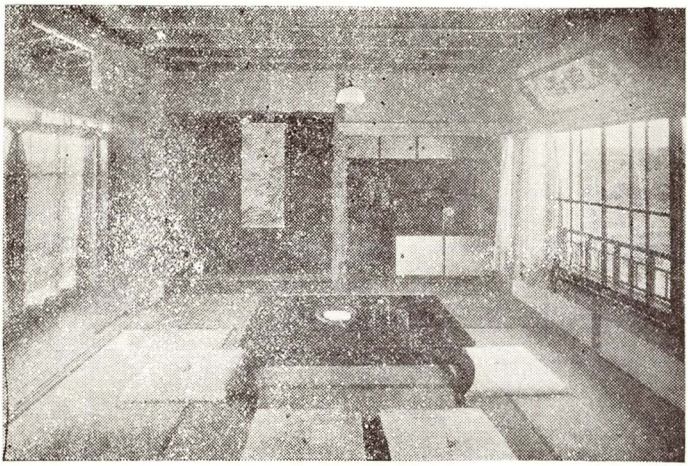
書き遲れたが、斯の建築は、九十一坪二三であつて



居間兼食堂

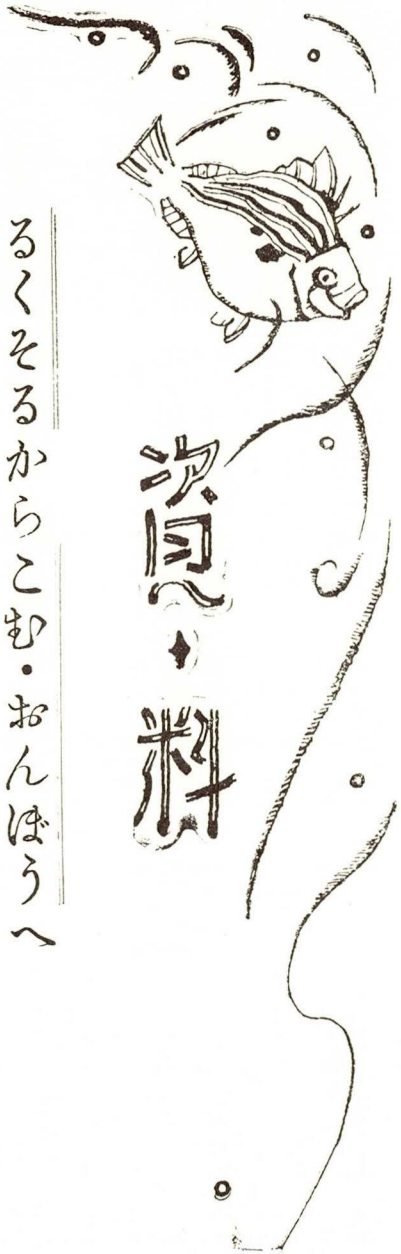
本造二階建、屋根切妻、北陸産釉薬瓦葺外部壁上方ロックスタッコウ、下方銹色セメント人造出展し腰立山赤縁白荒叩き亂積、壁下地ラス、天井漆喰と網代、ざツと斯ういふ仕様になつてゐるが階上二十一坪四四階下五十一坪五九附屬洗濯場と納家（木造平家建）八坪二五、中村式鐵筋コンクリートブロックを用ひた二階建倉庫十坪——斯ういふ仕様になつゐてる。

終りに、工事關係者を列記して稿を結ぶことゝしよう。



（二階）婦人室と老人室

設計監督　松本儀八氏
建具、家具、假漆塗其他　大阪府立西野田職工學校家具模範職工團
大工工事　島崎年造
左官工事　芦田虎三
建具　津田丈太郎
アルコラー式畯房工事　高田商會大阪支店
鐵筋倉庫　中村鎭建築事務所
ロックスタッコウ水道工事　南滿工業株式會社
淨化裝置大正便所　浪速商會
電熱電灯　城口龜吉
耐火リノリウム及コルク床　東京電機大阪支店
カーテン壁紙　耐火リノリウム會社
ペンキ塗　片山恒吉
タペストリータイル屋根瓦　高島屋製飾部
ステーンドグラスモザイツク　三陽商會
建具金物　辻製作所
大理石材　井村商店
日華石工業株式會社
樋工事　渡邊商店
ベニス工房
堀商店
大理石工業株式會社
長谷石材店



滿蒙資料

るくそるからこむ・おんぼうへ

——續埃及遊記（八）——

工學博士　天沼俊一

十月三十日　（月曜、好晴）

四時四十五分に起き、五時十五分に朝食をすませ、同三十五分に宿を出でゝ驛に向つた。十月の末の朝の五時半は、いくら埃及でもまだ薄暗かつた。だから先づ早い方の部である、にも係らず出がけには相不變錢貰ひがゐる、最も甚だしいのは馬車へのつてゐる私の背を敲いて錢を乞ふのであつた。貰へるか貰へぬか判りもせぬに、よくも早く出て來たものだと思つたが、暑いところだから朝起きして凉みがてらに來たのかも知れぬ。食堂の給仕等も隨分いぢがきたないが、流石に給仕頭は土人ながら中々やり方が上手で、萬事滯りなく迅速に處理して知らん顏をしてゐる、だからどうしても金をやらずにはゐられぬ、上埃及旅行中氣

持よく心附をやつたのは此男丈けであつた。

私が乘つたのは朝六時當驛發アスアン行のである、早朝出發した理由は、アスアンへ直行するのなら其必要はないが、今日はエドフウで下車して有名なホーラス堂をみ、コム、オンボウ泊り、其上出來たら其堂もみて了ひ度いので、だから朝早くないと都合が惡いのである。



エスネー堂の祭神クネム（羊頭人身「未」）

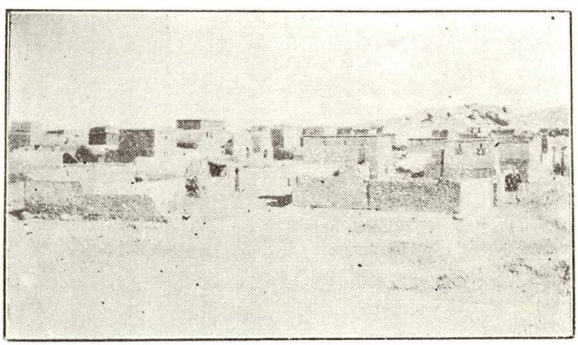
當驛以南の客車は、外部を純白色のペンキで塗り、硝子窓は下へ、其外のガラリ戸は上に開けるのである。そして窓の上部からは、羽重ねにした板の日覆が窓全體の1/3位下がつてゐる。そして窓硝子の色も無色透明でなくて、紫がかゝつ青色のが嵌めてあつた。これは熱烈な日光を緩和する爲めなる事勿論である。私は初めてこんな汽車へ乘つたので大變に面白く思つた。成程熱帶の汽車はかうするものか、四十面を下げる迄田舍役人を勤め、どこへも行く折がなかつたので何も知らなかつたが、どうもうまく考へたものだと連りに感心をしたのであつた。併し後日印度を旅行した際に、到るところ殊に南印では何れも斯樣なれ車だつたので、しまひには平氣になり何とも思はなくなつて了つたが、この時は初めてゞ意外だつたので珍らしかつたのであつた。

ルクソルからエドフウ迄停車場は幾つあるか、一つ一つ停車しないやうだつたから急行なのであつたらう、停つたのは私の氣のついた丈けで七つあつた。其内四つ目がエスネー（Esna, Esneh で、こゝには羊頭人身のKhnemu 神——十二支の「未」——を祭つた堂があるが、汽車の内からはまるで在處すら分らぬ、たゞ川を隔てゝ遙に二三基の尖塔を望み得た丈けであつた。けれども車内からの眺はまことによかつた事丈けは忘れぬ、勿論行つてみたかつたが、出來ない相談だから我慢して了つた。

六つ目はMahamid驛である。こゝは田舍にして

は人家稠密殷賑な大村落で、其村外れに驛があるから、此邊の民家の有樣を割合に近くでみることが出來た。其大體を記してみると、家屋の殆んど總ては泥土煉瓦を以て築き、形もいろいろあつたが、要するに其平面は何れも長方形で、餘り込み入つたのは無かつたやうだ。其內一番眼立つたのは、長方形の平面で兩端は段形切妻をなし、天井兼屋根は筒形穹窿をなしたものであつた。此種の家屋はアスアン附近にも可なりあつたから、後には珍らしくも何ともなくなつたが、今日は初めてみたので甚だ面白かつた。まだ他に大きな建築で古い堂の大門の樣な形のものを建てゝゐる家もあつたが、汽車の窓からではどうする事も出來ぬ。時間の都合さへよくば途中下車して寫眞も撮り度く、出來たら其內二三は入つて內部の模樣も一見し度く、心中大に鐵道事故の發生を祈願したが、其甲斐なく僅に二三分間停車した丈けで汽車はでゝ了つた、仕方がないから汽車の窓から寫した寫眞を記念にせめてもの心遣として揭げておく。

此の寫眞に就いて特に注意され度いのは、左端中央に小口の見えてゐる穹窿で、其小口が斜めになつてゐることである。此れが若し果して亞述亞あたりの原始穹窿の樣に、總ての泥土煉瓦を斜に積だものだと甚だ面白いが、私の肉眼ではよく見えなかつたし折惡しく双眼鏡も手元になかつたし、たゞ小さな寫眞に殘つた丈けで、今になつては實況は判らぬが、興味を惹くものであることは確かである。

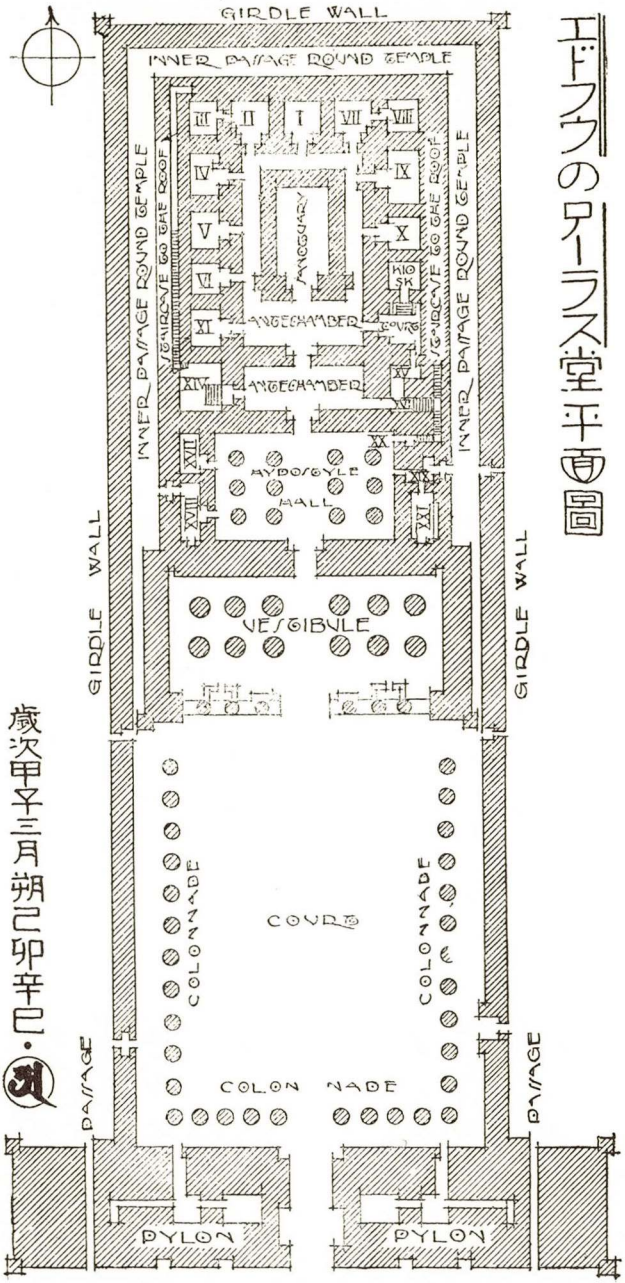


M: hamid驛土民の家屋
(氣車の窓よりとつた寫眞)

十時十五分にエドフウ驛に着いたが、村はまた左岸にある。其村の眞中からホーラス堂の大門が群を拔いてゐるのは心地がいゝ。下車して數十步

すると直に河岸で、そこには小舟が待つてゐた。今日は朝から風が適當に吹いてゐるから、僅に十三分で對岸に着いた。直にそこにゐた驢馬に乘ると小走りにかけ出した。お蔭で客は身體が絶えず上下に振動し腰が痛む、即ちのべつに Impact が起るのだから遣り切れぬ。併し駈出した爲めに十二分間で早くもエドフウ堂の大門の脇迄到着する事が出來た。だから下車してからこゝ迄合計二十

エドフウのアーラス堂平面圖

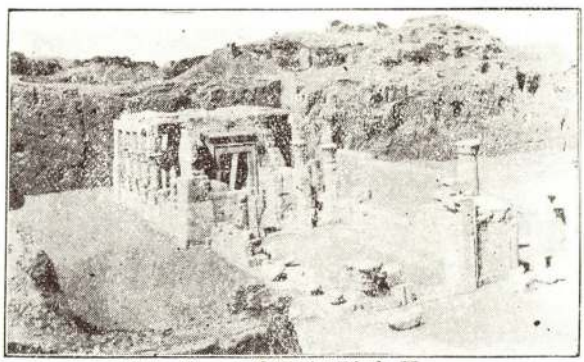


歲次甲辛三月朔己卯辛巳・

五分かゝつたのであつた。

當堂は創建後二千年餘――前二三七年創始、前二一二年落成――を經過したにも係らず、最も完全に保存されてゐるが、地形丈けは非常に變化したものか、今の位置は際立ちて低き爲め、入口に達するには特設の石階數十級を下らねばならぬ。

堂の前向て左手に、堂と直角に東面して一小堂がある。これ即ち Birth Houseで、其式デンデラのハソール堂の夫れによく似てゐる。曩に記すことを忘れたが、これは其神の生れた家であると傳へられ、土語でMammisiといふ。勿論一小堂故大したものではないが、開花柱頭の上に更にベス（Bes）神がつけてあるのは面白い。ベスは侏儒で頭小さく、耳朶は虎屬の夫れの如く鬚多く、鼻平たく口を開き舌を出し、顏大きくいかりまたをして正面向きに立つてゐる（大概の神は横向きだのに此神計りは正面向きだ）だから詰り所有埃及の神々のうち最も醜い形で、大體からいふと顏は卵の樣な輪廓で、夫れに比べて身體が不相當に小さいから、先づ埃及のHumpty-Dumpty といふ格である。何故こんな化物を柱頭へつけたかといふに、産には是非必要な神で、古くは例の紅一點なる二十壽女王の降誕の時に出て來る、以來産の神になつた。だから神が生れたと考へられてゐる『産殿』についてゐるのは當然であらねばならぬ。

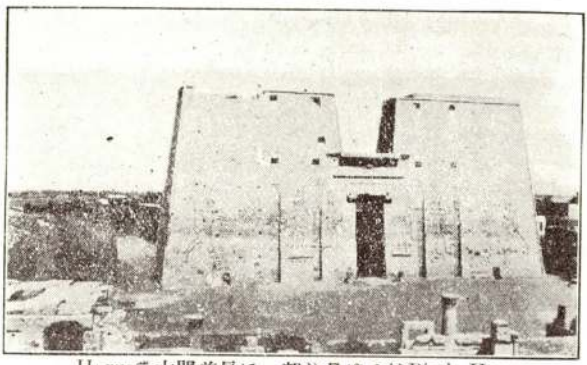


Eafu Horus 堂附屬のBirth House

肝心のホーラス堂は、挿入平面圖の如くであるから間取其他は記入の文字で知られ度いたゞ大門及玄關前に一對の黑花崗岩水磨きの大鷹の立てるのと、復式開花柱領と棕梠葉柱頭との柱の竝立と、堂と周壁との間が一巡出來る事とが他と變つてゐた。

流石に鷹は甚だうまく出來てゐる、大門前のも

の〻内、向て右のものは兩足の間に羅馬風俗の僧形が立つて居り、玄關前即ち中庭の一對は、左方のものが完全で頭上に復冠――上、下埃及の復合冠――を頂き、右方のもの破片となつて地上に轉がつてゐた。



Horus童大門前景に一部分見ゆるはBirth House

正面大門の左右翼樓は、最上部の軒繰形の部が多少破損してゐたのは遺憾であつたが其他の部分は完全に殘つてゐる。故に全體として其完全さから言つたら、或はカーナックのコンス堂大門には及ばぬかも知れぬが、大さと立派さとからでは到底比較にならぬ。先づ其正面にはラムセス三世堂の夫れの如くNeos Dionysos王――即ちPtolemy XIII――が多くの俘虜を頭髪で捕へ、鷹頭人身のホーラス及び女神のハソールの前で泥棒を以て打つてゐるところが刻んである。寫眞は小さくて判らぬが其兩端に在て片手をあげてゐるのが即ち此王で、旗竿溝の間にゐるのがホーラス、其後方溝と入口との間のがハソールである。

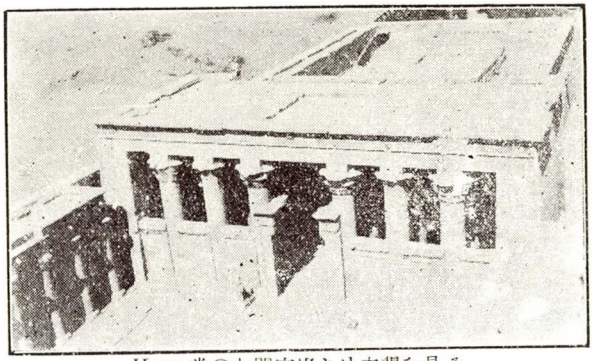
扨てこゝで無駄なやうであるが此のホーラスに就て一通り說明して置かうと思ふ。此の神にはざつと七種類許りあるらしいが、其內でも特に次の二つがよく出てくる。

Heru-ur=Horus the Elder
=Elder brother of Osiris
=Haroeris

Heru-p-Khart=Horus the Child
=Son of Osiris and Isis
=Harpocrates.

此等の大鷹と小鷹とは一つなるが如くまた別なるが如く、時には全く錯綜して了つて何れを何れとも定め難くなる時もある。エドフゥの鷹神は鱷

の大敵であるが、隣りのコム、オンボウでは仇同士の鷹神と鰐神とが長屋に住んでゐたのである。オサイリスの敵のセットの變身せる獰猛比なき大河馬を片舟にのつて退治してゐる勇氣凛々たるホーラスがゐると同時に、母親のアイシスに抱かれて乳を飲まんとしてゐる赤ん坊のホーラスもゐたのである。尙此のInfant Horusに就いては後にまた少しくかいてみ度いことがある。



る見を嶺玄より根家門大の堂Horus

大門の上に登るには、其内部に設けてある石階を昇ればいゝ、門上から村は勿論、展望は可なり遠方まできゝ、景色も甚だよろしい、のみならず室の半面も一目瞭然である、其上中庭左右の廻廊の屋根へ出ると、大門翼樓北側の彫刻もみることが出來るし、玄關前に並立せる開花並に棕櫚葉柱頭を近くみ得るのである。

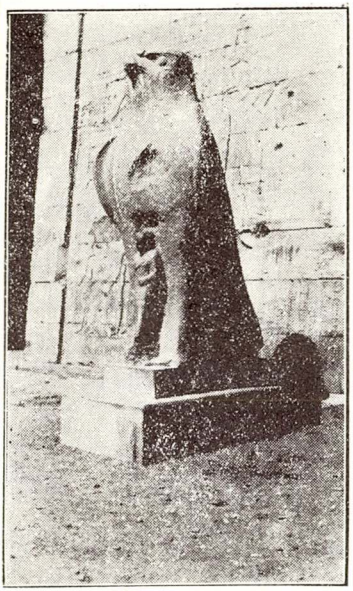


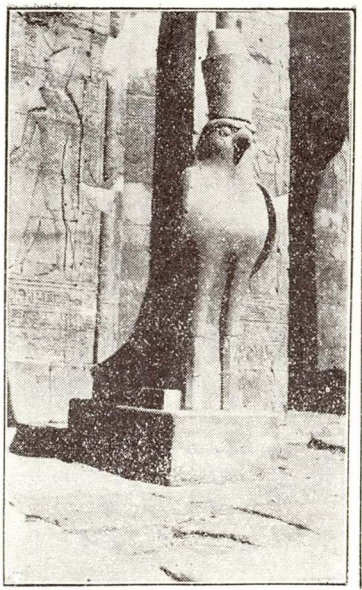
頭柱合復及頭柱葉棕の關玄

時間の關係もあるから內陣の屋根は割愛して、內陣の側壁と周圍境界壁との間を一巡して壁面の彫刻を觀覽し、思ひ切つて歸ることにした。時に十一時四十五分、だから丁度こゝに一時間と五分ゐたのだ。之れで歸りも思ひ樣に馬を飛びはねさせたゝめ、二十分間で驛迄歸着した、即ち〇時五分であつた。

もう發車迄大して時間もないので、直に侍合室

でルクソル舘から持參した辨當を開き、危險を慮り飲料水も新鮮なソーダ水を同樣に用意してきたのであつた。然るに私が當地着以來、太つた虫の


大門入口東脇の鷹


支關入口西脇の鷹

好かぬ男が古錢を買へといつて眞僞不明の羅馬時代と見ゆる銅貨を突きつけたから、不用だといつたら冷しラムネを飲めといつて賣りつけやうとしたこと數回に及び、煩くて仕方がないから横を向いて何といつても知らぬ顔をしてゐたが、此時もまた傍へ來て一本位冷しラムヂを買つてくれてもよからうといつた。いらぬと怒鳴つたら今度は猫撫聲を出して嘆願し、扱きますよといつて正に栓をとらうとしたから、其男の顔を見つめ成るべくむつかしい顔をして、扱くなら勝手に扱くがいゝ何もおれに斷るには及ぶまい。但しおれは代金は決して拂はぬから其覺悟をしろといつたので、漸く相手は退却したが、其うるさ加減はこれも亦一度經驗した者でなければ到底わからぬのである。

食事をすました時注文した樣に都合よく下り列車が來た。今朝のはすいてゐたが此の汽車は滿員で、僅に席を得たが丁度私の向側に白い長い顎鬚を生やした上品な老紳士がゐて、私に印度から來たのかときくから、來たのぢやないこれから往くのだといつたら、老人は成程こゝからだと往くこ

とになる、印度はどの邊へゆくのかと、どこ迄も私を印度人にして了つた。

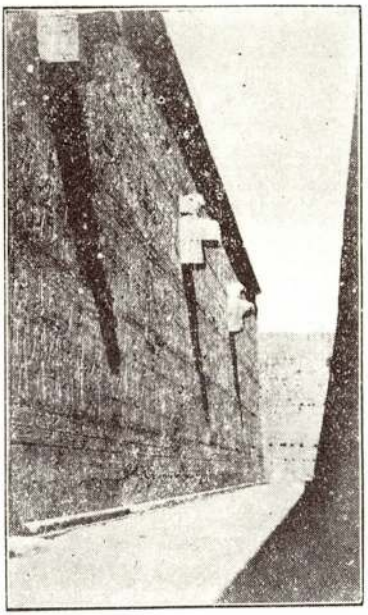
亞米利加では朝鮮人にされたことがある。英國の田舍を三等へのつて旅行した時、相乘りの田舍男が鬼殺をすひ乍ら西班牙人だらうといつたことがあつた。今日はまた印度人と間違へられたのである。だんだん面白くなつて來たのでつい相手になり、印度を出來る丈け旅行して孟買から船へ乘つて日本へ歸るのだといつたら、初めて判つたらしく扱ては日本人か、私はすつかり印度人だと思つてゐたのでといつた。此老人顏は頗る好々爺だが頭は少々惡いらしい。そこで今度はこつちから生國を訊いてみたら丁抹だといつた。成程分つた多分コーペンハーゲンあたりの近在からでも出て來たのだらう。實はもう少し田舍で生れたらしいが、あの小さい國では少し引込むと獨逸領になつて了ふ虞がある。ところが此老人Sliwan——覺え易い名で『汁椀』——驛で下車し、歩廊にゐた大勢の土人と親しげに挨拶をしてゐた。今迄觀光旅客とのみ思つてゐたのに、さうでないらしいので遂に老人の職業鑑定が出來なかつた。



Evelyn Paul筆Horasの奮戰

汽車は不相變沙つぱらを走り、窓から風と一所に微細な泥土の粉末が入り、其上二等の鮮詰だから勝手に窓を閉める事も出來ず、大分に困つたが其內漸くKom Ombo驛着、驛前のKom Ombo Hotelに入り、庭園に面せる地階の第三號室に陣取つた。時に午後二時四十分、泊り客も少なく至極閑靜で大いに氣に入つた。田舍宿と思ひの外中々上等でルクソル館にこそ及ばないが、御殿館や段

々館等足元へもおひつかぬ位清潔であつた。一休して直に御坊堂の見物に行くものと思つてゐたが案内人は何も言はず知らん顔をして、紅茶でも召上りますかといつた。堂はいつみに行くのだといふと、明日でいゝでせう、今日は半日休養しては如何ですと中々動かぬ。昔しの天子様は雙六の骰子と山法師とは思ふ様にならぬと仰せられたさうだが、埃及の案内人は其最も甚だしいものである



Horu-堂内陣壁と外壁との間の通路

雙六の骰子の方がまだいゝ位だ。

今から行くと堂の前面に日が一ぱいあたつてゐるから、寫眞をとるには甚だ都合がいゝ、といつたら是非ともならば今からトロリーを要意させるけれども、明朝だつて寫眞に差支はない、まあ明朝にしてはどうかとずるけて工風ばかりしてゐる。こんな談判をしてゐる間に四時近くなつたから、どうも少し晩くなり過た。これからでは馬車の支度に相當の時間もかゝるし、折角いつた時分日が沙漠に沒しては夫れこそ寫眞は駄目だから、一層明日のことにして今日は茶でも呑んで案内記を讀んでおかうと決め、早速毎日仕方なしに着てゐる窮屈な夾衣の服を脫ぎ、寛濶で氣持のいゝ單衣に着替へ、寢臺の上にひつくり返つたら睡くなり、いつの間にかねて了ひ、眼がさめた時分には電燈がついてゐた。

夕食は階上東側の廣い平場でたべた。勿論青天井で星は降る様で、涼しい風が吹いておそろしく氣持がよかつた。食事の時は隣りの机に異人が一人ゐた丈け。夕食を此の位愉快に食べたのは當地へ來てからこれが初めてであつた。料理より何より平場と青――夜だから實は星だらけの黒――天井と涼しい風とが氣に入つたのであつた。

（大正十三年五月二十二日稿了）



漫錄

雲崗石佛寺

京都臨濟大學教授　大屋德城

四月十六日　曇　小雨

同行者　彫塑家池田勇八君　鑄金家佐原亮太郎君
案内者　寫眞師外村太治郎君

早朝（大同府を）出發と決する。愈雲崗に向ふのである。昨夜から空模樣が惡かつたので、心配して居たが、果して小さい雨がシト〳〵と降て來た。春雨だから大したことはあるまいと氣にもかけず勇んで發足する。轎車が一臺と馬が三頭である。余は朝鮮で腰痛を患つたので、一同のトランクと同乘して、一人で轎車に乘る。三人は各一頭の馬を領する。御者が一人づゝついて居る。氣持惡く積つた沙塵の中をゆられて、例の灰色の城壁をぬけて、大同の市街を通る。小さい穢い街である。支那人が傘をさして往來して居る。赤い青い看牌が眼につく。兵士が出て來て名刺をくれといふ。城門の出入には必ず名刺を徵せられるのである。市街を出て郊外を往く、雨は止まぬ。馬上の三人

は馬が惡くて意の如くならぬので大に弱つて居る路では多くの羊を連れて來る羊飼や、竹で編んだ入物に割石を入れて、桿の兩方に擔いで來る苦力や驢馬や馬や牛やの群に出遇ひつゝ、荒漠たる野を行く。大同から雲崗までは三十支里であるが、二時間も過ぎたかと思ふ頃、川の岸に出た。それが雲崗石窟寺の前を流れてゆく武周河であらう。小さい汚い川であるが、こちらの岸に凸凹の通路がついて居て、馬も驕車もゆくので、動搖が甚しく、嘔氣を催す程である。雨は一時止むやうに見えたが、却つて降りしきるので、馬上の三人は大分濕れて居る。余も亦少し驕を下りて、小雨の中を徒歩したので、嘔氣だけは間もなく止んだ。川には音を立てゝ水が流れて居るが、御者の若者達は大きな聲を揃えて連りに俗歌を歌ふ。寂寞たる荒野の中に、其の餘韻のある聲が流れて、一種の哀愁を覺えた。謂はゆる亡國的の哀調である。行けども〳〵雨は止まぬ。御者たちは聲張上げて、雨にまけまいといふやうな意氣込で、盛んに亡國調を歌ふ。夫れが又我等には一種の甘い悲みをそゝる。

かくて、正午も過ぎて、向ふに蜒蜿たる低い山脈が見える。あれが雲崗の山だといふ、所々に望樓が立つてゐる。段々ゆくと、右手の山がハツキリ見え出して、其の斷崖に多くの四角形の穴が穿たれてをる。山は思つたよりも低く、百尺から五六十尺もあらうかと思はれる丘が十丁位も續いて居て、樹木の殆どない裸の丘であるので、猶更低いやうに思はれる。穴は到る處に在り、或は上下或は左右に並んでゐて、平凡な比喩ながら蜂の窩のやうだといつた方が尤も當つてゐる。中央に高い建物があつて、瑠璃瓦で葺いてある。其の下に同じ瓦の樓門があつて一區を爲し、自ら此の丘の中心を形成して居る。それが石佛寺（シーフオースー）である。其の向つて左右に低い穢い民家と土塀が連つて居て一部落を作つてゐる。左方が多くて、右方には僅かの民家しかない。轎を下れば、池田君の一行二人は、中途から別路をとつたといつて、既に到着してゐた。

石佛寺の山門には『石佛古寺』といふ横額がかゝ

つてゐる。夫をくゞつて石段を登れば、三層に爲つてゐる本堂がある。即ち石窟の佛前で造られた拜殿である。右に客殿があり、左の房は今小學校に宛てられて二三十人の子供が居る。我等の到着をみて、連りに客殿の方を覗きにやつて來る。昨年小野君が撮つた彼れ等の寫眞を與ふると集つて喜んで眺め合て居る。客殿は中に仕切があつて、廣い方と狹い方の二間になつてゐて、廣い方は二十疊位の廣さで應接室であり、狹い方は八疊位で爐を焚くやうになつてゐて、兩側に窓があつて、一方の窓の下が小高いベツドである。携帶のバンや罐詰を開いて晝食を認めて居ると、馬方が來て酒錢を今少しくれといつてきかぬ。外村君がいろ〳〵談判してゐたが中々動かぬ。後にはこちらで相手にしなかつたので、滋々かへつていつたが、外村君に聞くと、餘り強請るので、『馬が酒を呑むか？』といつてやつたとのとで、一同哄笑した。

食事を了へて、石窟を巡遊することにした。天氣はドンヨリとして霽れそうにもない。小雨が不相變降つてゐる。十四五歳の頬の林檎のやうに紅い涙垂れた小僧に案内されて出かける。寺の境内や附近の民家の傍には、夫々樹木があるが、まだ一向芽を吹いてゐない。全くの冬けしきである。

中央の三つの窟は大分と補修が加はつてゐて、泥塑を以て、ゴテ〳〵と化粧し、其上に濃厚な色彩を以て塗り立てゝあるので、元の姿は殆ど分らぬ。雨にそぼぬれた高い廊下の狹苦しいところを幾つか〳〵通つて、瓦のかけや壁土の墜ちたところを、危みながら昇りつゝ、高いところから、岩壁の彫像や、本尊の大石佛、脇侍などを拜してゆく。一度や二度ではハッキリした印象は得られないが、先づ一巡して、大體を見てをかうといふので隨分と歩いた。小さい雨がシト〳〵降つて來て止みそうにもない。

暮れかゝつたので、宿所に下りる。池田佐原兩君は正面佛殿の壁に彫つてある釋尊の繪傳（八相の圖）の拓本にとりかゝつてゐる。黄昏のことではあり、元來幽暗な石窟寺のガラーンとしたところで、裸蠟燭を點けてバタ〳〵やつてをる。出城と涅槃が一番とりやすいところにある。又須彌壇

の縁に藥師寺金堂の須彌壇の葡萄唐草に似た大きい唐草模様があり、圓柱には豪放な唐草式の麒麟模様がある。何れも補修にかぶせた泥塑が殘つてゐるので、拓本に泥がついて來る。兩君はとつた拓本を客室の壁に貼つて樂んでをる。かくする中に雨は段々雪に變つて來た。困つたことになつたものである。致し方がない。外村君が和尚に賴んで黍殻を誂へ、一段高いベッドの上に敷き、其の上に携帶の毛布を擴げて假寢の床を造る。頭の方は窓に爲つてゐて、足を土間の方へ向けて四人がゴロリと爲る形である。無論風呂もなければ、着の身着のまゝで橫になるのである。まるで露營みたやうな有樣で、ウス暗いランプが一つあるだけ、此狹い室の中央に穴があつて、夫れに例の黍殻を入れて、石油をかけて火を焚いて暖をとる。卓が一つあつて食卓となり、物置臺と爲る。それに雜然紛然と携帶のトランクや、支那製のザルや、バン包や、ウヰスキー、醬油、正宗などの瓶を並べてをく。醬油は珍しいとみえて、和尚が連りに感心する。（歸る時に殘りを和尚に置土産にした）

窓外を眺むれば、雪は紛々として降りそゝぐ。そこらあたりは時の間に白くなつた。各携帶の品をひらいて水宴を張る。罐詰や卵やハムやバンや色々な北京仕入れの食料に、ウヰスキーや酒を飲めぬながらに汲みかはす。和尚は主人ぶりを示して、お湯やお茶や燃料の炭などをもつて來る。小僧も洗面の湯などもつて來て、遊んで往く。正に支那式の『鉢ノ木』で、雜談に夜を更かす。南京虫が居らねば好いがと思ひながら、床に入る迄には大分時間があつた。

焚火にあたりながら、降りしきる雪の音をきいてをると、後の木で『キャー』『キャー』といふ鳥が連りに鳴く。九官鳥だといふ。池田君が欲しくなつたので（池田君は動物專門の彫刻家で文展審査員である）外村君に賴んで、あの鳥を賣る所はないかと尋ねると和尚はノッソリした體を動かして巧にキャーキャーと九官鳥の鳴聲をしながら、あれは今は捕る時期ではないが、今少しすると產卵期に入る。こゝから少し離れた村里では其の雛を獲ることが出來る。欲しければ其の時期になつて、

手に入れて日本に送つてやらう。住所をかいてをけといふ。外村君が連りに笑つて『支那人はうまい事をいふといふ。和尚はそんな事にはおかまひなしで、連りに九官鳥の鳴聲をまねて「キャー」『キャー』と鳴く。一座大に笑ふ。

余が携帯してゐる『大同石佛寺』の裏の方に、記念の爲に署名を求める。余先づ端書を書く。

大正十二年四月十六日宿大同雲崗石佛寺

萬年筆は順々に回つて、左の如く各自の署名が濟む。

塑男　池田勇八
鑄造師　佐原亮太郎
供人　外村太治郎
巡禮　大屋德城

夫れから、住持にペンを回すと

雲崗石佛寺住持僧廣玉

と書いて、次に小僧にもかけといふと、小僧は逃げ回つたが、とう〳〵署名した。

續存

外村君に頼んで、肩書に『小僧』とかいてくれといふと、暫し頭を傾けて居たが、やがて、次のやうに名筆を揮つた。

學生

一同大に笑ふ。余は更にペンを執つて、餘白に左の如く書きつけた。

『朝來春雨蕭々、及夜小雪紛々、園爐閑談移時』

（つゞく）

底藻透いて鯉の白さよ秋涼し

都市計畫備考

青山しげき

□　□

ローマ時代に、ローマの心醉者ジュヴェナルは田舍は五日以上あるとの能きない所だと言つたといふ記錄がある。一言で言へば、當時の田舍は退屈な、一見しやうのない無刺戟な所だつたのである。當時の文化の一切が都市からのみ發生してゐたらしい狀態から考へて、殆んどの者が當然のやうに田園を輕視したのには相當な理由はあつたやうである。ほんとうのことを言へば、或る時代の文化はその時代の民衆の多くとは當然豫測される程には密接な交涉關係を有たないものである。少くとも、多くの民衆は當時代の文化とは殆んど交涉なしに、當時代に、風に吹かるゝ蘆のやうに生きるともなく生き續けてゆくものなのである。民衆を輕視してからしたシニカルなものゝ言ひかたをしやうと希つてゐるのではないが、事實、過去及び現代の民衆は、眞の意味での文化的には殆んど未敎養者でしかなかつたのである。田園に育くまれた、或は將來田園に芽生え得べき優れたる文化に就いては、彼等が些の理解も有たず、些の興味をさへ有ち得なかつたことは當然だつたのである。將來に於いても、都市は過多な程の民衆の密集區域であるには相違ないのであるが、自ら都市人と喜誇する彼等がほんとうの意味での優れた都市人である得るか否かといふことは、極めて興味のある考査資料であるにちがひないのである。即ち、彼等がほんとうの意味での都市の文化を理解し愛してゐるか否かといふことに、この問題はその緊要なる中心點を有つのである。今日までの場合、事實は露はに言つてしまへば、多くの都市人

と呼ばれたる民衆は都市の文化を理解し憧憬して都市へ密集し居住したのでは決してなく唯都市の有つ並はづれた刺戟にだけ興味を有つて、的もなく都市の雰圍氣に飛び込んで來た迄なのである。そこに釀成されたる一切の刺戟は彼等にとつては唯わけもなき混濁のための混濁、錯綜のための錯綜にしか過ぎはしなかつたのである。從つて、彼等は都市に居住し乍ら都市を知らず、文化とは逆行して輕浮と卑俗との泥濘の中に腦み喜びして來たのである。將來への都市計畫は、故に先づ都市人をほんとうの意味での文化的に敎養し育成することから初めなければならないものである。

□　□

都市計畫者の多くが、公園區域や美觀地帶に就いて、多くの細かい考慮を拂ひつゝあるのは極めて適當な所置であると言つていゝのであるが、道路の問題に就いては豫測に反して僅少な研討しかされてゐないらしいのは喜ばしくないことである。ローマ人は都市の計畫に當つては、第一に水道に就いて深重な考査をした後、第二には道路の布設にその計畫の歩な進めたと言ひ傳へられてゐる。多分、ローマ人は其愛する自らの都市を考へる時先づその宏大雄重な水道の規模を想ひ、次にはその壯麗明潔な道路のことを明るい滿足を以つて考へ樂しんだのにちがひないのである。道路は、言ふまでもなく、都市の活きた動脈である位置にあるのであるが、二十世紀の日本人が、都市と言へば、殆んどの場合、あの無氣味に迂曲混錯した細い道路を連想し勝ちであるのは、眞面目に悲しんでいゝ重大事件である。そこには古つぼけて傾いた低い屋並と、暗らく濕つた狹い部室と、蒼く煤けた物慾しさうに落ち着かない黃色人種の疲れた顏とがあるだけである。明るく快い文化がこゝに力強く芽生えてゐたとすれば不思議である。健やかに高貴な藝術の華がこゝに豐かに咲き競つてゐるとすれば奇蹟である。都市の濁りと汚れとは都市の塲末から招來され、疾病と犯罪とはその細く息詰つた道路の片隅から惹起される。溺酒者は塲末のうす汚い居酒屋でその理性と心臟とを失ひ、無賴漢は塲末の暗らい路地で工場歸りの女工の處

女性を待ちうける。賭博者は場末の空地で勝つた相手を刺し殺し、十三才の早熟娘や五十五才の強慾婆の貞操は路地の夜更けに淫らに賣買される。道路が廣くなれば疾病と犯罪とが減少するだらうとの說は、決して單なる詭辯ではない。疾病と犯罪とは闇と濕氣との子であるからである。或統計に依れば、現在の東京市の道路面積は住民の一人當り僅か十一坪四合であるさうである。空氣が濁る筈である。理想の最低限は都市全面積の二十パアセントが並木のある道路であることであるが、日本の都市がこの點に於いて今日まで餘りにも虐使されて來たのは、即ち、日本の都市文化が嘗ては餘りにも低劣でしかなかつた證査である。同じ統計に依れば、大ロンドンは一人當り七十七坪、ワシントンは同じく百三十坪であるが、日本の六大都市の道路がせめて一人當り百坪程度にまで擴張されないでは、この上の都市の眞の發展はも早や望めなくなつてしまふであらう。道路の廣さは將來、多分は其都市の文化の高さと密接不離な交涉を有ち初めるであらう。バビロンのかの廣漠な

る城壁內の大半が、青草の共生と磨かれた道路とであつたことを考慮に入れなければならぬ。

□　□

都市計畫は、新めて定義するまでもなく、都市將來の發展に對する準備的行爲であるが、この準備が今日の都市をその根底として考慮されなければならないのは言ふまでもないことである。從つて、在來の舊都市に於いての新しい都市計畫は、五メエトルの道路の幅員を十メエトルに擴張することから、非防火區域の建造物を耐火的構造の建造物へ改造することから、住宅區の幾分を公園に改修することから、即ち、極めて卑近な場所の改築增補から初められなければならぬ。故に、都市計畫者に先づ求められなければならないのは、勇氣である。何故なら、都市の改修はその新設よりは確かに數倍の難事業であるからである。こゝには言ふまでもなく將來への優れた達識透察と、もう一つは果斷とが必要とされなければならぬ。過廣な土地の思ひ切つた買收や、現在に於いては冗費と見られ易い廣漠たる公園の擴廣新設や、住宅

街の改變や、停車場、市場等の廢設には、全く強固なる信仰と決意とが要るのである。何故なら、都市居住者の多くは、自分の都市が自分の居住中にその姿を變へてしまふことには卒直に滿足できないからである。即ち今日までの市場が明日からは一轉して運河になつたり今日の商業區が明日は一變して停車場になつたりすることは、彼等は唯譯もなく反對しないではゐられないやうに馴らされて來てゐるのである。福岡市に於ける市電用地買收の際、明治維新當時の或る勤王の志士の手植の松を、或る老人が長槍を振ひ身をもつて確守固持したゝめ、今日も尙ほその餘り美しからぬ松の木が市内の電車通りの眞中に獨りとり殘されてゐるのは、——この場合は、考へ方によつてはこの事實は通俗的ではあるが所謂美談なのであるからいゝ方ではあるが、——この好適例である。固陋古息といふ文字は、必ず、都市計畫者のノオトに書かれてはならない文字である。勇氣果斷といふ文字は、其表紙に書いてをけばいゝ文字である。

□　□

美觀地帶或は美觀區域の問題が、高き識見ある一部の人々に相當眞面目な問題として取り扱はれつゝあることは喜ばしいことであるが、この制度乃至政策が都市そのものゝ本質的な美觀には根底的な交涉を有つものでないのは言ふまでもないであらう。美觀區域と非美觀區域との計畫上の區別には、例へば工業區域と商業區域との區別程の相違が發見能きないのが眞實である。都市計畫上の理想から言へば、或る區域或る街路は相當美しくなければならないが、他の或る區域或る街路は美しくなくて結構だと是認されていゝ理由はない。美しい建築と言へば、直ぐ、王宮、諸官廳、公會堂、音樂堂、美術館等をあげ、その他に一顧をも與へやうとしないのは餘りに偏頗輕浮な常識だと論斷しなければならないであらう。工場建築のもつ眞の美は、未だ世界の全面からは失はれてはゐない。花燈の華やかさ、圓蓋の莊重さのみを美と呼ぶのに慣れてはならぬ。將來の科學の休みなき發達は、その發達と俱に淸潔、整頓、簡明等をこの世界に加へ、藝術の世界にも多くの新しき美を

加へるであらうが、建築の全てはこの科學によつて、今日の豫測を越ゆる程の美に裝はれ、今日のともすれば不快不美と見られ勝ちなる工場建築等の如きものまでを、眞の美をもつ建築のレヴエルへまで昂め、輝やかすであらう。從つて、今日の都市計畫に於いても、全らゆる街區一切の地帶が夫々の特種の個性、光り輝やいた美觀地帶となり、美觀區域となるに、些のさまたげもないのである。計畫は能き得る限り美しく、整然たるものであらしめなければならぬ。一切の街路全ての區域が美觀地域であることを要する。即ち、美は都市計畫の單なる表裝ではなく、その動脈であることを要するのである。

□　□

日本の過去の都市に於いて最も顧みられざりしものは、道路以外には、實に下道である。日本の都市は泥濘都市であつたと同じ意味で、また、どぶ水の都市であつた。歷史を有つ日本の都市に、眞に部市としての名譽ある都市が、實に一市も今日までなかつたのは、確にこの下水道の臭氣が都市の上空までを掩うて都市の生長力を無下に傷けてゐたからである。磨かれた石の殿堂から汚水の臭氣がもれ、豪壯なる住家の周圍に汚水の澱んで動かない例は、日本の大都市ではありふれたものであるらしいのであるが、都市の文化がかゝる汚水の中に生長しないことも亦當然の事實である。將來の都市の清潔と秩序とは、必ず一に下水道の完全なる設備に依つてのみ保有されるであらう。卽ち、都市計畫の眞の意味での計畫考究は地上に美々しく派手やかにさるべきもののみではなく、地下に於いてこそ賢實に深長にさるべきものなのである。

×　×　×

光りの窓

泉　綠郎

×

藝術家程、自らの我を強固に守持し、主張し、時に強告し、生長せしめなければならないものはないのであるが、又、藝術家程、その自らの我を棄て、我を去り、我を殺さなければならない者はないであらう。今更らしくはなるが、藝術家の藝術への出發は勿論その自らの我の強き認識から初められなければならないものである。怖れなく蹲ひなき自我の根強き主張は、藝術に永劫の輝きと生活とを與へる唯一不變の燈明である。藝術の根底は唯自我である。自我は藝術家にとつて生命である。深き自我は深き藝術の醱酵素である。純眞誠意であればある程、その藝術家は他のあらゆるものから背避し逃退して、唯一意、自我にのみ執即して生きる。この意味に於いて、藝術家は必ず例外なしに大きなエゴイストであることを要する。唯自らの我のみに生きつくし、自我の望念意慾に依つてのみ生活し躍進することが要望されなければならぬ。この場合、その自我は徹底して自我的であればある程いゝのである。古來、偉大なる者と呼ばれたる全ての藝術家は、必ず、極度にエゴイステイックな生命の道を、唯一人自恣のまゝに歩いて來たのである。而も、自らの我を破棄し去らなければならないものにして、藝術家程自らに嚴酷冷情であらねばならぬ者も又ないであらう。安易に論及されがちな忘我の眞に僞瞞なき境地には、唯、藝術家のみ選ばれた到達し味識し得るのである。古來、藝術家がすぐれて藝術家であればある程、棄身忘我の生活をして來てゐることは事實である。眞に恍惚たる無我忘我の一瞬に於いて、我なき大自然と十全の相に融和渾合し得る者は、獨り、恵まれたる藝術家のみである。從つ

て、執我と無己とはこの場合單なる楯の半面づつであるかも知れないのである。

×

天才美學者ギュイヨオがその著『現代美術諸問題』の中で、スペンサアの藝術遊戯本能説を排して、眞の美なるものが、眞の實効と一致することを説いてゐるのは相當有名な話であるが、藝術としてとり扱はれたる建築の場合に於いては、いつさうこの説明はその眞實さを增すやうである。藝術には時として無用沒意味の恍惚も勿論必要なのであるが、正しき藝術の實効的價値の重さは、決して、その藝術の藝術的價値を卑しくするものではない筈である。優れたる藝術表現のうちに、論抗せず、强要せず、唯極めて卒直純調に示現されたる眞實こそは、最も生命に豊かな實効的なる重き眞實である。人爲、技飾、矯瞞は眞實からは遠い。眞實は美である。眞實の重さはまた美の深さである。建築に於いても、耐重耐久力の最も强堅なるもの、即ち、最も卒直に實効的なるものは、疑ひもなく、優れて美しいものである。眞實は實効である。この意味に於いて、實効は美であるとの論斷は極めて正々堂々たる論斷であると言つていゝであらう。

×

ロマン・ロランの彼の高名な『ミレエ』の中には悲哀がミレエにとつては最良の友で、悲哀が常に嚴肅な喜びをミレエに與へてゐたことが書かれてゐるが、ミレエは嘗て『藝術は慰みではない。』と書いたことがあるさうである。『藝術は戰ひである。人が紛碎される入り組んだ車の輪である。自分は哲學者ではない。自分は苦痛をなさうとは思はない。又自分は苦痛を意としないで、物に恬澹ならしめる定形を發見しやうとは思はない。苦痛とは恐らく藝術に最も强い表現力を與へるものである』と事實、ミレエは苦痛の表現に心を惹かれ、魅惑されたやうである。彼の繪は彼の脊負つた人類の苦痛の最も力强い、慰みならざる表現である。『自分には喜ばしい方面の現はれたことがない。』ともミレエは言つてゐる『自分は歡びとは何だか知らない。自分はそれを見たことがない。自分が知る

一番喜ばしいことは靜寂と沈默とである。』

ミレエについて私はすでにあまりに考へすぎて今日まで來た。蛇足を加へることは止さう。ミレエは、實に、ミレエであつたのである！唯一人のミレエが、今も、世界を明るくしてくれてゐるのである。

×

藝術は一切を超脫して躍り、進んでゆくものである。言ふまでもなく、藝術は今までも、またこれからも、一切のものゝ主であつたしあるべき筈でもある。藝術の別名は獨歩である。從屬は藝術にとつては、疑でもなく、死である。建築が藝術としては建築自ら以外の何物にも斷じて從屬してはならないのは言ふまでもないのである。が、長く錯綜した文化史上、多分、建築程その自ら以外のものは激しく繁く適用され、役立たせられて來たものに他にないであらう。宗教のために科學のために、產業のために、建築が役立ち、少くとも他のものには適用されて來たその量は實に非常なものであるやうである。從つて、嘗てしばしば建築はその他への役立ちと適用とから遁がれ、純粹絕體の藝術圈にかくれ落ちつかうとはしたのであるが、その都度失敗を二重三重にし今日まで來てしまつたやうである。尖塔の多いゴシックは北歐洲の深い森林から發達して來た。自然への適用である。圓柱多きクラシックは雨多き南歐洲の海邊から芽生えたのである。自然への適用である。適用は、從つて、建築の一性格であるらしく思へるのである。適用は、勿論、すぐ從屬ではないのであるが、人間の苦しんだ小さい術は、結局は、神のありふれた美にも到底及びもつかないものなのである。

×

或る一民族の藝術の光りは多くの場合其民族の宗教の光りと倶に芽生え始めるのが通例である。レッテイト人と言へば舊約聖書の列王紀略下の七章十六節にエジプト人と對等に記載されてゐる。興味深い民族であるが、考古學上の研究に依れば當時彼等は派手やかに西部亞細亞及びエジプト地方を壓迫した程の文化を有ち、ギリシャ以前の地

中海のミノアン文化或はミケネアン文化と直接の關係を有し、藝術上はロオマ時代までその影響を與へてゐるやうである。その象形文字は未だ學界でも讀み得ないまゝに殘されてはゐるが、新石器時代の遺跡サクジゲウジの發掘に依つて、年代は紀元前三千年まで遡か上り得、紀元前千四百年の頃から七百年の頃へかけてがこの民族の文化の黄金時代であつたらしく、紀元前千四百年代の始めエジプト王トドメス四世はこの民族に屈服したらしい記錄もあるやうであるが、この民族の文化も疑ひもなく、彼等の女神なるアシタルテ崇拜と供に芽生え生長して來たやうである。ミノアン文化の中心クリイト島の女神や、フオキニシア、サイプラスの女神、ギリシヤのアフロデテイ、ロオマのヴヰナス、ユダアの天空崇拜等皆このアシタルテからその系統を引いてゐるとの說は正しいやうである。ハレエス河の上流ボガスコイにある、トルコ人から『彫刻の岩』と呼び習らされてゐる岩壁の群神像、ボガスコイの北方約二十哩の小山のイユク、及びセイフン河の上流フラクチンにある神像寺、何れも彼等の藝術と呼ばれていゝものは、すべて彼等の崇拜の目標である女神像を彫刻することから出發してゐるやうである。ことに小亞細亞海邊に近いヘルマヌ河の南方シビロヌ山上のものはホオマアの『イリアッド』の二十四章に歌はれてゐる程眞實性のあるものであるが、そのいくらか稚拙、いくらか粗豪、いくらか雄渾な表現手法等は、いづれも彼等自らの女神への信仰の片影であると斷じてもいゝやうである。歷史は嘗て藝術が宗教のためのものであつた時代を通過した。宗教が藝術に從屬したかと見える時代は今や初まりつゝある。藝術は、遂に、宗教とは不離の關係に置かれたるものである。

×

思惟のみが人生では、勿論、ない。識ることは人生の全部ではない。行爲することは識ることゝ等しき重要な價値を人生にもつていゝのである。思惟は生命を生まず、藝術を育み得ない。藝術の中に於いて我々の見る己れの姿の種々相は、全て自らの行爲の錯然たる種々相の片影であると言つ

ていゝのである。藝術のみが人間の主張し得る眞の唯一の所有ではあるが、藝術は我々の思惟に依つてではなく、行爲に依つてのみ初めて完全に人間の所有となり得るものなのである。些の行爲もなき藝術が藝術であると呼ばれてゐた時代は、すでに今日は過ぎ去らうとし初めたのである。藝術の甦生時代とは今日のことである。

×

計畫が如何に勝れてゐるかゐないかと言ふことに依つて、一切のものはその價値の輕重を問はれ勝ちであるし、如何にもこの態度は此のまゝではんとうなのであるが、藝術への批判に於いては、先づ第一にその創作が計畫的であつたか否かを深重なる考慮に入れる用意をしなければならぬ。計畫が如何に優れてゐるかゐないかといふ問題は、

×

×

この場合は考慮にのぼす要はないのである。藝術は、畢竟、美の問題をその本質的なる批判の對象とするものなのである。計畫は藝術にとつては墮落である。藝術は何等かの實驗ではない。藝術は自らを考へ、計畫した後、其出發を初めるものではないのである。知識以前、思惟以前が藝術のまことの故郷なのである。藝術の有つ氣品は計畫され考慮された後の附加物ではあらぬ。この意味に於いて、藝術はその一切の傳統からも絶體的に自由であらねばならないものなのである。從つて藝術は恣にあくまで孤立する。藝術は自らの爆發と俱にその生命を得て千古に輝き、自らの燃燒に依つてその價値を永劫の世界へ餞けするものなのである。即ち、藝術の計畫はその自らのうちにのみあり得るものである。

×



創作

ノオトに書かれた遺書

別所悌一

別所君は新進の作家であつて、頃日、某大新聞の創作募集に當選の榮冠を贏たれたが、最も藝術的な點に於て、茲に本篇を我讀者に推奬する所以である、——編輯者

序の書

一見奇怪な手紙です。こんな手紙に切手を貼つて相手に送つた男が實際にゐるかどうかは、筆者はよくは存じません。私の親しくしてゐる或る友人が、散歩の途中或る公園で拾つて來たと言つてゐるノオトに、急がしく走り書きしてあつたものです。ちよつと面白さうに想へたので、私は退屈な時の氣まぐれで二晩かゝつて筆寫してみたのです。

第一書

吃驚しないで下さい。靜かになすつて下さい。惡戲ではないのです。間違ひではないのです。惡酒落でもないつもりです。唯、お希ひです。この葉書に二三日後れて一通の封書を送るつもりですから、是非それを讀んで頂きたいのです。そのまゝ決して破り棄てないで、假令どんなに嵩高くとも、是非それをお二人で讀んで頂きたいのです。あなた方をどうしやうと言ふのではないのです。唯、讀んで下さればいゝのです。嚇すのではありません。前以つて、念のためにお希ひしてをくのです。お希ひします。片付いたと見えて未だ片付いてゐなかつた一切の事を、すつかり片付けてしまひたいですから。

第二書

酷く吃驚して熱くなりなすつたかも知れません馬鹿に冷たく平氣でいらつしたかも知れません。二人して、見えない私を皮肉らしく冷笑しなすつたかも知れません。あの突然の葉書をごらんになつた時の、お二人の素早やく變つた目の色や、可成り周章てた情ひや、酷く困りきつた複雜な表情などを、こゝにゐて想像能きないともないやうです。實際うちあけたところ、私だつてあなた方を亂し煩はして愉快がらうと言ふのでは決してないのですから、あの時のあなた方の困惑には同情したい氣持です。だが、今はそんなことはどうだつていゝのです。とも角、もう一度繰り返して約束させて頂きます。あなた方がこの厭やな不安な手紙を今日まで待つてゐて下さつたか否かに拘らず今この手紙をこゝまで讀んで來てしまひなすつた以上、どうでもかうでも最後の行まで讀み通して下さるやうにお希ひします。小さい惡麗の卑しい哀訴です。有るか無いかわからない私の小さい企圖の裏を掻くつもりか何かで、この手紙を急いでこゝで破り棄てやうとでもなさるなら、多分そのことがあなた方の胸の底へ、執拗くてごぶのやうに不快な罠を自らお作りになることになりませう。最後の行で、この手紙は一切の眞實を素早くぶちあけてしまふことになりませう。

さて、何から聞いて頂いたら一番都合がいゝの

か、一寸今書き初めるのに困りますが、順序として、やはりあの馬鹿らしい絶交状から初めることにしませう。こゝで馬鹿らしいと書いたのには大した意味があるとでもないのですが、決して無用な形容だとも想ひません。實際、馬鹿らしいものゝ方を人間は長いこと記憶えてゐたがるものです。どんなに嘘を言つてみたつて、三人は決してあれを忘れ去つてゐない筈です。もうあれから殆んど七ケ月以上の時間が經つてしまつたではありませんか。こゝで今更ららしく念をおしてをきますがこの絶交状を眞面目らしくかたくなつて突きつけたのはあなた方で、讀んで刺されて、正直に焔のやうになつたのは私の方でした。一體、あんな勝手な絶交状を私が卒直にあのまゝ取るかどうかをあなた方はあの時少しでもお考へになつたでせうか。はつきり言ひますが、あの時まで有つてゐたあなた方に對しての好意を私はあの時殆んど失くしてしまつたかも知れません。あの當時の私には實際あんなものは一つの下らない無意味な惡戯としか受け取れはしなかつたのです。自ら希つてあなた方の執拗く怖い日を避け、なるたけ遠くへ逃れ去つてしまひたいとずゐ分焦心し努力しはしましたが、全くあなた方の方からなど、絶交状なんか突きつけられる理由はありはしなかつたのですから。而も、結果はあなた方が多分豫想なすつたより以上だつたのです。封を切つて急いで二三行讀み初めるなり、私は身體一杯の失意と憤怒と言ふには餘りに病的な激情とに、文字通り身慄ひし初めました。不用意な胸は、即座に、冷たく痺れあがつてしまひました。鋭く冷たい剃刀のやうにあなた方の心が私を無遠慮に刺し通したのです。だが、私は大急ぎで行から行へと讀み走りましたそして最後の『この手紙は是非どうぞ破き棄てゝ下さい。』と言ふのを讀むか讀まないかに、ひつ摑んで、その手紙を鋭く掻き破いてしまひました。

もうこゝまで書いて來れば、この手紙の内容はあなた方にも幾分想像がつくと想ひます。馬鹿はいつまでも馬鹿でしかない！まるでパンを盜んだ宿無犬のやうに、あなた方の感情圏内から投うり出されてしまつた私が、今卑しく尾を振つて、手

紙を書かうと言ふのです。どこまでも滑稽ですねえ！

青春期の小さい一事件は、屢々私達の一生涯の宿命に決定的な指示を與へてしまふものですが、今日まで續いて來た私の有頂天の生活は、私があなた方の紹介で菊子と初めて會つたその時から初まつてゐます。

あなた方が菊子のことを初めて私に聞かせて下すつた當時は、實言へば、あなた方がどんな意味で私に彼女を熱心に紹介しやうとしていらしつたかをも殆んど知らないで、私は靜かに落ち着いてゐたのです。かう言へば餘りにも眞實から遠くなるやうにも想へませうが、全く、今なら若い女の噂を初めて耳にする時に有ちさうな一種の輕い好奇心をさへもつ。あの頃はあたまから恥かしがつて有たうとはしなかつたものです。否、もつと眞實を言へば、私は餘りにも未だ見ぬ菊子に初めからすつかり壓倒された氣分だつたのかも知れないです。全く、あなた方の熱した唇から私の冷たい耳へ飛び込んで來る彼女は、餘りにも優れて美しく近寄り難いものにさへ考へられたものですから。

だが、あなた方は實際根氣よく同じ種を播き續けました。太陽が照り初めました。燃えないわけには行きません。遂うとう一粒の種が芽をふき出しました。繰り返し繰り返し彼女のことを聞かされてゐるうちに、私は未だ見もしない彼女に追々興味を有ち初めて來たのです。心が搖れ初めました。彼女がずゐ分美しいだらうと言ふ想像が、私を激しく昂奮させてくれたのは言ふまでもありません。胸の動悸が直ぐ昂まり初めました。私が自らを失ふ日が近づいたのです。

私の菊子は遂に私の目前へ眞實に現はれて來ました！惠まれない人間の一生涯で、あんなにまで幸福で明るい日がさう度々あつていゝものではありません。實際、幸福なんか言ふものは、暗らく濕つた人間の牢獄の中へ、時たま氣まぐれに訪ねて來てくれる美しくて快活な奇妙な客なのです。吃驚してその顏を凝視めてゐるひまに、彼女は扉の鍵穴からでも默つて歸つて行つてしまひます。それでゐて、その顏はどんなに厭やな顏であつて

も一生涯忘れ果てゝしまふとは能きないのです。私だつて、長いこと希つてゐたやうに菊子に初めて會つた日の幸福を、未だに塵芥のやうに忘れ去らうもありません。私は今もあの日の菊子を激しく優しく愛してやることが能きます。當時の私の考へ方に從へば、三人は全く宿命の十字街で會ふべくして會つたのに違ひはないのです。即座に、一度に、全てのものが一杯に溢れて、私の生活は洪水の樣に素晴らしい勢ひで流れ初めたのです。私にはもう菊子きりしかなく、菊子一人しか見えなくなつてしまつたのです。あのどこを向いても空と海とのまつ蒼だつた美しい海岸町の初夏の頃を、私は今でもはつきりとこの目で見ることが能きますが、砂丘を歩いても街路を歩いても、當時の私には唯彼女一人きりしか要りはしなかつたのです。

『菊子！』私は目を伏せ乍ら哀しく叫び初めました。『菊子、菊子！』私は兩手を長く延ばしました胸は裂けるやうです。私は一切のものを彼女の前ゝ力無く投げ出して頭をおさへました。『どうすればいゝのかわからない。どうすればいゝのかわからない！』

すつかりが、多分あなた方の豫期なすつた通りです。何彼に就いてもいつも可成り憶病な私も、今はもう怖ろしく一本氣に、行くべきところまで大急ぎで行き着いてしまはなければ承知が能きないやうな氣がし初めました。或る危險に向つてもうすつかり覺悟を決めてしまつた盲目者のやうに不意にぶつかつて來ると解つたものを多少怖れ乍らも、もうぐんぐんと、一歩手前と言ふところまで突き進んでしまつたのです。彼女の方も、確かに怖ろしく熱して、すでに私へ向つてひそかに動きつゝあつたのです。遂うとう、私達はもう二人は二人だけのものとなりたいために、燃えてもえて、激しくぶつからうとしました。彼女は十七、私は十九だつたのです。全るで赤ん坊です。何が二人に了解できたものですか！私はもう觀念して身を投げかけました。私はぶつかりました。確に私はぶつかつたのです！而も、私の激しくぶつかつたものは、實に、菊子ではなくて、弓子さん、

あなただつたのです！何事が今起つたでせう。全るで何も知らないうちに、私はあなたの情のすつかりを、しつかりと引つ摑んでしまつてゐたらしいのです。まつ蒼に、冷たく、私の顔が一變してしまひました。全るで嘘のやうに、突然、菊子は私の兩手の屆かない阪へ姿を消してしまつたのです。不意の腦溢血で、菊子が永い眠りに就いたのは私との婚約後だつた二日目の夕暮でした。

もうこゝまで書いて來れば、あなた方はあの頃の毎日の出來事の細々した部分まで、色々と想ひ浮べて下さるに違ひありません。私の細い胸も先刻からもう一杯です。あれから二日目、遂うとう町の裏丘の墓場へ菊子の柩を送つた歸り路、私の骨なしになつてしまつた胸は、全るで重たい氷塊を縛りつけられたやうに冷たく、ぐたぐたに崩れたやうに哀しく力なく凝乎としてしまつてゐました。餘りにも突然なあつけなさに、すつかり自らを失つてしまつたのです。私は人々の群を離れて一人甞て菊子と歩いた砂丘を超えて、海邊の木蔭へ出、そのまゝ石のやうに座り込んでしまつた。

夜が落ちて來ました。星は妙に高く鋭く輝いて、空氣はもの哀しく冷えびえとしてゐました。いつもより波の高い遠吠えが、搖れるやうに沖から聞えて來るのです。さうです、あれは九月二十九日のことでした。記憶えてゐなくてはなりません。私は、多分　いつまでもいつまでもこの夜を記憶わてゐるでせう。あゝ、今日はもう、とり返しのつかない、ずうつと遠くへ過ぎ去つてしまつた夜のことではありますが、今の今になつても、私はあの夜の冷たく刺されるやうな哀しい情ひを、充分に言ひ現はす言葉を想ひつくことは能きません。胸は破れました。刳られました。殆んど泣くことも能きはしない位なのです。あゝ、何と希つても何と祈つても、彼女は再び私の胸へ歸つて來ることはないのだ、私は再び彼女に會ふことはないのだ、あの眞つ黑な瞳はどこかへ逝つてしまつたのだ、あの豐かな黑髮も、草の果實のやうに可愛いゝ唇も、あの白く透き通つた十本の細い指でさへも、あ、私は再び生きて見ることはないのだ！あ彼女の青春も、胸も、微笑も、今はかくまで私か

ら遠くなつてしまつたのだ！菊子よ、菊子よ、僕を忘れちやいけないよ、僕を忘れちやいけないよ！たつた十七歳で僕を投うつて置いて死ぬなんて今度はそんなに美しく生れて來んぢやないよ！

　蹲て涙を拭いて、私は懐から燐酸コディンの小瓶を取り出しました。一昨日から二度とも人に見付かつてし遂げ得なかつた自滅を、今夜こそは此處で人知れず遂行てしまはうと希つたからです。この藥は咳嗽止めとして極く少量を用ゐて可成りな効果を有つものださうですが、多量を用ゐれば充分自滅し得ることを私は聞いてゐました。私は先づ上向きに砂の上へ寝ころんで、急いで瓶を口へ押し込みました。無氣味で味もない輕く白い粉末が舌に溢れて落ちました。

　怖ろしい激動が不意に私を揺り動かしました。誰かゞ躍りかゝつて來たのです。白いものが目の前にちらつきました。唇の中へ柔かな温いものが飛び込んで來ました。私の全身が痛く締めつけられました。少時の間、私はそのまゝ意識を失つてゐました。

　この時、私を抱いて下さつたのは、言ふまでもなく、弓子さんです。私の亂れた意識に周圍が朧に見え出した時は、弓子さんが私のま近に座つてその華奢な兩腕に私を横抱きにし、蒼白く透き通つた顔を彫刻のやうにかたくし乍ら、私を厭かずに凝視めてゐらつしたのです。涙は私の頬まで濡らしました。ねえ、ねえ、ねえ、と、唯わけもなく涙に濡れて私に呼びかけ乍ら、弓子さんは熱した頬を私の頬につけ、唇を唇におつけになりました。私は慄え脅えて、も一度死んだやうになつてしまひました。

　あとから弓子さんから聞けば、あの日の午後から私の姿の見えないのを心配してあなた方皆んなが別れ別れになつて私を尋ね歩き、折よく弓子さんが私を見付け出し、少時木陰で様子を覗つてゐらつしたのですが、私が劇藥らしいものを口へ入れたので飛びかゝり、とつさの思ひつきで、御自分の唇で私の口の中のものを吸ひ出し吸ひ出しては、すつかり吐き出して下さつたのださうです。夢現のやうに、私は弓子さんの接吻に應へたさう

です。女の肉の感能は、疑ひもなく、男を即座に奴隷か悪魔かにしてしまひます。この時の男であつた私が、奴隷であつたか悪魔であつたかは、今の私にもよくは解りません。唯、生れて十九年目に實は始めて觸れた女といふものゝ唇の肉が、溶けてゆく護謨玉の如うであつた感じは、今も哀しく憶ねております。

このふとしたことの夜更けから、私と弓子さんとの交渉が即座に深く激しくなつていつたのは勿論です。二人はよく一緒に海邊を歩いたり、小丘へ登つたり、町筋へ買物に行つたりしたものです二人が二人は狂はしく執着し初めたのです。明るく、暗らく、惱み多く、全るで喚き哭き乍ら暴風の中を踊つてゐもゐるやうに、有頂天の日夜を私は送り初めました。あゝ、世界が太陽で一杯になりました。菊子が甦きかへつたのです！處女の菊子が三日目に蘇つたのです！私の情ひが高い噴水のやうに勢ひづいて昂まつて來たのです。泣きました。笑ひました。手を差し出しました。うなだれました。又笑ひました。殆んど死んで狂つてゐた！弓子さん。あなたは菊子とは爪二つだと言はれた肉親の姉妹でしたもの、ね。

あとはもう嵐です。調子の早い交響樂のやうに迫心的な雰圍氣が、私達の周圍で亂れた渦を巻きました。怖ろしいことは、今から起るのです。これからの數ケ月間は、三人にとつては實に怖ろしい時間でした。弓子さんは遂うとう洪水のやうに私へ向つて流れ初めました。狂はしく見開いたあの目！極く少時の間も私を見逃でしては下さらないのです。時として、弓子さんのきれの長い目は溶けるやうで、頬は十七であつた菊子のやうに紅く派手やかに上氣してゐるのです。幾分かはしやいで。この時はほんとうに邪氣なく微笑まれるのが癖です。時として、弓子さんは二十六才の優しい姉様にかへつて、愛や望みや音樂のことなどを弟に話すやうにしみじみ話して下さいます。お饒舌だつたと言ふのではありません。どちらかと言へば寧ろ口數の少い口下手な方なのですが、その優しく親しい言葉は、なごやかに、小夜曲のやうに私を愛撫してくれるのです。また時として、弓

子さんの髪は亂れてくるし、樣子が嶮しくなつて來るのです。その炎くやうな呼吸は私を怖はがらせる程なのです。その目は全るで怒つた獸の目のやうです。この時は、きつと私の愛が足りないと言つては私を酷くお責めになります。かくも確實に蘇つてくれた菊子の慕はしさに、私は唯弓子さんの情ひにつれて燃え、溺れてしまひました。かうして、死にもの狂ひの生活が少時は二人につゞいたのです。

だが、昇りきつたものは轉て墜ちなければなりません。最後の日が素早く來てしまひました。あれは絶交狀を下すつた日の二日前かと記憶にてをります。弓子さんと私との話してゐるところへ不意に出てゐらつした哲雄さんは、ものも言はずに私を冷たく凝視めなさいました。何と言ふその氷のやうに鋭い目。私は本能的な嫌惡の情をおぼえて慄えました。人間も、あんなにまで怖ろしい地獄的な目付きをもつてゐるものなのです。えたいの知れない不氣味な惡魔が、その冷たい目から私の胸の中へ無遠慮に飛び込んでしまひました。お

しまひです。一切は氷りついて、すつかり死に果てたのです。

私は直ぐ立ちあがつて挨拶もそこそこに、救はれる爲に大急ぎで町筋へ出ました。もうすつかり夜でした。煩はしい街頭の灯りが周圍で刺すやうにちらちらしました。少時の間は、今急に高い露臺から地上に跳び下りたやうに、足も縛れ心も搖れ乍ら私は歩いてゐました。おきやんな蒼い惡魔の奴が調子にのつて栗鼠のやうに全身を驅け巡り初めました。私は唯あるきに歩いて、あてもなく希ひもなく、干魚のやうに無感覺でした。

あとから聞けば、私が出た後、あの夜直ぐ、あなた方は目を横にしたり聲を變えたり慄えたり立ち上つたりなすつたのださうですね。親戚の者までを五六人集めて、破婚の斷崖へまで二人はお行きになつたさうですね。最後には夜明け前にすつかり宥し合つて和解なすつたさうですが、とも角も、相愛して結婚してから十年に近く、初めて相手と相殺し傷け合ふやうな諍ひを激しくなつたのです。かうした瞬間がも少し早く來なかつたのは

哲雄さんが、九つも年下の従弟の私を幾分愛して大目に見てゐて下さつたのと、弓子さんを限りなく愛してゐらしたからだと言へるかも知れません。底知れず暗らい不安と嫉妬とを惱ましくもて餘し乍ら、妻と従弟との狂亂を少時でも忍耐してゐらつしたらしい哲雄さんの胸の中を、冗談ではなしにお氣の毒に存じます。

絶交狀が私へまで届けられたのはあれから二日後です。その翌朝十時には、私はすでにあなた方の町を去り、菊子の白い墓場からも遠くへ去つてしまつてをりました。あの日から今日まで、或る夜は關門海峽の連絡船上に死場所を探し、或る日は濱名潮畔の旅宿に墓場を求め、いつも墓穴を堀り損つては、宿無犬のやうにうつらうつら彷徨うて屍體を引きづつて歩いて來たのです。早く死んじまへばいゝものを、ほんとうにお氣の毒です。いゝえ、いゝえ、私はすでにあなた方の胸からは死んでをります。世界は私の目の前で消え去つてをります。唯、どうしてもどうしても死に果てゝしまはないのは、私の胸に必ず永劫に生きると誓つてくれた菊子の純情です。一途に潔く焔えて永劫を誓つた處女の情ひが、虛しく大空の果てへ消え去つてしまつてどうなりますか。私が今日まで宿無犬になつてゞもかうして生きて來たのは、唯菊子のためです。たつた、菊子一人のためです。今も、今も私は執念く狂人のやうに彼女に會ひたがつて悶えてをります。益々、ますます、私は彼女なしには生きてゆけなくなつてしまひました。

私は菊子に與へるべき唇を弓子さんに奪はれてしまひました。私は十七歳の處女を愛するかはりに二十六歳の人妻に愛されてしまひました。私は潔く永劫に生きる希ひで、汚く數ケ月を愛慾の地獄に生きて來ました。私は從兄の妻と人知れないところで接吻し合つたわる者です。あゝ、もうこの上をどうしやうと言ふのですか！菊子の變らないあどけない微笑が眼の前で輝きます。柔らかな滑らかな菊子の頰が私の頰に觸れます。唇が唇に近づきます。胸が胸を抱きます。あ。菊子、菊子僕を忘れちやいけないよ、僕を忘れちやいけないよ！

嬲て菊子の微笑が二重になります。よく見るとそれはいつの間にか弓子さんのあでやかな微笑になつてゐます。私にはこの笑顔を拒む力はありません。あ。何といふよく似た美しい姉妹！私はいつのまにかこの第二の笑顔にも激しく接吻されてしまひます。私は弓子さんをも今も愛してゐるでせうか！

狂はしい日夜が尚ほも私には續きさうでした。私には力はありません。私は菊子と弓子さんとの二つの微笑を追つて苦しく惱ましく反轉して歩きました。遂に一つの扉へぶつかりました。そこから意外な光りが私の胸へ流れて來たのです。

哲雄さん。弓子さん。どうぞ眞實を僞らないで下さい。どうぞ眞實を自らの胸に聞いて下さい。刺は最後まで隱し終せるものではありません。このわる者は明日はこの世界から消えてゆかうと言ふのです。死んでゆく者を僞瞞で被はないで下さい。眞實を言つて下さいまし。私のこの下らない手紙もすでに最後へ來たのです。

哲雄さん。もう私も疲れましたから簡單に言ひますが、あなたは菊子を愛してゐらつしやいました、ね。妻の妹だからではなしに、美しい十七歳の處女だつたからです。菊子が死ぬ數日前に邪氣なく微笑ひ乍ら私に言つたのですが、あなたは恥ぢらつて拒む十七歳の彼女を強ゐて自分の膝へのせ、シユウベルトの歌を聞かせてあげやうと言つて可成り長い間抱いてゐらしたさうですね。『姉様のお留守の晩でした。』と菊子が言つてゐました。こんなことが數度あつたさうです。『兄様はほんたうに可笑しいの。きつと後では堪忍してね、とおつしやるの。ですから、今日まで姉様にも默つてゐましたわ。』とも菊子が言つてゐました。

弓子さん。あなたは私をほんとうに愛して下さいました。いつか菊子が私を愛してゐることをあなたに泣いて話した時、あなたも俱に泣いて、『私だつて、菊子さんの年頃だつたらきつと健さんを愛したわ。』とおつしやつさうですね。そしてまた『ほんとうは私が先に健さんを愛したのだけれど、菊子さんに讓つてあげたのよ。』ともお言ひになつたさうですね。哲雄より健さんの方がよつぽど可

愛いゝ。』と幾度も私におつしやつたことを記憶えてゐらつしやいますか。

秘密はこゝにあつたのです。あなた方がどうしてあんなにまで熱心に菊子と私とを近づけたく希つてゐらつしたかと言ふ理由が、今頃になつて私にも了解できるやうになりました。哲雄さんは菊子を失ひたくはない爲に、私と菊子とを近づけなすつたのです。菊子は私を愛してゐたからこそ、安心して『お兄様』の膝にも抱かれたのです。弓子さんは私を失ひたくないために、菊子を私に近づけなすつたのです。『姉様』だと想へばこそ、私達はあなたの一切に初めから信頼しきることができたのです。そして、一切が過ぎなければならないやうにも早や過ぎ去りました。菊子のあの時に永眠つてくれたことはいゝことです。いゝことです。やがて、私の明日この暗らい世界を去つて逝くこともきつといゝことになりませう。

記憶えてゐらつしやいますか。明日は九月の二十七日です。あの時の菊子の顔が今も私の直ぐそばで輝いてをります。あゝ。もうこのうえ、私の細い胸を痛めないで下さい。私の眞實の愛の世界は彼女のそばにだけあります。私の夢も私の生命も、唯、彼女の胸にだけ育まれてゐます。私は歸るところへ歸らなければなりません。行くところへ行かなければなりません。私は今も菊子だけのものです！菊子は今も私だけのものです！私は菊子から眞實の寶石の様な接吻を受け取りませう。私は菊子に眞實に黄金の心臓を投げかけてやります。私は急がなければなりません。もう一日も、この小心な私をこの濕つた土の上に置いて下さいますな。時は迫つてをります。さやうなら、さやうなら、私達の一番親しくした兄様と姉様と、太陽は明日も明後日もあなた方の希望や愛に輝きかけるでせう。眞實は光りの中にあります。涙を流さず、光りのうちを敬虔しく歩いていつて下さいまし。



◉組立住宅貸與

區劃整理が進み換地の指定が濟むと各戶は其の位置に移轉しなければならぬ、その換地に移轉するまでの假收容所として、復興局はバラックを貸すことにした、貸バラックは縮圖、組立住宅で復興局案と木田保治氏案とあるが、試驗の結果、木田案が採用になつた、木田案は材料も他より二割位少くて濟み、價額も安く(坪百圓內外)部分品も少いのである、材料は土臺四本、柱七組屋根板十二枚、腰板十二枚、兩妻四枚から成り、內部に床を置いた丈けのものである床板を除けば皆三尺に六尺の大きさの材料で、一人でかつげる位のものである、組立て全部の重量は三百五十貫である、大きさが定つてゐるから素人にも組立が出來る、十一日復興局では組立運搬の樣子を活動寫眞に撮影したが、組立に三十五分、解除に二十分を要するだけであつた、內部は八疊間一つ、十二尺に三尺の廊下に踏込、流し場、便所で居間裏にセルロイド屋兩開き窓、兩側にセルロイド入片開き窓、三尺三寸の釣棚、衣桁兼用棚が附いて居る、ヌキを彎曲させ、棟を蝶番で止めて地震に備へ屋根及び壁を二重にして、內部にドイツナマコを使ひ、外にエンソボードにペンキを塗つて暑熱を通さぬ工夫がしてあるとしかるにその後の復興方は實に驚くべきものでわづか一年足らずの今日では燒失地域の七分以上は確實に復活した(無輪牛以上はバラックではあるが)警視廳の調査によると本年六月まで即ち滿十ケ月間に各方面の復活狀況は左の通りである

◉復興東京の現況

幾十萬の家と人とを亡ぼし東京の七分通りを燒土と化し、灰と赤黑いれんがや鐵くずばかりのみにくい東京の姿を見せつけられた當時市民のたれもが一齊に考へたのは『何年經過したら以前の樣な花やかな帝都に復舊するだらうか?』といふ事であつた、

□一般戶數及人口

▲麹町三〇〇七戶▲神田一八二七六▲日本橋一四九一九▲京橋一七七九二▲芝一〇〇〇二▲麻布七▲赤坂八八八▲四谷三〇一▲小石川五三〇▲本郷四一五九▲下谷一九一八九▲淺草三九三九五▲本所三五〇八七▲深川一五八七〇▲郡部大崎一五▲淀橋一二▲王子二九▲南千住三五三二▲日暮里一三五六▲寺島二二一▲龜戶一六四八

總計十九萬六千二百三十一戶

人員八十九萬八千五百五十六人

でこの内麻布、赤坂、小石川、四谷及郡部は焼失戸數全部復舊し現在バラック以外の寺院その他の建築物に集團的に避難して居る者は神田に四十四戸百十一人、京橋四戸九人、芝五十四戸百七十六人、麻布五戸十八人、牛込四戸十六人、下谷二十六戸八十八人、淺草六戸二十一人、本所九十八戸三百七十一人、深川百八十戸六百六十三人、計二百二十三戸一千百一人と外に芝、京橋、麹町、深川の一部にカードト、トタン小屋その他單に雨露を凌ぐに過ぎない場所に避難中の者百七十一戸五百二十九人と日比谷、芝、上野公園内外數ケ所の集團バラック居住約三千戸一萬人足らずあると。

◉東京市營住宅

東京市では日下本郷眞砂町にアパートメント式小住宅二十六戸の建築中であるが此の外震に救護事務局の委託に依り市で百六萬四千八百圓を投じて新に一千四百戸を建築すべき住宅の敷地は兼て選定中であつたが大體左の如く決定した

▲月島第一期　百八十八戸九月竣工の豫定
▲同第二期　二百卅二戸十一月竣工の豫定
▲猿江　四百四十四戸十二月竣工の豫定
▲三之輪第一期　百二十四戸十一月竣工の豫定
▲同第二期　三十二戸十二月竣工の豫定
▲玉姫　九十六戸十二月竣工の豫定

尙前記月島第一期第二期の外に同地に二百八十四戸を建築することになつてゐるが竣工期日は未定

◉府建築界の趨勢

府建築課の統計に依ると年々の月別建築物數は例年一月の約八百を基點として二月三月と漸次增加し四月には約千三百位となり五月に少く六月に增加して此の七八月に減少し九月に於て最高潮に達し十、十一、十二と漸次下向して行が而も十二月末と一月との間には約二三百件の相違で十二月が多く時に依つては十二月に於て一年中の最高潮に達する事があるが大體に於ては右の傾向を繰返して居る、斯の一定の盛衰の跡を辿りつゝあるは思ふに新築中のもの丶十二月末に於て完成して新年に之れを利用するは人情の自然で之れを一轉機として二月頃に着手し建築は四月には殆ど完成し五月は出願期六月には五月中出願の簡易なるものと二月頃に着手の念の入つた家屋が完成し七八月は何業に依らず中止狀態で九月に於て一時に擡頭して其の情勢で年末に至るもの丶如くであるが素より其の慥な原因は不明で只此の變遷の事實丈けは面白い一つの事實である

◉建築材料の試驗

最近特許局の發明特許出願の中八分通りまでは建築材料に關するものであり又大阪の工業試驗所に試驗を依頼して來る發明品考案物なども建築材料が多いがこれは震災の教訓であることは言ふを待たない、殊に本家東京代々幡の農商務省所屬東京工業試驗所には最近は土木建築材料の强度試驗を依頼して來る者が俄に殖えてきた、震災後この春頃迄は平均一日に一件位の依頼に過ぎなかつたが、此頃では日に十件位の申込みがあるので係員は今年は夏休みなしに目を廻してゐる建築材料では大抵鐵材とセメントで其他石材、木材、スレート、洋式瓦も多少はある、又今迄殆ど依頼のなかつた煉瓦の强度試驗を大分申込んで來る者もある此調子では愈本建築に着手する時分には依頼申込が一時に殺到するだらうと工業試驗所では約八萬圓の豫算で從來の設備を倍に擴張して米獨兩國へ新に十五臺の試驗機械を注文したが、十月頃には到着する見込である

◉大阪市の路面鋪裝

大阪市の道路鋪裝に就ては最初都市計畫の事業として大正十一年より十六年に至る六箇年間毎年二百五十萬圓宛の經費を支出して電車道路を始め其他主要道路三十萬坪（大阪市全體の道路の約四分の一）に之れを施す計畫になつて居たが更正都市計畫により、大正十三年度からば年額百萬圓に減ぜられて他の百五十萬圓を主要橋梁の不燃質架換費と道路擴張費に振り向けられたので鋪裝工事の進捗は著しく妨げられる結果と

なつた、そこで市土木部に於ては成るべく路面の改良を廣く速かに行き渡らせる中間施設として重量交通の少き道路に對しては コールタールの假鋪裝を施す計畫を立て先十三年度に一般道路三萬坪と天王寺公園道路の一部に之れが試驗的鋪裝を行ふ事になり既に市廳舍北側その他に實施した外日本銀行前の道路も目下工事中であるが此のコールタール鋪裝は經費が非常に安くアスファルトルの十二分の一、木道の二十分の一、即ち一坪當り二圓五六十錢で充分完成し得られる只だ之れが難點とも云ふべきはその工事が五月から十月迄の高溫期でなければ行ひ得ないこと(梅雨期は不可)と他の鋪裝に比して耐久力が少い事等であるが砂利道に優る事萬々で經費多端の折柄少しにても鋪裝道路を廣く行き渡らしむるには過渡期の方法として之れ以上の策はないと云つて居る

◉中央市場設計成る

豫てから市營繕課の手で設計中だつた工費豫算十七萬六千圓の大阪市立境川公設市場は昨今漸く全部の設計を終つたので近日中に入札に附されることゝなつた、鐵筋コンクリート三階建で正面は簡易なるルネサンスといふこの種の建築としては新し味を出したもの、日本では小さいながらも他に類例を見ないと市場當局が誇るだけに氣の利いた建物である、建坪二百四十一坪、延べにすると七百二十三坪になる、內部は全部耐火構造とし斜面階段で三階まで苦もなく下駄で上れる、三階は開放店舖とし時には集會所にも充てる、二階一階は區劃店舖にする、階上は上屋休憩所として日蔭棚やベンチを設備して市場に買物に來た人々を憩せる、エレベーターも一ケ所冷藏庫代用の拔井戸も二ケ所設ける外に衛生設備の完全を期するために各階に水洗便所を設けることゝなつて居る境川市場と同時に鐵筋コンクリートに改築され又は新築さるゝ八ケ所の公設市場もそれ〴〵設計中であるが本庄市場だけは既に入札を終つて工事に着手して居る、明年三月頃までにこれ等の市場が完成すると全市二十七ケ所の公設市場中で耐火構造のものが十三ケ所になる豫定である

◉校舍の鐵筋建築

震災で燒失した市內百十七の小學校の本建築については今年から五ヶ年間に完成する方針の下に臨時建築局や學校建設課の手で設計を急ぎつゝあつたが敷地の決定したものから漸次工事に着手する筈で湯島、明石上六、神明、淺草、御徒町の各小學校は十月下旬、月島第二、深川、明治、今川、柳北、石濱、千束、坂本、中和、外手、橫川東陽は十二月何れも起工の豫定である、各小學校の工費は三十五萬圓で全部鐵筋混凝土三階建、耐震耐火の構造とし、屋上庭園にシャワーバスも附設するといへば數々バラックの校舍で苦しめられてゐた兒童もこれが完成の曉は愉快に課業に努しめむことが出來る譯である

◉罹災者の小住宅

東京市社會局では震災後、內務省から百萬圓の資金を交附されて市民のために小住宅を建設する事になつてゐたが、目下の所では月島の百八十八戶が九月八日に出來上るのみで、この外はまだ敷地さへ決定してゐない始末に近來大分非難の聲が高い、そこで當局では更に月島へ二百三十二戶を建設し(落成は十一月五日の見込み)猿江御料地の四百十戶も年末までに落成させる事とし、三の輪の百二十四戶、月島の第三期工事二百八十四戶、全部千五百戶を何れも年內に完成させるやう努力する事になつた、これは主として罹災者を居住させる計畫でこれに要する建築用材三十萬石は復興局が米國から取寄せるさ

◉東京の地下鐵道

東京市の交通機關の運輸能力が不足であることは戰時から戰後にわたつて市民が强く痛感したところであつた、でその結果民間から東京市街で地下鐵道敷設の特許出願四件に及び、いづれも認可された、その上東京市も民間地で鐵道會社の敷、豫定線とは全線別個の敷設特許線を出願して同じく認

可を受けた、しかるに戰後一般財界不振が影響していづれも資金調達難に陷り事業は直に着手することが出來ず、たゞ敷設特許權の延期保留のまゝとなつてゐた、その上昨年の震災は事業資金の調達を一層困難ならしめたが、一方交通機關は益々需要率を高めて來たので現在何等かの策をたてこれ等の特殊鐵道の敷設を實現せねばならぬことになつた、加ふるに鐵道省もこれ等の特殊鐵道の敷設を見ざる内は目下經營中の高架線の運輸能力限度が豫定年月より早く到來することゝなり尙進んで鐵道省が國家的使命を東京市の爲めに多くを費すは矛盾してゐるとの見地から先頃鐵道省から東京市及民間地下鐵道特許權所有者へ事業の遂行に關し慫慂するところがあつた、その結果東京市は新電氣局長の就任をまつて研究の上遲くも來る十月頃の市會へ參事會承諾案を基礎として提案し事業の進行を計ることに内定した、また民間特許權所有者も新鐵相の方針に從ひ事業の具體化を急ぐため最近資金調達を第一案として協議し政府へ援助方申込あるひは權利の賣付などそれ〳〵旗色を明かにせん目論見があると兎に角東京市の地下鐵道敷設についても近く進展の模樣が見えて來たのは注目すべきである

◉防火建築補助決定

復興局の立案に係る防火建築補助規定は本年一月以來内務省の參與官會議に於て審議中であつたが此程漸く決定を見るに至つたので近く省令として公布される筈であるが該規定が約半ケ年の長きに亘る迄決定されなかつたのは要するに補助割合の公平を期した爲めと他面二千萬圓といふ巨額の費用を處分する重大な問題であつたからであると云ふ

◉可動堰堤施設

都市衛生の上から見逃しが出來ないといふ理由の下に一昨年來の宿題だつた大阪市の枝川水利問題も過日の調査委員會でどうにか市の提案が認められたので市では岩田土木部長主査となつて目下類とプランを捻れくつてゐる、市の『案』は既報の通り堂島川（天滿堀川の下流）土佐堀川（中之島堀割下流）長堀川（木綿橋魯住友邸下）及び道頓堀川（大黒橋）の四ケ所に可動堰堤であるプリツチダムを築設するのであるがこの堰堤は四ケ所とも同一樣式のもので鐵製プリツチに桁板を着けチユーンによつて板を上下し流量と水勢の調節をとるのであつて南鄕の洗堰とは全く〳〵の構造を異にし晝間は明けツ放しにして置き夜間閉鎖して各枝川へ水を疏通させ一夜の中に枝川のゴミや汚水を綺麗に洗つて退けやうといふ仕組みであるがこの外土佐堀川筋中之島堀割にも一ケ所閘門を築くことになつてゐてこれも堰堤と同樣夜間のみ閉鎖することになつてゐる要するにこれ等の施設はいづれも船の航行に支障を與へないことを第一條件としたもので夜間でもモシ大船が來れば直に桁板を上げて航運が出來ることにしてある併し從來の河川交通調査によると午後八時以後大船の通航した例がなく又堰堤が潜ぐることが面倒とあれば枝川を迂回する迄のことで一般通船にも大した不便は與へない筈だといつてゐる市ではモウ一回調査委員會にかけた上市會で可決すれば愈々四ケ年の繼續事業として十四年度から施工すべく經費は一切一ケ務費を入れて二百十五六萬圓見當と見てゐるが從來の河川改修も本年度中に全部完成しこれと入替りにこの工事を始めるので從來支出し來つた年々の改修費を多少追加する位で優にこの方の財源が捻出し得られる筈で既に内務省の諒解をも得たのであると

◉同潤會の住宅敷地

財團法人同潤會本年度内に住宅三千三百戸中二百戸アパートメントを建設する豫定であるがその決定した敷地は次の通りである▲松井村岩淵町（三萬五千坪建設戸數六百戸）▲横濱市三ケ町一萬七千坪内新山下町七千餘坪に決定建設戸數六百戸▲子安、目黒、オギクボ、島村一萬七千坪）

◉煉瓦から菌を發見

濱松市濱松鐵道株式會社の濱名隧道の煉瓦

に六七寸大の白色を帶た菌が澤山ニキ〳〵と生えたのをこの程靜岡縣立蠶業學校長佐々木豐三郎氏が發見したがかつて見たことのない菌なので千葉高等園藝學校教諭の河村博士に鑑定を求めたが同博士は目下研究中であるが煎瓦に菌の發生するのはドイツなどではどうかすると見る事があるが日本には今日まで殆どない事であるさ

◉米國建築工費

各主要都市からの六月中建築報告書によると其の合計金額は二億六千三百八十四萬三千八百九十五弗と昨年六月の二億四千二百八十萬三百三十二弗に比し可成りの增加である、而して、本年一月より六月末現在迄の建築總累計は十七億七千六百八十二萬五千六百二弗と上半期記錄としては從來の何れをも凌駕して居る、今一九一四年後各上半期の米國建築高を表示すると左の如くである。

一九二四	一、七七六、八二五、六〇二弗
一九二三	一、六五二、七四〇、七八一
一九二二	一、二四六、八四四、二〇九
一九二一	七一〇、四三八、九八八
一九二〇	八三三、一四九、〇六五
一九一九	四四二、一八二、九四五
一九一八	二四三、四三〇、二五〇
一九一七	四二二、三四〇、九四三
一九一六	五〇九、一七二、六〇五
一九一五	三八九、三一〇、二〇一
一九一四	四四四、一五四、三七五

◉今後の大阪區制

大阪市の接近町村編入地域は府市協定案通り多分決定するものさせられて居るが次いで起るものは增區に關する問題で、之れに就ては近く行はるゝ衆議院議員の別表改正と相俟て徐ろに方針を決するを可とするも府市會議員の選擧にも亦重大なる關係を有し一朝その方法を過る時は大なる政治問題となる虞があるから市當局は愼重なる考慮を拂ひつゝあるが今その意見を綜合するに先づ『無理』をせずに『自然』に解決すると云ふ事を以て第一義となせるが如く、此の主義に基いて考察する時は舊市現在の四區はその儘として新に編入せらるゝ新市を東、西兩成の郡を基礎として二區を新設するか又は地理的關係に鑑みて、三區となすかの二方法があるが、郡を基礎として一郡一區とする事は一見舊の儘に置かれて事を手輕に決し得べきが如きも、郡役所と區役所は性質を異にし町村役場の事務が一切區に移る事なれば、國民との接觸が頻繁を極むる事を顧念する必要ありされば、西區の如く舊大阪市を挾んで南北に隔絕せる郡は何れかの一方が非常なる不便を來す事になる故に西成に於ては北部淀川沿岸の町村を中心として一區を置き南部の今宮、津守、玉出粉濱等の諸町村は東成郡の天王寺附近の町村と合して之を中心に一區を設け更に東部鶴橋、中本等を中心とする諸町村を以て一區を編成する事が交通機關の發達せざる接近町村の爲めに最も當を得たるものにあらずやと思惟されて居る模樣である、斯くて區役所を二と三にする事は經費の相違も考慮せざる可からざるが如きも區役所を多くすれば、その出張所數を減じ得るが故に却つて此の方が經費節減の趣旨に適合すると稱して居るから或は同問題も此の邊に落ち付くのではあるまいかと推測されて居る

◉耐火建築用石材

將來建造される建物は耐震耐火的のものさせねばならぬが復興計畫によつて特に防火地區が設定され保安防火の立場から住宅區域商業區域工業區域の別によつて夫々その建造さるべき土地と建坪の比率も定められ將來の災害に備へる事になつてゐるが同時に建築材料の選擇は更に必要な問題で復興局では補助金を支出し之を助長することに決した一方復興局でも各建築材料商方面でも研究中であつたが東京府立工業試驗所では特に留意し全國から建築材料を蒐集し愼重な試驗を重ねてゐるが、理想的石材として福島縣のかぶと石、群馬縣のやはた石、宮城縣のぴしき石、栃木縣のふじはら石、福島縣のひので石等の五種を以て最も優れたものと認定し復興局とも謀り一般に發表する事になつた、之に就て府工業試驗所では『防火材料としての石材の選定は却々六

つかしい第一要件としては重量の輕い事、加工し易い事、その上安價で風雨の抵抗力があつてしかも耐火的であるものでなければならない、以上のものは大體その要件にかなつてゐると思ふ」と

◉接續町村編入

大阪市の接續町村編入區域は未だ公表さるゝには至らないが、府市協定の結果既報の如く東西兩成郡全部町村を編入することに決定したことは明かにして即ち面積約四十二平方哩人口約五十萬人（大正十年調査）が新に大阪市に編入さるゝことゝなるのであるが、編入の曉に於ける議員の選擧區並に議員定員の關係に就ては衆議院議員選擧區の更改は幸ひ政府に於て目下選擧法改正準備中に屬し來る議會に於て別表の改正をも行ふべき筈となつてゐるから此際一擧に改正を行ふべき便宜を有し府は此問題を全然內務省に一任する方針であるが府會議員の市郡定員の更正に就ては現行制度に於て市部定員二十八名郡部定員三十名であるが西成東成兩郡が市に編入さるゝことゝなれば市部郡部定員の決定は人口を標準として行はれるものであるから、大體に於て兩郡選出の議員十一名は擧げて市部に屬すべきものと見て間違ひがないから其結果府會議員市郡の定員に大異動を來し即ち市部三十九名郡部十九名となり其相互勢力の上に大變化を來し議決機行使の上に公平を期することの困難なるべき恐れがある、のみならず府經濟の關係に於ても編入後は其富力に於て其負擔力に於て市部と郡部とは格段の相違を來し郡部經濟の衰頽著るしきものがあるであらう等の關係に基いて當然歸着すべき點は現行府經濟及府會の三部制維持の困難寧ろ不都合と云ふことで、此問題に關しては中川知事より豫て非公式に內務當局に意見を具陳する所があり內務省に於ても之を諒としつゝありとの事である、次に明年四月一日に編入を實施する方針であるから、それより以前に行はるゝ筈の町村會議員選擧を如何に措置するかと云ふに現に鯰江町の如きは來年一月中に選擧を執行すべき筈でありこれを最初として漸次各町村に於て執行すべきことなつてゐるが、府としては大體此等の選擧は總て延期の手續きを執る方針でこの種の場合に於ける選擧執行の延期は既に先例があるから決して不可能ではないと觀られてゐる尙編入後市の增區問題も直に解決を要すべきものとして殘されて居り府當局に於ても既に之れに關して考慮を費して居る、而して編入に就ての今後の手續きは府から關係市町村會の意見を徵し且つ府參事會の議決を經て內務大臣の許可を得然る上之を告示すべきことゝなつてゐるが正式に內務大臣に許可を申請する前に非公式に內定案に對して內務省の承認を求むべきことが妥當なりとして此手續が通牒を以て要求されてゐるので白松地方課長は二十六日出發上京二十七日東京に於て加賀美內務參與官と共に內務省に赴き區域案に對する內務當局の承認を求むる筈である、府當局としては更に內務省の承認を經たる上、正式に諮問を發する前市當局と關係町村當局とを府に招致して隔意なき意見の交換を行はしめ若し町村側から編入に對する希望等があらば豫め之を披瀝せしめて正式の諮問及び答申の手續に於て滯滯或は支障の生ぜざらんことを期する方針である

新刊紹介

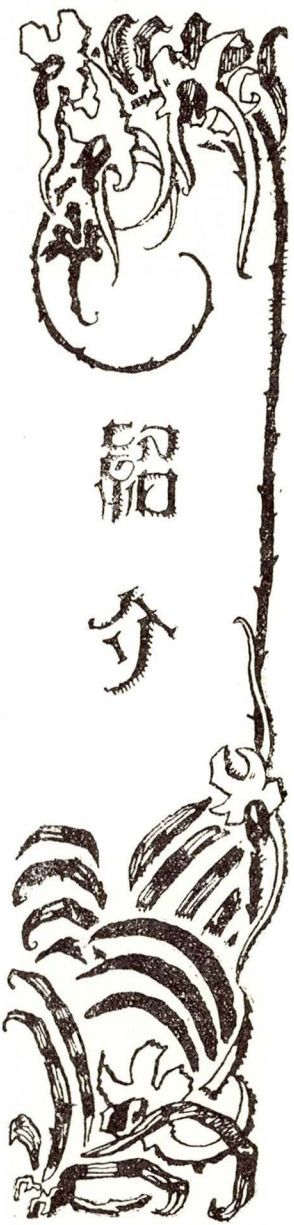
改正 大阪府建築法規類集

大阪府建築課長　池田實　氏校閱
大阪府建築監督官補　池田谷久吉氏編

大阪市南區難波元町五丁目三五九三番地
建築法規刊行會發行

定價參圓

大阪府建築法規といふもその內容は建築に關する一般實體法と手續法の凡ゆるものを收めそれと關聯して大阪府の建築法規を網羅したものであつて全體を建築、都市計畫、工場、保安、衛生、雜の六章（六編）に分ちて內容の充實、編纂の順序、體裁、印刷など近來出色のものである。

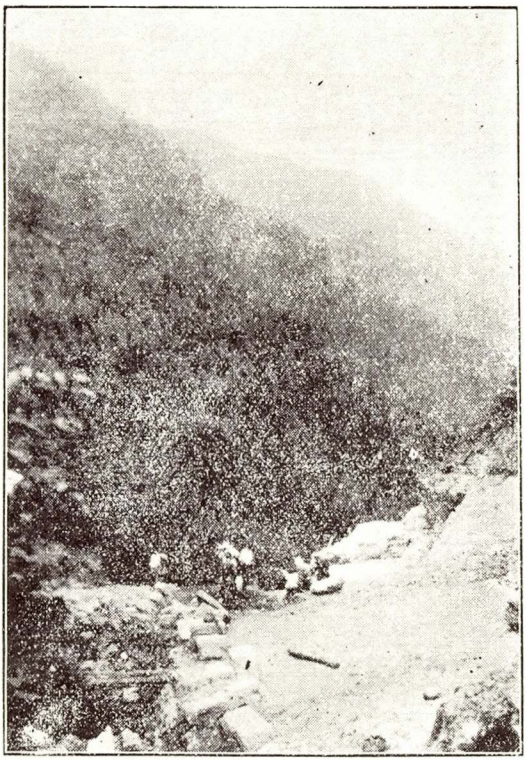


マーブル大岩山發見

日本の内地で大理石の産出地は、岐阜、秋田、德島、山口、其の他小さい産地を擧ぐれば隨分とあるが、その中に在つて、近年鳥取地方で發見された大理石山は、その礦量の雄大なるか、所謂蛇紋岩に屬する樣三種の特色ある色彩を有つてゐることゝ、構成の偉大にして大材を産することに於て恐らくは無比のものである。殊に、品質の優良にして、色彩の優美鮮明なることゝ同一産地に於て三種の各色彩を異にするものを産じ、それが整然たる成層狀態に在りて、隨所に石材を選擇し得るに於て最も誇りとするに足る。その石材の實起部分だけでも、推定礦量壹千萬才を下らないといふに到つては、我マーブル産出量に於て大に意を強ふするに足る。

産地は鳥取縣八頭郡若櫻町字赤松で、播但國道の咽喉であつて山陰線因但鐵道郡家驛を經て但馬八鹿驛に到る沿線に當るから、運搬も餘程便利である。

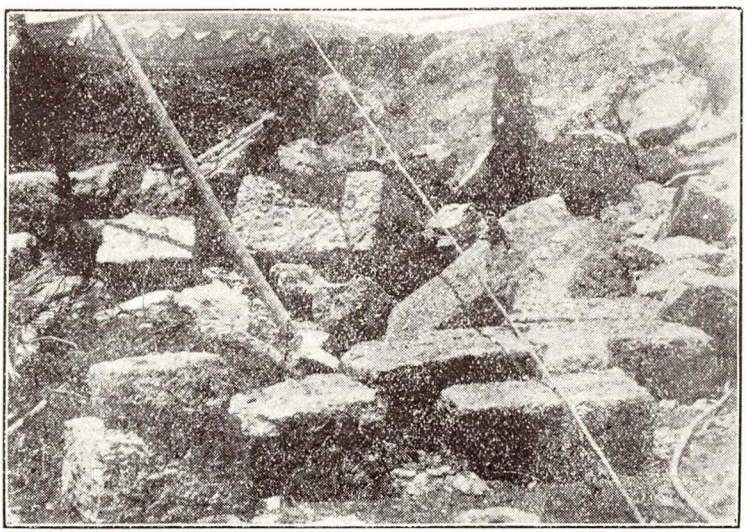
因に記者の屢知細木工學博士が、往年その地を踏檢して、具さに調査された調書の概要を寄せられたから、參考までに左に併記する。



鳥取縣八頭郡若櫻町部内に在る大理石（學名紋蛇岩）の産地を實視したるに未だ積雪の殘留せるもの多きを以て充分精査を爲すこと能はざりしと雖も其雪なき所に露出せる部分を調査し得たる所より推定すれば礦量豊富にして其質亦可なり特に色彩の優美なること他に其比を見ず由來本邦蛇紋岩を産する所なきにあらずと雖も予の寡聞未だ建築石材として盛んに切出すものあるを耳にせず現今洋風建築の漸く隆盛ならんとする時に際し本石材の切出は蓋し有望なる事業なりと信ず

大正十二年二月二十七日

工學博士　細木松之介



尙は大阪市北區芝田町一〇六旭大理石商會の採礦販賣に係るものにして、既に東京の復興建築材料にも比較的多量の註文を受けたるものことである。

役員及職員

副會頭　片岡安
理事長　理事　池田寶
主記　理事　中澤誠一郎
同　理事　今林彦太郎
主計　理事　中村琢治郎
同　理事　松本禹象
編輯　理事　佐藤彰美
同　理事　本多二郎
同　理事　伊藤正文
同　理事　田中綱
同　理事　谷口廉兒

編輯係　江村郊邨　鷺取陽
庶務係　西谷節　鷺取陽
會計係　田村春松　大和榮衛

會員	三六一
名譽賛助員	八四
特別賛助員	三一
合計（八月二十日現在）	一二〇一
會員（地方）	一四八
終身賛助員	五七
普通賛助員	五二〇

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十三年八月廿八日印刷
大正十三年九月一日發行
（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷所　大阪活版所
大阪市北區堂島濱通二丁目一番地
堂島ビルヂング
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
發賣所　約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

日本建築協會々報

日本建築協會々則

第一條 本會ハ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條 本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條 本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク
地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條 本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス
會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス
會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第五條 本會ハ其ノ目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス
贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス
一 名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家
二 終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家
三 特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家
四 普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者
贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條 名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス
終身贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス
特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス
普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員一名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條 會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

第八條 會員ハ會內ニ於ケル其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得
名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク
終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第九條 會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ
前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條 脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス
前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一 會頭 一名
二 副會頭 一名
三 理事長 一名
四 理事 十名（理事長ヲル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス
理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但シ會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得
理事長ハ理事之ヲ互選ス
役員ノ任期ハ二年トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス
理事ノ改選ハ每年數ト但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク
一 主記 二名
二 主計 二名
三 編輯 五名
四 書記 若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

第十四條 主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

第十五條 本會ハ會則ノ改正ニ關スル事項ヲ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク
委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス
理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨時委員トナスコトヲ得

第十六條 委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員ノ決議ニ依リ委員其ノ他ヲシテ代理ス
委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス
委員會ハ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條 本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スヘシ但シ理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得
例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但シ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 本會ハ每秋二季大會ヲ開行ス

第十九條 本會ノ行ノ事業左ノ如シ
建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
調査研究報告ノ發表
建築ニ關スル重要事項ノ諫決
決議事項ノ實行促進
會誌ノ發刊
建築ニ關スル圖書ノ刊行
建築ニ關スル講演會ノ開催
建築ニ關スル展覽會ノ公開
建築ニ關スル視察
建築ニ關スル有志者ノ親睦會
理想的建築ノ計畫
其ノ他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條 會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス但シ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス
一時ニ金五百圓以上ヲ出ストキハ終身會員トス
會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ
特別贊助員ハ特別贊助費年額金拾貳圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓本會ニ前納スヘシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條 本會ノ經費ハ會費及入會金寄附金贊助費其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條 本會ノ財產積立義務及每月ノ收支ハ主計其ノ計算ヲ以テ之ヲ整理シ理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立義務及每年ノ收支ハ理事會其ノ決算書ヲ以テ每年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條 本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ムルヲ得

第二十四條 本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



會報

一、當協會發行の雜誌「建築と社會」は、時世の進展に伴ひ、内容外觀共に堅實なる發達を遂げ來りまして、今や我國に於ける斯の種刊行物としては、當に第一位に在ることの自他共に相容すに到りましたことは、會員各位と倶に同慶の到りに存じます。就いては益々斯の機運に隨調するため諸種の案件を有つて居りますが、先づ以て、取り敢へず、本誌を來る大正十四年一月號より四六倍版に改定し、茲に更めて躍進の第一歩を附けむと致して居ります。仍てそれに相當する表紙圖案を弘く募集することに致しましたから、別記御熟覽の上御應募被下いますやうお願ひ致します。

「建築と社會」表紙圖案懸賞募集規程

(一)題字　建築と社會、第八輯第壹號(一月號)日本建築協會、大正十四年一月一日ト適當ニ配列記載スルコト(從來「建築ト社會」の「ト」を「と」に改む)

(二)寸法　四六倍版　竪二五糎(日本尺約八寸二分五厘)　横一九糎(同約六寸二分七厘)

(三)着色　二色(紙地色ノ外)

(四)圖面　原圖紙ヲ用ヒ、現寸トス

(五)意匠　隨意ナルモ、本誌ノ特質ヲ表現スルニ足ルモノトス

(六)賞金　一等一人壹百圓、二等一人五拾圓、三等二人貳拾圓ツヽ

(七)期日　本年十月三十一日午後五時迄ニ當事務所へ到達スルヲ要ス、但シ郵便逓附ノモノハ同日發送ノ消印アルモノニ限リ審査ヲ始マデ受附ク

(八)版權　當選セル圖案ノ版權ハ當協會ノ所有トス

(九)審査　當協會ノ理事會ガ依囑シタル特別審査員ノ合議ニ依リテ當選ヲ決ス

(十)符號　圖面ニハ適當ノ符號ヲ附シ別ニ符號住所及氏名ヲ記入セル半紙四ツ切リノモノヲ封書ニテ差出スコト

(十一)發表　審査ノ結果ハ當協會大正十三年十二月例會ニ於テ發表シ賞金ヲ授與ス

(十二)圖案　應募シタル圖案ハ返却セズ

一、昨年九月關東地方大震災に際し我協會は協會員より義捐金を募集し日本建築協會有志百三十一名の名義を以て大阪府經由寄附致しましたに付て今回大阪府知事より左の傳達書と震災被害並救護施設の概況なる册子との送附がありました、大正十三年六月六日内閣總理大臣より客年九月一日關東地方に於ける大震災に際し地方の各種團體及篤志者が所在同胞相愛の至情を發揮し救護に貢獻せられ官公の施設と相俟ちて克く災後の措置を怠ら

ず今や着々として罹災地方復興の促進を見るに至りたるは衷心感謝に禁へざる旨通牒有之候に付茲に右趣旨を傳達候也

大正十三年七月　日

大阪府知事　中川　望

日本建築協會有志殿

一、今回全國煉瓦製造業者聯合會總代の名を以て左の陳情書を當路へ提出したる旨大阪府下煉瓦製造業組合から移牒ありました爲參考登載致します

拜啓

大正十二年九月一日關東大震火災の教訓に鑒み今回內務省復興局に於て市街地建築物法施行令御改訂の議有之候由至極機宜の御措置に有之尙ほ右御改訂案中煉瓦造に關する條目特に峻嚴なるも亦或程度迄無據御處置と存候得共只煉瓦造の高を參拾尺以下に限定して何等除外取扱の條規なきやに聞及候處斯くては煉瓦を用ひて耐震的建築を考へんとする技術的進路を塞き我邦重要なる粘土工業の發達を阻害すべき重大問題と相成可申と痛感致候に付過般來關東、關西同業者相會して協議し下名等其代表委員に選ばれ政府當路各位に陳情し尙ほ內務大臣、復興局長官都市計畫局長官各位に別紙の如き陳情書を提出し御詮議を相願置候次第に有之候處本件は建築の根底に觸るゝ重要問題と相考候に付此際我邦建築界に深甚なる關係を有せらるゝ各位に公正なる御批判を仰き煉瓦を活用して安全なる耐震構造法の御研究御示教を煩はし社會の福利增進と我煉瓦產業の堅實なる發達とに對し何分の御指導御援助を賜はり度悃願此事に御座候

陳情書

昨秋關東の大震火災の教訓に基き今回貴廳に於て市街地建築物法諸令改訂の御內議有之候由至極機宜の御處置と拜察致候處仄聞する處に依れば右御改訂諸條項の中煉瓦造の高きを軒高三十尺と限定し何等特別の除外取扱の餘地を存ぜざる趣斯くては我國煉瓦建築構造法の進歩の途を塞ぎ延て農村開發に緊密の關係ある粘土工業の衰亡を招來すべき一大問題と相成る可き惧有之候間煉瓦構造と雖も適當に鐵筋挿入其他の補强法を施せる場合には特別の除外條項を設定せられ度茲に關東關西各煉瓦同業者の決議により謹で陳情仕候也

大正十三年五月五日

關東煉瓦製造業者總代

關西（四國九州北陸を含む）煉瓦製造業者總代

內務大臣　水野錬太郎殿

內務省都市計畫局長　堀切善次郎殿

復興局長官　直木倫太郎殿

一、名譽賛助員安藤謙介氏は本年七月三十日逝去せられ洵に痛悼に堪へません本協會よりは弔狀を送り哀悼の意を表しました

一、左記協會員の現住所或は勤務先御存じの方は本協會事務所へお知らせを願ます

尙ほ　鈴置良一氏――御住所を當協會編輯係まで御知らせ被下い

會員高堂德治

地方會員內藤益二、鮫中一良、廣瀨忠

特別賛助員今井完造

普通賛助員伊東武夫、石津三吉、戶山音次郎

地福勇吉、太田四郎、渡部三郎、若林俊一

吉田榮次郎、吉本新之助、田代正熊、植松與右衛門、野々山政金、久保豐、矢田部喜平、政安熊市、小林久之助、櫃藤洗二、鴻上佐藏、足立彌一郎、青木立三、酒井紋之助、坂根秋光、小枝實、清原佐市、木越誠二郎、茂木清太郎、檜山一男、江藤猛夫

會合

○例會（笠置納涼會）

△日時　七月二十七日午後五時――八時

△會場　笠置館大廣間（京都府相樂郡笠置村）

△出席者　會員池田谷久吉、岩尾安衛、富田宗七、近澤武男、小川安一郎、岡本新次郎、奥野時三、金治雄盛、大工庄七郎、竹谷德

治郎、長田岩次郎、中川嗣八、永山三次郎、野村敬一、福澤谷藏、小西一良、油谷清次、荒川實直、阪井米吉、木村喜代松、宮崎治三吉、久樹廉一、森西龍太郎、波江悌夫、理事長池田實

理事中澤誠一郎、中村琢治郎、本多二郎、伊藤正文、

書記西谷節、大和榮衛、鷹取陽

△記事　一、本月例會は炎暑の折柄に付納涼會を催すの議理事會に於て起り協議の結果可決し地を笠置に卜し中村、伊藤兩理事を臨時委員として諸種の計畫を立て納涼會開催通知は發せられたり

一、當日正午前より三々五々笠置山麓笠置館に來會するもの計二十九名到着直に浴衣に着換へ各自隨意に同館溫泉に汗を流し大廣間に涼をとりつゝ碁將棋を圍むもの畫筆を弄するもの或は杖を笠置山に曳き舊蹟を偲ぶもの又は木津川にボートを浮べ水泳をなすもの何れも意の儘に一日の清遊を試み午後五時を俟つ

一、定刻五時同館大廣間に集合着席し池田理事長より簡單なる一場の挨拶ありて開宴木津の校者八九名酒間に斡旋し宴酣になるに從ひ各自自慢の秘藝大會となり獻酬交歡快談縱橫歡を盡して時の移るを知らず全員大滿足の裡に午後八時散會を告げ者線により歸途につく

（七月例會參加記參照）

○敎化委員會

△日時　八月六日午後五時三十分——十時

△會場　本協會會議室

△出席者　委員長古宇田實

委員小笠原朗、野呂長四郎、姫野武

△議事　一、建築職工敎化に關し大體の具體案に付協議決定す

一、建築業協會委員との聯合協議會開催に付協議

一、次回委員會開催日に付協議し聯合協議會以前に開會のことに決定

○理事會

△日時　八月八日午後五時三十分——九時

△會場　本協會會議室

△出席者　理事長池田實

理事今林彦太郎、中村琢治郎、本多二郎伊藤正文、谷口龍兒

△議事　一、關東震火災視察記出版に關する件出版部數及印刷所等決定

二、物品購入取扱に關する件

物品購入取扱規程決定來る九月一日より實施のことに可決

三、會誌を四六倍版となすの件

可決明年一月より實施の豫定

四、會誌表紙更新に關する件

懸賞募集により選定することに決定

五、會誌を月二回發行となすの件保留

六、寫眞機械購入の件可決

七、神戸高等工業學校へ物品貸與に關する件可決

八、震災一週年記念號發行に關する件可決

九、職員暑中休暇給與に關する件可決

一〇、會員銓衡

○新入會員及賛助員

會員の部

高松　壽君　大阪市西區鶴町二丁目五四地

山田　稔君　大阪市西區大正通二丁目一〇五地

秋吉　茂藏君　大阪市西區江戸堀南通一丁目二三地

佐々木莊一君　大阪市西區鶴町一丁目第四區五號

地方會員の部

松井　宗一君　東京市外澁谷町下澁谷一七九九

普通賛助員の部

森本　勝藏君　南河內郡柏原町下町七〇〇

金治盛雄方

清原　勝君　南河內郡柏原町下町七〇〇

金治盛雄方

間瀨　昇吉君　東成郡天王寺村天王寺六〇九一

岡本　文之君　南河內郡柏原町

○退會賛助員

普通賛助員杉本保一君

○死去賛助員

名譽賛助員安藤謙介君　大正十三年七月三十日逝去

○住所勤務先異動

會員の部

高橋　築治君　大阪市外天王村寺金塚（洋行中の處歸朝）
松江　秀季君　京都市上京區北野白梅町三一（衣笠園）
薫澤　浩君　大阪市西區江戸堀上通一丁目日本海上ビルヂング大林組
吉井　長七君　兵庫縣武庫郡精道村字芦屋辰新田九六三地ノ三
岩崎甚太郎君　神戸市長田村寺池谷一六〇
佐藤　節夫君　奈良市北市町一七

地方會員之部

内藤　榮君　熊本縣熊本市藥園町四六
川崎　鐵三君　福井市日ノ出中町二九地
大橋　精一君　東京府下巣鴨宮仲二五七〇
青田　忠時君　滋賀縣大津市觀音寺町五三
雜波　停吉君　東京市牛込區市谷富久町六〇地
江畑幸太郎君　東京市小石川區丸山町二〇
小泉甚一郎君　石川縣石川郡鶴來町白山水力會社々宅
阪東　義三君　東京市芝區芝公園一四地特別賛助員之部
仙田　大一君　大阪市東區淡路町二丁目中澤商事株式會社
岩本　勝君　東京市京橋區山下町一インターナショナルセメントガン會社
篠原　武君　大阪市北區澁上江町一丁目尊通賛助員之部
中川　將君　高岡市外下關村高岡高等商二一番地
業學校敷地支部省建築課高岡出張所
若山　眞一君　京都市東堀川通御池南入
松宮　幸輝君　大阪市北區肥後橋詰大同生命保險會社建築場竹中工務店出張所
小西　武雄君　京都府宇治郡山科村鐘紡絹布工場大岩組出張所
福見　亮爾君　福井市月見町日本赤十字社福井支部病院建築場清水組作業場
桑田誠一郎君　東京市本所區横綱町一ノ二
○日本大學中學校建築場
森　泰治君　東京市外西大久保二七五
片岡　長參君　大阪市西區田中町七一ノ三九
棚橋仁三郎君　新潟縣西蒲原郡月潟村
中山伊勢市君　名古屋市中區南長巳町一〇三西川方
神戸　又七君　東京府下千駄ヶ谷九二九
井堀　秀美君　大分縣西國東郡吳崎村石垣内

寄贈圖書

住宅研究　七月號　文化建築社
滿洲建築協會雜誌　七號　同協會
工業評論　七號　同社
工業ノ大日本　七號　工業ノ日本社
電氣評論　八月號　同社
人と人　八號　協調會
都會　第八光　都人社
報　第十七號　名古屋工業會
榮ある生活　八號　文化創設會
學士會月報　四三六號　學士會
建築世界　八號　建築世界社
朝鮮鐵道協會報　七月號　同協會
郊外生活　二號　郊外生活社
日本美術協會報告　十四輯　日本美術協會
大阪實業　一號　大阪實業協會
生活改善　二〇號　生活改善同盟會
建築の普及　八月號　帝國工業教育會
朝鮮と建築　六月號　朝鮮建築會
工業之友　第一九六號　工手學校同窓會
無線電話　八月號　日本無線電話普及會
セメント界　日本ポートランドセメント界彙報第九六號　日本ポートランドセメント同業會
建築畫報　八號　同社
住宅改良會　八號　住宅
庭園　七號　同會
建築雜誌　七月號　建築學會
工政　第五六號　工政會
改正大阪府建築法規類集全　池田谷久吉
中央建築　八月號　中央建築社
滿洲技術協會誌　二號　同協會

●第七集第九号　掲載広告一覧（掲載順）

岩住金庫鉄工所
日本エレベーター製造
大野正営業所
飾磨化学工業
浅野スレート販売
政正
金属建材工作所
特許エレベーター製作所
二和商会
南満鉱業大阪出張所
宇野耐火煉瓦
原田商会
福田製作所
石綿スレート
西孫南店
油脂化工社
山本東作商店

田村商会
建築金物商会
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所
大平工業所
井筒政蔵商店
日本ホロタイル
鈴木商店
青木浦石材
柳生電機製作所
湯浅蓄電池製造
ベニス工房
木下商店
野沢幸三郎商店
森川組

田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所

安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
増田清建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組

中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木正一
正木工務店
岡本工務店
鴻池組営業所
有山組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所

矢橋大理石商店
須賀商会
大理石工業
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
日本木材工芸
高島屋呉服店
コルク工業
城口汚水処理研究所大阪支店
阿部鉄工所
浜口商店
岩崎商業
小野田セメント製造

日本建築紙工大阪出張所
高田商会
関西ステインド硝子製作所
セール、フレザー
サカイブン建築鉄工所
川崎工場
桐田商会
東京建鉄
大阪耐火リノリウム工業
日本工剤
内外土木建築材料
日本耐火スレート
日米板硝子
岡部商会
河村青写真調製所
南満州鉄道東京支店
田中源太郎商店
極東板硝子工業